

No.	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
6	弥生甕	—×5.20×(13.0) 輪積 外面 頸部—輪積痕1段残存 胴部—ナデ後一部ヘラミガキ 内面 ナデ後一部ヘラミガキ 頸部—輪積痕をもつ 底部—緩い上げ底 胴部—中央部に膨らみをもつ	明橙褐 軟	普 砂粒多	1/4	外面一部スス附着
7	弥生甕	—×(9.00)×(18.6) 輪積 外面 ナデ 内外面とも器面の剥離が多くみられる 内面 ナデ 胴部—輪積痕を利用した段が1段みられる	暗赤褐 普	普 砂粒少	1/4	内面下部にスス附着
8	弥生甕	(19.0)×—×(10.8) 外面 口唇—押上 口縁—頸部—ナデ 下端—刻み目 胴部—ナデ 内面 口縁—頸部—ナデ 胴部—ヘラケズリ 口縁—外反 頸部—有段(下端に刻み目) 胴部—上半が膨らむ	明橙褐 普	普 砂粒少	1/4	輪積
9	弥生甕	—×—×(10.3) 輪積 外面 頸部—ナデ 胴部—結節5段→付加条縄文 内面 器面の剥離が著しく不明 胴部—中央部に膨らみをもつ	赤褐 普	普 砂粒多	1/4 以下	黒斑有 外面一部スス附着
10	弥生甕	—×—×(14.2) 外面 頸部—ナデ 胴部—付加条縄文 内面 ナデ	暗褐 普	普 砂粒多	1/4 以下 胴部	
11	弥生壺	—×5.50×(6.00) 外面 ヘラナデ後ヘラミガキ 内面 ヘラナデ後ミガキと思われるが、器面磨耗のためはつきりしない 底部—上底高台状の部位に側面よりの焼成前の穿孔2ヶ所有	褐 普	普 砂粒多 小石微	1/4 以下	胴～底部遺存 黒斑有
12	弥生壺	—×8.50×(6.00) 輪積 外面 ナデ後ヘラミガキ(ハケ状工具でのナデと思われる) 内面 器面磨耗のため不明 底部—平底 磨耗著しい	明橙褐 普	普 砂粒多	1/4 以下	
13	弥生甕	23.0×—×(8.20) 輪積 外面 口唇上—押圧 折り返し部—ナデ 頸部—ナデ 内面 ナデ 口縁—外反・折り返し 頸部—ゆるい「く」の字状	橙褐 軟	普 砂粒少	1/4 以下	
14	弥生壺	—×—×(9.00) 輪積 外面 ヘラミガキ→沈線→網目状燃糸文 内面 器面磨耗のため残存一部 横位のヘラミガキか?	明橙褐 普	普 粗砂粒多	1/4 以下 頸部	
15	弥生壺	—×—×10.7 輪積 外面 ヘラミガキ→結節6段→R L単節縄文 内面 ヘラケズリ 頸部—長頸	明橙褐 普	粗 粗砂粒多	1/4 以下 頸部	
16	弥生壺	—×—×(12.0) 輪積 外面 羽状縄文(L R→R L)→網目状燃糸文→ヘラミガキ 内面 器面磨耗のため不明 内外面とも器面の磨耗が著しい	橙褐 普	粗 粗砂粒多	1/4 以下 頸部	
17	弥生甕	—×—×(3.30) 外面 櫛描横走文→付加条縄文 内面 輪積痕	明橙褐 普	普 粗砂粒多	1/4 以下 頸部	
18	弥生蓋	蓋径15.1×つまみ径4.50 輪積 口唇部—R L単節縄文施文 外面 つまみ部—ヘラケズリ 体部—ナデ後ヘラミガキ 蓋口縁部—ナデ後ヘラミガキ 内面 つまみ部—ヘラケズリ 体部—ヘラミガキ	橙褐 普	普 砂粒多	完形	折り返し口縁
19	弥生蓋	つまみ径4.20×器高(4.00) 輪積 テツクネ 外面 つまみ部—ヘラケズリ後ナデ 体部—ナデ 厚手で雑な作り 内面 つまみ部—ヘラケズリ 体部—ナデ	暗褐 普	普 砂粒多	1/4 以下	つまみ部破片遺存
20	弥生蓋	つまみ径3.20×器高(2.90) 輪積 テツクネ 外面 つまみ部—ヘラケズリ後ヘラミガキ 体部—ナデ後ヘラミガキ 内面 つまみ部—ヘラケズリ後ナデ 体部—ナデ後ヘラミガキ	褐 普	粗 砂粒多	1/4 以下	
21	弥生高坏(脚部)	—×(7.30)×(4.90) 輪積 外面 ヘラケズリ後ヘラミガキ 下端—ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 ヘラケズリ後ナデ 脚部—「ハ」の字状 高坏の脚部	暗赤褐 普	普 砂粒少	1/4 以下 脚部片	
22	弥生甕	—×(6.20)×(1.40) 輪積 外面 ナデ 内面 ナデ 底部—中心部に凹み有 木葉痕	暗赤褐 普	普 砂粒多	底部 破片	

23	剥片	4.10×2.30×厚さ0.50 5.1g 縦長剥片。側縁の一部に二次加工痕をもつ いわゆるリタッチド・フレイクである				母石一砂岩
24	石製品	29.8×22.0×7.60 5380g 大型の石皿(砥石) 1/3ほどを欠くが全面に良好な研磨痕を残し、平滑。一部は大きく凹む				砥石
25	石製品	4.90×11.6×5.30 13.9g 大型の軽石製品。もともとは大きな円形ないし楕円形を呈していたものと思われる。一面に研磨による明瞭な平坦面をもつ				軽石
26	石製品	2.40×2.20×1.30 1.1g 小型の軽石製品。弱い研磨痕が見られる他は、明瞭な加工痕は見られない				軽石
27	石製品	2.90×2.10×1.50 1.5g 小型の軽石製品。弱い研磨痕が見られる他は、明瞭な加工痕は見られない				軽石
28	石製品	2.80×1.80×0.80 1.3g 小型の軽石製品。長楕円形を呈し全体に磨痕が見られる				軽石
29	石製品	1.80×1.90×1.20 0.8g 小型の軽石製品。弱い磨痕をもち一側面が凹む				軽石
30	石製品	2.20×1.40×0.80 0.5g 小型の軽石製品?明瞭な加工痕は見られない				軽石
31	石製品	1.70×1.60×0.80 0.6g 小型の軽石製品。弱い磨痕が見られる他は、明瞭な加工痕は見られない				軽石
32	石製品	1.70×1.60×1.20 0.8g 小型の軽石製品。弱い磨痕が見られる他は、明瞭な加工痕は見られない				軽石
33	石製品	1.60×1.10×0.90 0.4g 小型の軽石製品?明瞭な加工痕は見られない				軽石?
34	石製品	1.90×1.50×0.60 0.5g 小型の軽石製品?明瞭な加工痕は見られない				軽石
35	石製品	2.30×2.30×0.70 2.2g 小型の軽石製品。一面に直交する二列の小さな刻みが見られるが、全体の形状は不安定である				軽石
36	石製品	2.70×1.80×0.80 2.1g 小型の軽石製品。弱い磨痕が見られる他は、明瞭な加工痕は見られない				軽石
37	石製品	2.00×1.60×1.40 2.4g 小型の軽石製品?明瞭な加工痕は見られない				軽石

## A082

遺 構 ロームの床であるが全体的に軟弱である。壁はロームの壁ではほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に12層に分層。自然堆積による埋没が想定される

遺 物 覆土中から床面直上にかけて少量出土した。

所 見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。南関東系の土器と印手系土器が共伴する住居跡で、南関東系の土器の比率がやや高い。本遺跡では、小型の住居跡に属する。

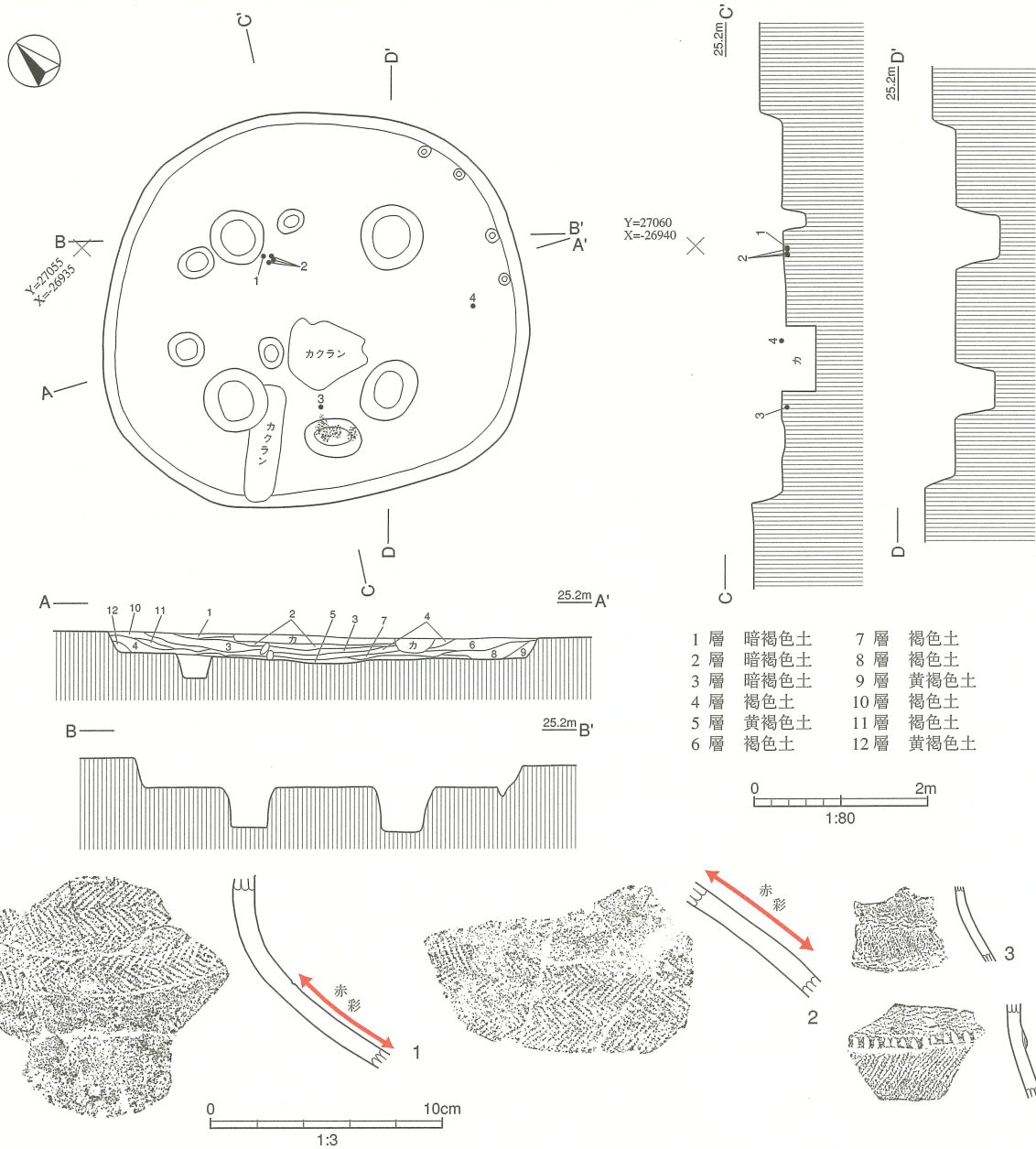


図89 A082

表35 A082遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生壺	外面 頸部-上下を沈線で区画 区画内-L R+R L+L R+R Lの羽状縄文 胴部-ヘラミガキ 内面 器面剥離のため不明 輪積	明橙褐 普	粗 砂粒少	1/4 以下	頸~胴部片 赤彩 大型壺
2	弥生壺	外面 ヘラミガキ→羽状縄文 ※羽状縄文は沈線により区画されていた可能性があるが、残存していないので不明 内面 器面剥離・磨耗のため不明 輪積	橙褐 普	粗 粗砂粒多	1/4 以下 胴部片	器面剥離著しい 赤彩 A082-1と同一?
3	弥生甕	輪積 外面 頸部-結節(残存)2段+3段→斜格子目文→結節3段 内面 ナデ	橙褐 普	普 砂粒少	1/4 以下	
4	弥生甕	外面 結節3段→粘土帯貼付の上、ハケ状工具による刻み目→付加条 縄文 内面 ナデ	暗赤褐 普	普 砂粒多	1/4 以下 胴部片	

A083

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は部分的に検出された。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に14層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺物 床面直上の住居跡北側で土器が比較的多く出土した。(1)は蓋形土器の一部で床面直上での出土であった。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。印手系の住居跡と考えられ、本遺跡では、小型の住居跡に属する。

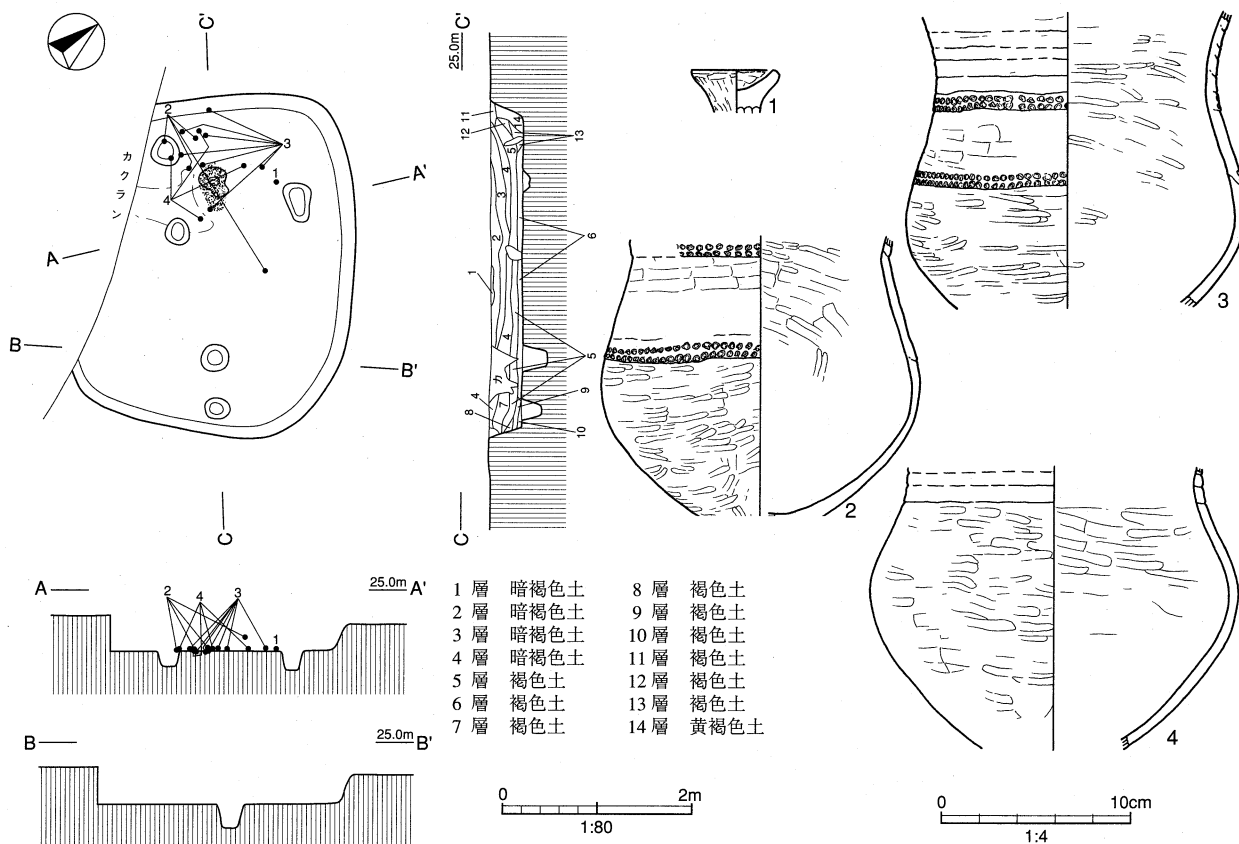


図90 A083

表36 A083遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特 口径×底径×器高 等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 蓋	つまみ径4.60×器高(2.30) 外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 ヘラケズリ	橙褐 普	普 砂粒多	1/4 つまみ 部片	
2	弥生 甕	-(5.50)×(15.3) 最大径16.9 輪積 外面 頸部-輪積痕上に 2列の刺突文 胴上部-ナデ 2列の刺突文。 胴部-ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後一部ヘラミガキ	暗橙褐 普	粗 砂粒多	2/3	黒斑有
3	弥生 甕	-(5.50)×(15.7) 最大径17.8 輪積 外面 頸部-輪積痕上に 2列の刺突文 胴上部-ナデ 2列の刺突文 胴下半-ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後一部ヘラミガキ	暗橙褐 普	粗 砂粒多	2/3	黒斑有 胴下半に少量 スス附着
4	弥生 甕	-(5.50)×(15.0) 最大径(19.6) 輪積 外面 頸部-輪積痕を残 す 胴部-ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後一部ヘラミガキ 頸部-輪積痕 胴部-やや上部に膨らみをもつ	明橙褐 普	普 砂粒多	1/4 胴部 破片	内外面スス コゲ状附着物

A084

遺構 ロームの床であるが全体的に軟弱である。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に9層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺物 覆土中から小破片が少量出土した。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。印手系の住居跡と考えられ、本遺跡では、A083同様、小型の住居跡に属する。

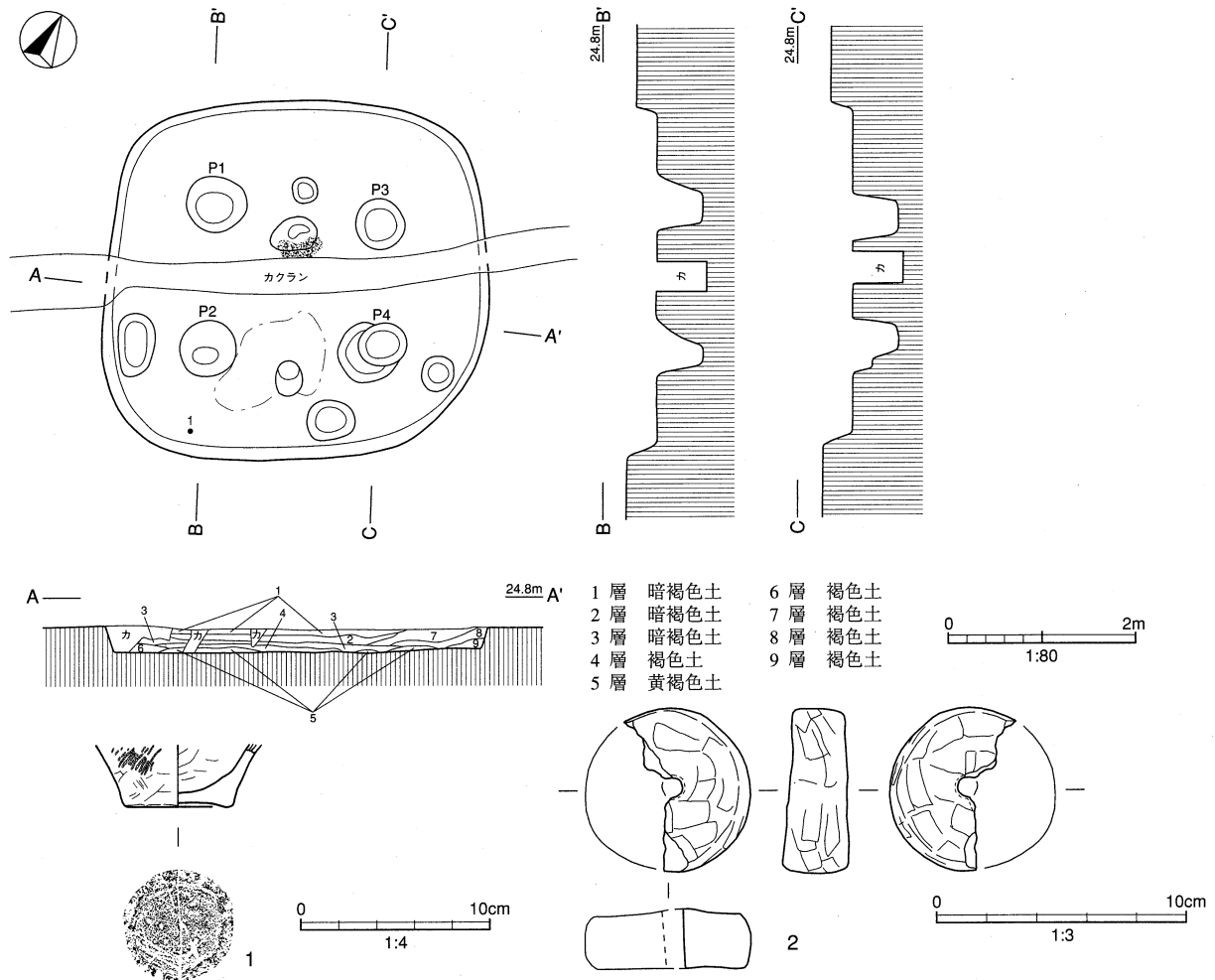


図91 A084

表37 A084遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 甕	—×6.00×残存3.30 輪積 外面 付加条縄文 下端—ヘラナデ後一部ヘラミガキ 内面 ヘラナデ 底部—やや上げ底 木葉痕	暗橙褐 普	普 砂粒多	1/4 以下	胴部～底部遺存
2	弥生 土製品	推定径4.40×推定孔径0.50×厚さ1.30～1.60 テヅクネ 外面 ヘラナデ 両側で厚みが異なる。孔はやや斜めに穿たれる 内面 ヘラナデ	橙褐 普	粗 砂粒多	1/2	土製紡錘車

A085

遺構 ロームの床で軟弱である。硬化面は認められない。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に7層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺物 覆土中から小破片が比較的多く出土した。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。遺物は、弥生時代後期印手系の土器群を主体に、南関東系の土器群を客体として出土している。出土遺物(3)については、平安時代の土師器が床面直上レベルで出土している。本住居跡においては炉が2基検出されており、遺構の形態も不正形を呈している。このことから、調査時においては捉えることができなかったが、本住居跡では弥生時代後期の住居跡のみならず、平安時代の遺構が重複していた可能性がある。

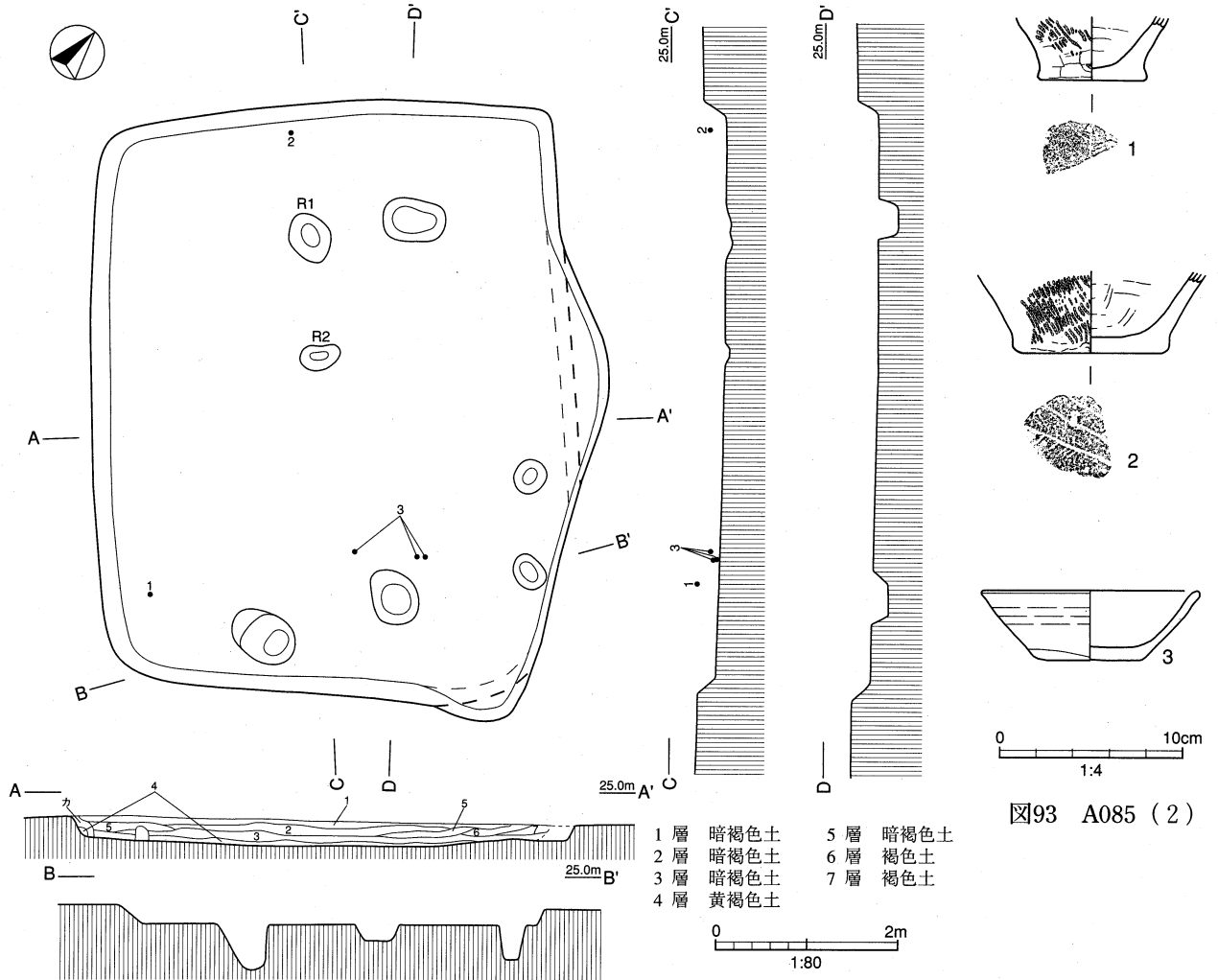


図93 A085 (2)

図92 A085

表38 A085遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 甕	—×推定6.00×残存3.50 輪積 外面 胴部—付加条縄文 下端—ヘラケズリ 内面 ナデ 底部—平底 木葉痕	橙褐 普	普 粗砂粒多	3/4 以下	胴部～底部
2	弥生 甕	—×推定8.00×残存4.60 輪積 外面 付加条縄文 下端—ヘラケズリ 内面 ナデ後ミガキ 底部—平底 木葉痕	暗褐 普	普 粗砂粒多	3/4 以下	胴部～底部 内面スス付着
3	土師器 坏	(12.0)×6.00×3.90 外面 ロクロ成形 体部下端—回転ヘラケズリ	普		1/3	雲母粒—微 赤色粒子—微

A086

遺 構      ロームを踏み固めた床で、硬化面が住居跡中央に広範囲に広がる。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に19層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺 物      覆土中から床面直上にかけて比較的多量に出土。覆土上層から墨書土器(7)が出土。

所 見      出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。印手系土器と南関東系土器が共伴する住居跡である。

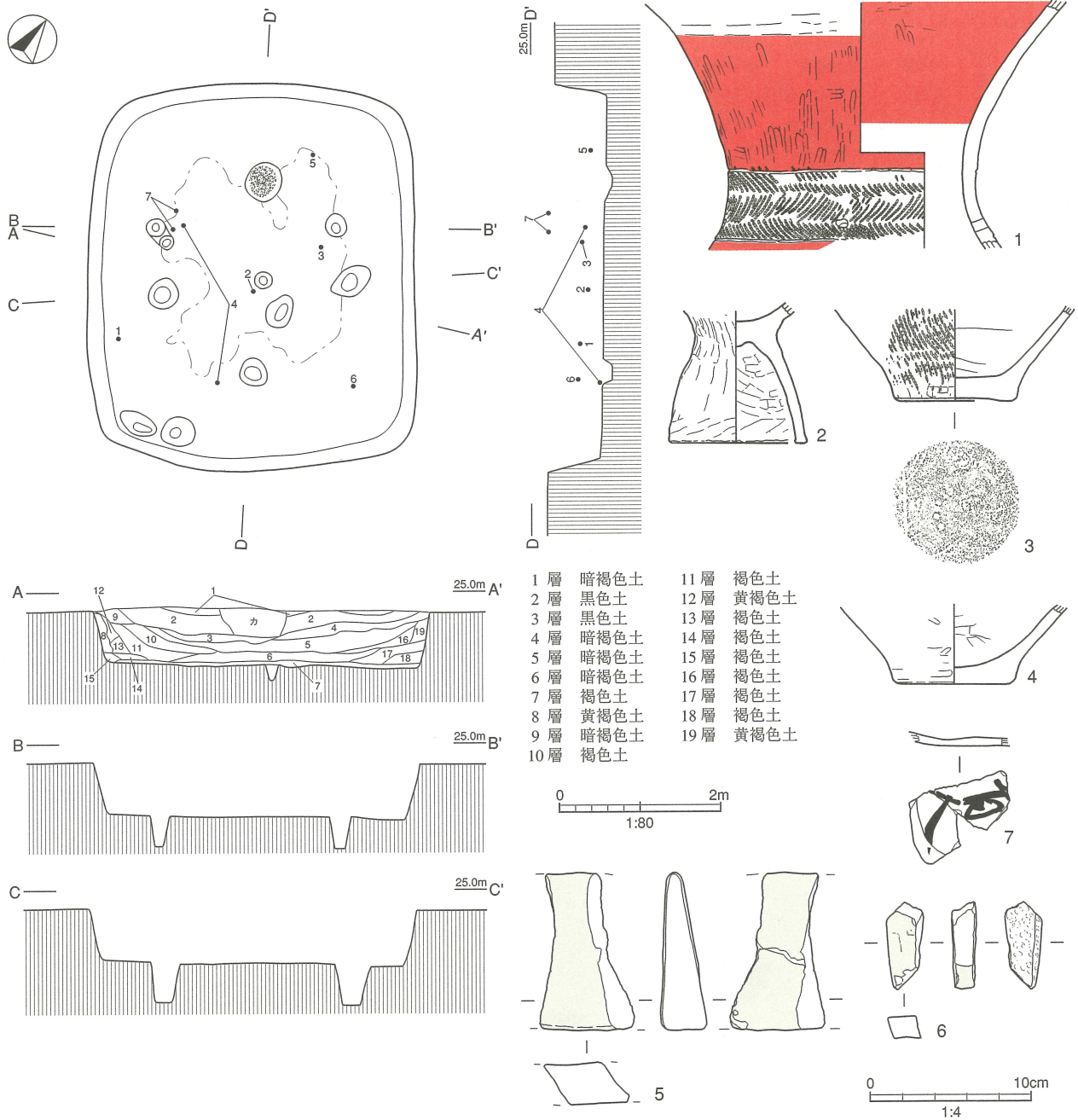


図94 A086

表39 A086遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 大型壺	—×—×残存15.5 輪積 外面 ナデ後ヘラミガキ→羽状縄文施文後上下を沈線で区画。縄文帯の中に5ヶ所径5mm程の小孔が焼成後に穿たれる 内面 ナデ後ヘラミガキ	明橙褐 普	粗 砂粒多	1/4 以下	頸部破片 赤彩
2	弥生	—×8.60×残存8.70 輪積 頸部—やや丸みを帯び下端で弱く内側に入る 外面 ヘラケズリ後一部ナデ 内面 接合部—ヘラケズリ・ヘラナデ	橙褐 普	普 粗砂粒少		脚部 破片
3	弥生 甕	—×7.70×残存5.90 輪積 外面 付加条縄文 下端—ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 底部—やや上げ底 木葉痕	暗褐 普	普 砂粒少	1/4 以下	底部破片
4	弥生 壺	—×7.10×残存5.00 輪積 外面 ナデ後ヘラミガキ 内面ナデ 底部—平底	暗褐 普	普 砂粒多	1/4 以下	胴部～底部
5	砥石	9.80×5.90×厚さ2.90 153.8g やや大型の砥石。両端部を欠損しているが、側縁を含め残存部の全面に良好な研磨痕を残し、平滑である				硬質砂岩
6	砥石	5.40×2.00×厚さ1.50 22.1g 砥石の残片。二面に比較的良好な研磨面を残す				砂岩
7	土師器 坏	—×—×— 外面 体部下端—静止ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	普	雲母黒 色白色 微		墨書(底部外面) 「□人」

A087

遺構 ロームを踏み固めた床であるが、住居跡中央部では、やや軟弱である。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に14層に分層。床面直上、壁際に若干の焼土粒子が検出されたもののおおむね、自然堆積による埋没と思われる。

遺物 覆土中から床面直上にかけて小破片が少量出土。(1)北関東系の後期弥生土器の甕形土器の胴部片で床面直上からの出土である。(10)については覆土中の出土である。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。印手系土器を主体にするが、北関東櫛描文系土器の影響を強く受けている住居跡と考えられる。

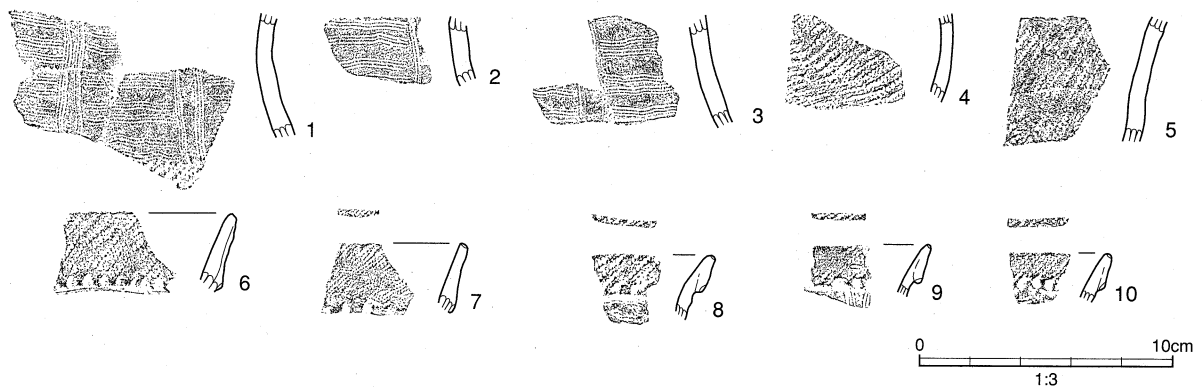


図95 A087



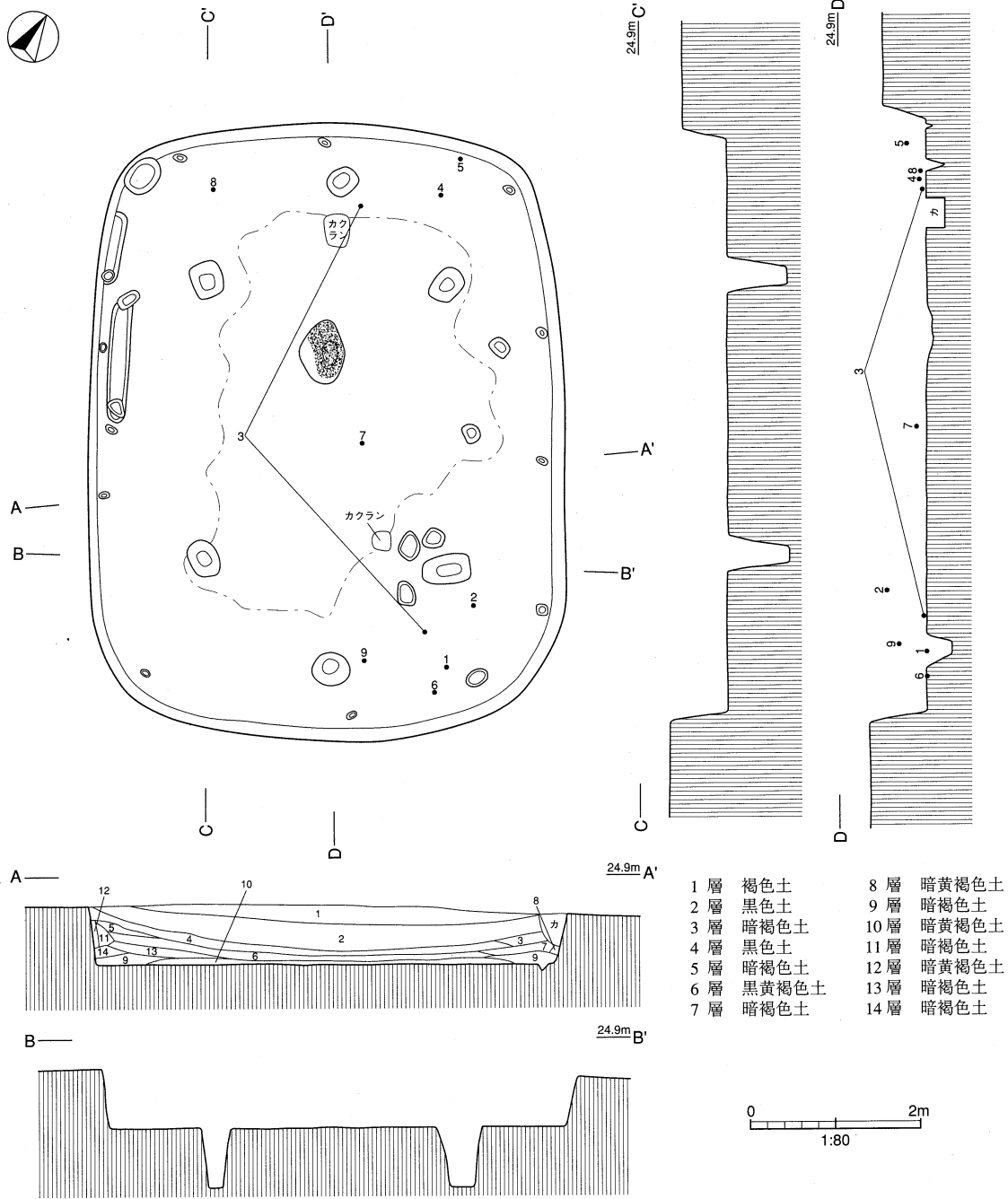


図96 A087(2)

表40 A087遺物観察表

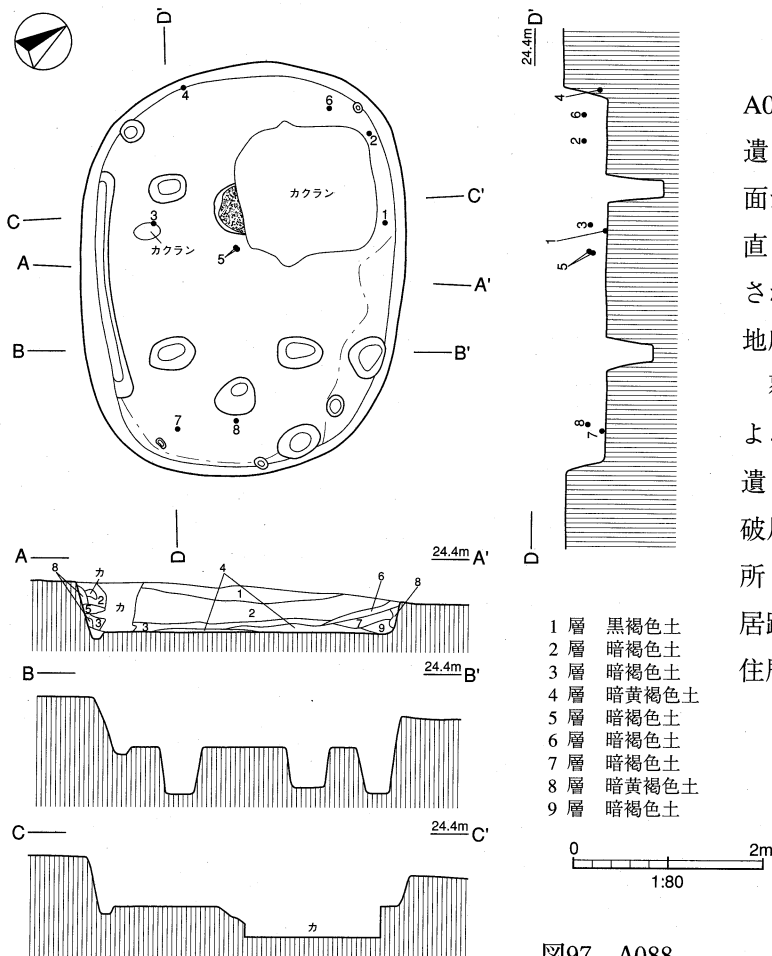
(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生甕	輪積 外面 櫛描による縦区画充填(横走)文→付加条縄文 内面 ヘラミガキ	暗褐 普	密 砂粒	1/4 以下 頸部	
2	弥生甕	輪積 外面 櫛描による縦区画充填(横走)文 内面 ヨコヘラミガキ	暗褐 普	密 砂粒多	1/4 以下 頸部	
3	弥生甕	輪積 外面 櫛描による縦区画充填(横走)文 内面 ヨコヘラミガキ	暗褐 普	密 砂粒多	1/4 以下 頸部	

表40 A087遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
4	弥生甕	輪積 外面 捺糸文 内面 ナデ後一部ヘラミガキ	暗褐 軟	普 砂粒少	1/4 以下 胴部	外面スス付着
5	弥生甕	輪積 外面 捺糸文 内面 ナデ後一部ヘラミガキ	暗褐 普	普 砂粒少	1/4 以下 胴部	
6	弥生甕	輪積 外面 L R 縄文施文 下端に刻み目(施文具不明) 内面 ヨコヘラミガキ 口縁-複合口縁	暗褐 普	密 砂粒多	1/4 以下 口縁部	
7	弥生甕	輪積 外面 口唇上~口縁-L R 単節縄文 下端-結節?→口縁下 端-縄文原体による押圧 内面 ヘラケズリ後ヨコヘラミガキ 口縁-やや外反	暗褐 普	普 粗砂粒多	1/4 以下 口縁部	
8	弥生甕	輪積 外面 口唇上-L R 単節縄文 口縁部-ヨコナデ後L R 単節縄文 (ヘラ状工具による刺突がケケ所あるが施文か?) 下端に施文具不明の 刻み目→縦位の櫛描文 内面 ナデ後ヘラミガキ 口縁-複合口縁	暗褐 普	密 砂粒少	1/4 以下 口縁部	
9	弥生甕	輪積 外面 口唇部-R L 単節縄文・捺糸文を施文後下端ヘラ状工 具による刻み目。口縁下に横位の櫛描文。櫛歯状工具による山形の文 様が一部見られる 内面 ヘラミガキ 口縁-複合口縁	暗褐 普	普 砂粒少	1/4 以下 口縁部	
10	弥生甕	輪積 外面 口唇上口縁-L R 単節縄文 下端-刻み目(施文具不明) 櫛描波状文 内面 ナデ後ヘラミガキ 口縁-複合口縁	明褐 普	粗 粗砂粒 石英多	1/4 以下 口縁部	



A088

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面が広範囲に広がる。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。炉は大部分が攪乱によって壊されていたが、本来、掘り込みのしっかりした地床炉であったと思われる。

覆土は色調を基本に9層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺物 覆土中から床面直上にかけて小破片が少量出土。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。印手系土器を主体に出土する住居跡で、本遺跡では小型の住居跡に属する。

図97 A088

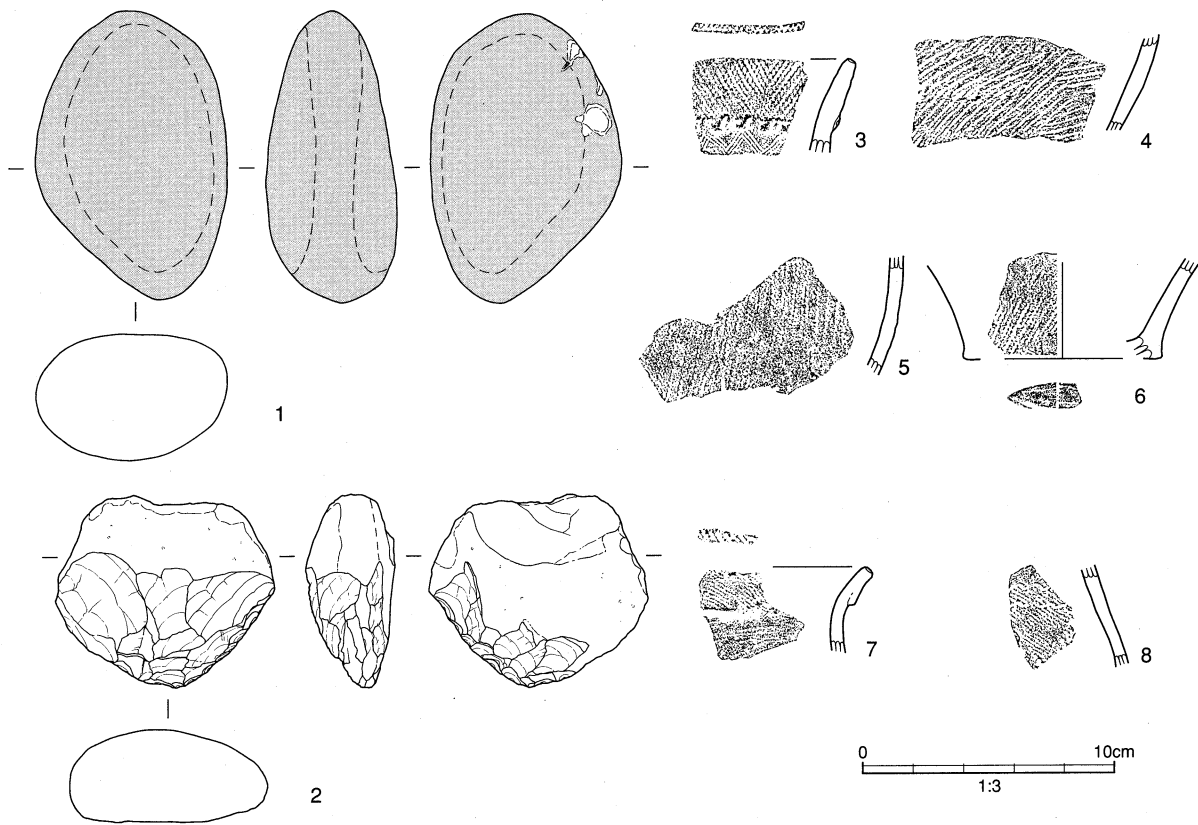
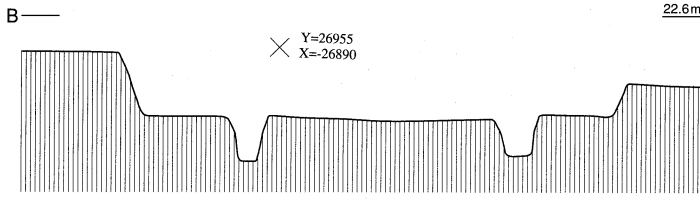
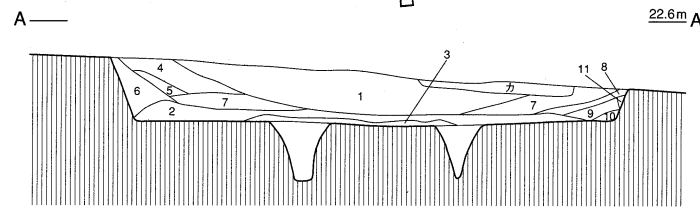
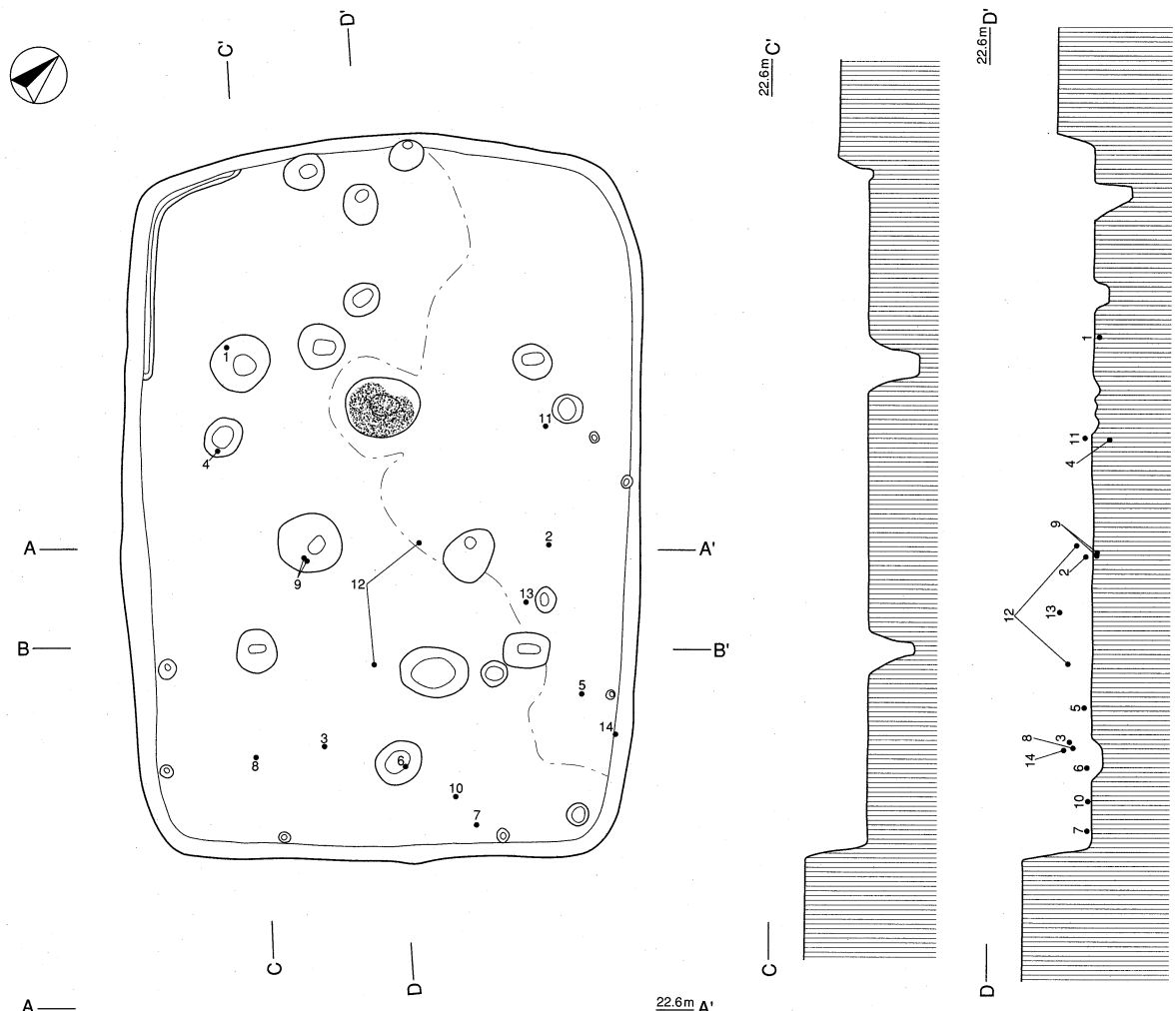


図98 A088(2)

表41 A088遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	石製品 磨石	11.5×7.50×厚さ5.20 567.6g 完形の磨石 ほぼ全面に良好な磨痕を残す				凝灰岩
2	石製品 礫器	8.20×8.60×厚さ3.60 263.3g 両面加工の礫器 粗い剥離により刃部が作出されている。一方の上端には粗い敲打痕が残されており、敲石あるいはハンマーストーンとしての使用も考えられる				チョッピングツール
3	弥生甕	輪積 外面 口唇上～口縁-付加条縄文の羽状構成 下端に波状の隆帯文 櫛描の山形文 内面 ナデ後ヘラミガキ 口縁-やや外反	明褐 普	普粗砂粒 雲母 石英多	口縁部 片	北関東系の土器? (二軒屋式系?)
4	弥生甕	輪積 外面 付加条縄文 内面 ヘラケズリ後ヘラミガキ	暗褐 硬	普 砂粒多	胴部片	
5	弥生甕	輪積 外面 撚糸文 内面 ミガキ? 器面の剥離多く判断が難しい	暗褐 硬	普 砂粒多	胴部片	
6	弥生甕	輪積 外面 撚糸文 内面 ヘラミガキ 底部-底面に木葉痕 平底	暗橙褐 硬	普 砂粒多	胴部片	外面スス付着
7	弥生甕	輪積 外面 口唇上-R L単節縄文 口縁部-R L単節縄文施文→ヨコナデ 内面 ヘラケズリ後ヨコヘラミガキ 口縁-複合口縁	暗褐黒 普	普 粗砂粒 雲母多	口縁部 片	
8	弥生甕	輪積 外面 付加条縄文+結節2段 内面 ナデ後一部ヘラミガキ 口縁-複合口縁	暗褐黒 普	普 粗砂粒 雲母多	口縁部 片	



- |     |      |      |      |
|-----|------|------|------|
| 1 層 | 黑褐色土 | 7 層  | 暗褐色土 |
| 2 層 | 暗褐色土 | 8 層  | 暗褐色土 |
| 3 層 | 褐色土  | 9 層  | 暗褐色土 |
| 4 層 | 暗褐色土 | 10 層 | 褐色土  |
| 5 層 | 暗褐色土 | 11 層 | 黃褐色土 |
| 6 層 | 褐色土  |      |      |

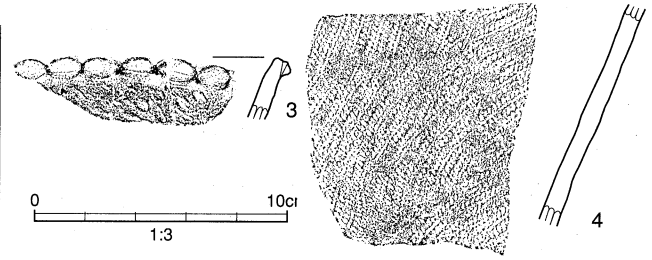
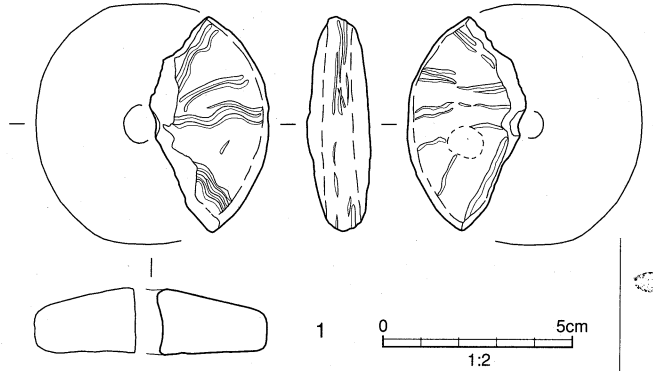
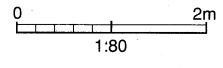


图99 A089

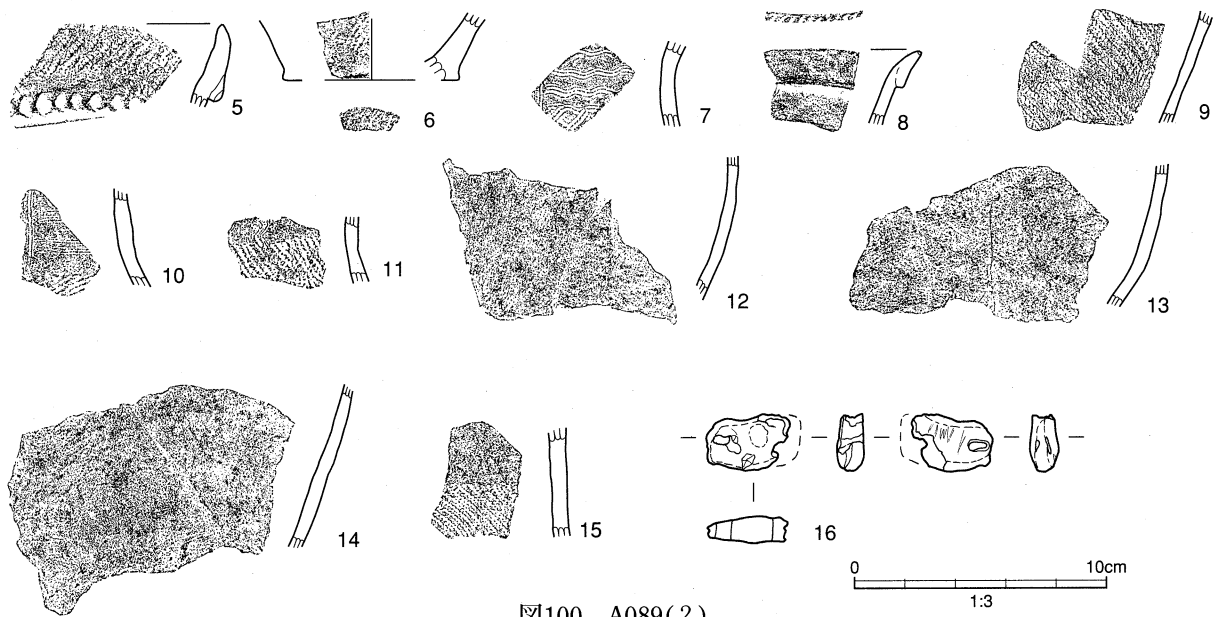


図100 A089(2)

表42 A089遺物観察表

(単位cm)

No.	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 土製品	2.90×5.70×厚さ1.70 軸孔径推定9mm 24.0g テズクネ 上下側面に櫛描による施文がされる	褐 軟	粗 粗砂粒多	1/3	土製紡錘車
2	石製品 磨石	6.80×3.50×厚さ2.40 74.0g 小形礫のほぼ全面良好な研磨痕あり。ただし通常の磨石とは異なり、 礫の原形をほぼとどめており、砥石的な用途も考えられる				母石—不明 砥石?
3	弥生 甕	—×—×— 輪積 外面 隆帯文を貼付(隆帯上に指頭による押圧 を加える)→施文具不明の押圧 内面 ヘラケズリ後ヘラミガキ 口唇 下をヘラ状工具による凹線状に強くなぞられ、段状になっている	明橙褐 硬	普 粗砂粒多	口縁部 破片	口縁—やや外反
4	弥生 甕	—×—×— 輪積 外面 付加条縄文 内面 ナデ	明褐 軟	粗 粗砂粒多	胴部 破片	外面少量スス 附着
5	弥生 甕	—×—×— 輪積 外面 L R単節縄文 下端—半円状の工具による刻み目 内面 ヨコナデ 器面剥離著しい 口縁部—複合口縁	明褐 軟	粗 粗砂粒多	口縁部 破片	
6	弥生 甕	—×—×— 輪積 外面 撚糸文 内面 ヘラケズリ後ヘラミガキ 底部—底面に木葉痕	暗赤褐 硬	密 砂粒多	底部 破片	
7	弥生 甕	—×—×— 輪積 外面 櫛描による縦区画充填(波状)文→格子目文 内面 ヨコヘラミガキ	暗褐黒 硬	密粗砂 粒雲母 石英多	頸部 破片	外面スス附着
8	弥生 甕	—×—×— 輪積 外面 口唇上—L R単節縄文 口縁部・頸部—ヨコナデ 内面 ヨコナデ 内外面磨耗著しい	暗橙褐 軟	粗 砂粒多	口縁部 破片	内面スス附着
9	弥生 甕	—×—×— 輪積 外面 撚糸文 内面 ナデ	明褐 普	普 砂粒多	胴部 破片	
10	弥生 甕	—×—×— 輪積 外面 櫛描による縦区画充填(横走)文→付加条縄文 内面 ヨコナデ	暗褐 普	砂粒多	頸部 破片	外面少量スス 附着
11	弥生 甕	—×—×— 輪積 外面 縦位の櫛描波状文→撚糸文 内面 ヘラケズリ	赤褐 硬	普 砂粒多	頸部 破片	

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
12	土師器 甕	—×—×— 輪積 外面 ナデ後一部ミガキ 内面 ナデ後一部ミガキ	暗赤褐 普	普 砂粒 雲母多	胴部 破片	外面スス付着
13	土師器 甕	—×—×— 輪積 外面 ナデ後一部ミガキ 内面 ナデ	暗橙褐 普	普 砂粒 雲母多	胴部 破片	黒斑有
14	土師器 甕	—×—×— 輪積 外面 ナデ後一部ミガキ 内面 ナデ	暗赤褐 普	普 砂粒多	胴部 破片	黒斑有 内面スス付着
15	弥生 甕	—×—×— 輪積 外面 ナデ→捺糸文 内面 ナデ	暗褐 硬	普 粗砂粒多	頸部 破片	
16	石製品 有孔 垂飾	1.50×2.20×厚さ0.70 2.60g 有孔垂飾の一部。両端に孔が穿たれていたものと思われる 加工は非常に粗い				母石—チャート?

A089

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は住居跡南側に広がる。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に11層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺物 覆土中から床面直上にかけて小破片が少量出土。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。印手系土器を主体に出土する住居跡である。

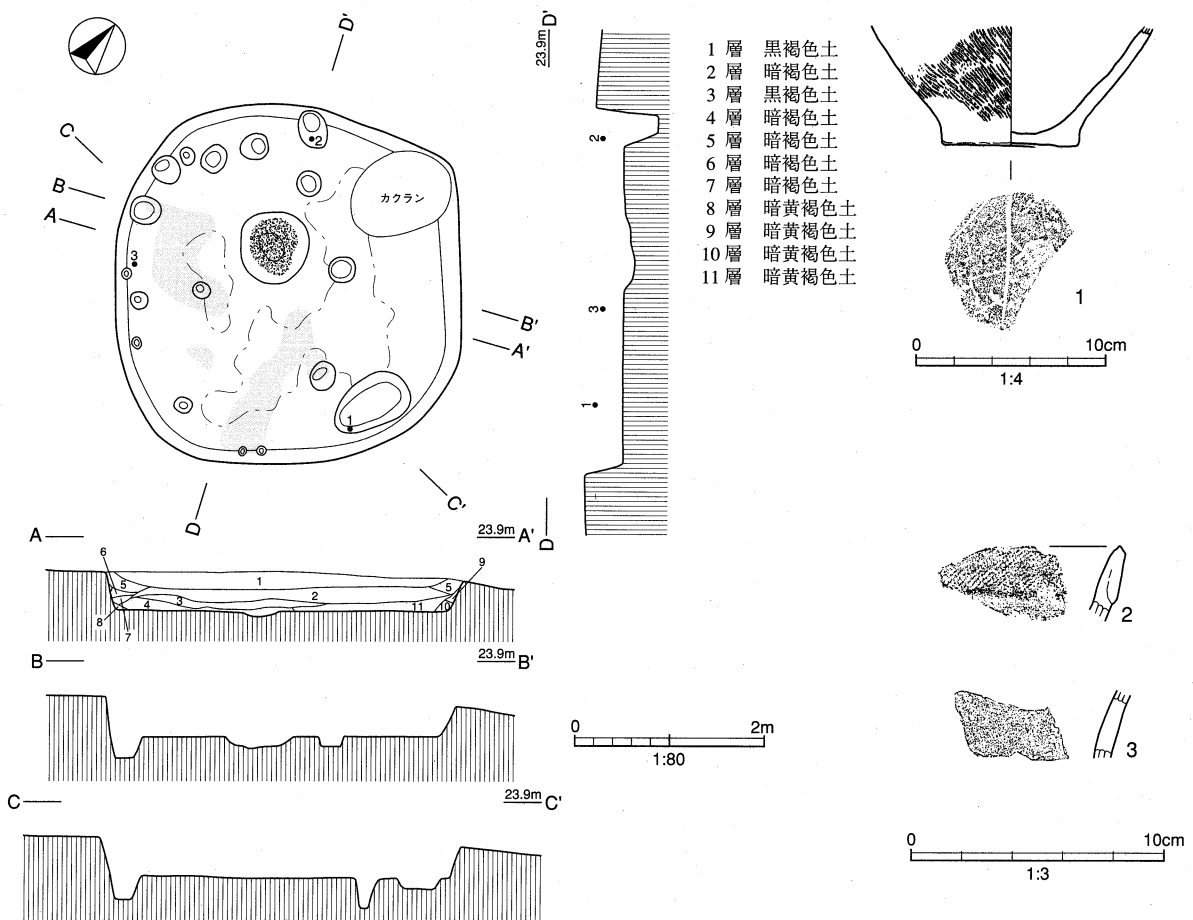


図101 A090

A090

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は比較的広範囲に広がる。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上る。

覆土は色調を基本に11層に分層。層として形成するには至っていないが住居跡南側において比較的多数の焼土、炭化物を検出していることから住居廃絶時に火を焚いたと思われる、人為的な埋没が想定される。

遺物 覆土中から小破片が少量出土。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。印手系土器を主体に出土する住居跡で、本遺跡においては小型の住居跡である。

表43 A090遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の 特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生甕	—×7.20×(6.30) 輪積 外面 付加条縄文 内面 器面の剥離著しく不明 底面に木葉痕	明橙褐 普	粗 粗砂粒多	1/4 底部	胎土-チャート・石英等多
2	弥生甕	輪積 外面 L R単節縄文→ヨコナデ 器面の剥離・磨耗著しい 内面 ヘラケズリ後ヨコヘラミガキ 口縁-複合口縁	暗褐 軟	粗 粗砂粒多	1/4 口縁 破片	外面スス付着 胎土-雲母・ 石英
3	弥生甕	輪積 外面 タテナデ 内面 ナデ	暗褐 普	粗 砂粒 雲母多	胴破片	外面スス付着

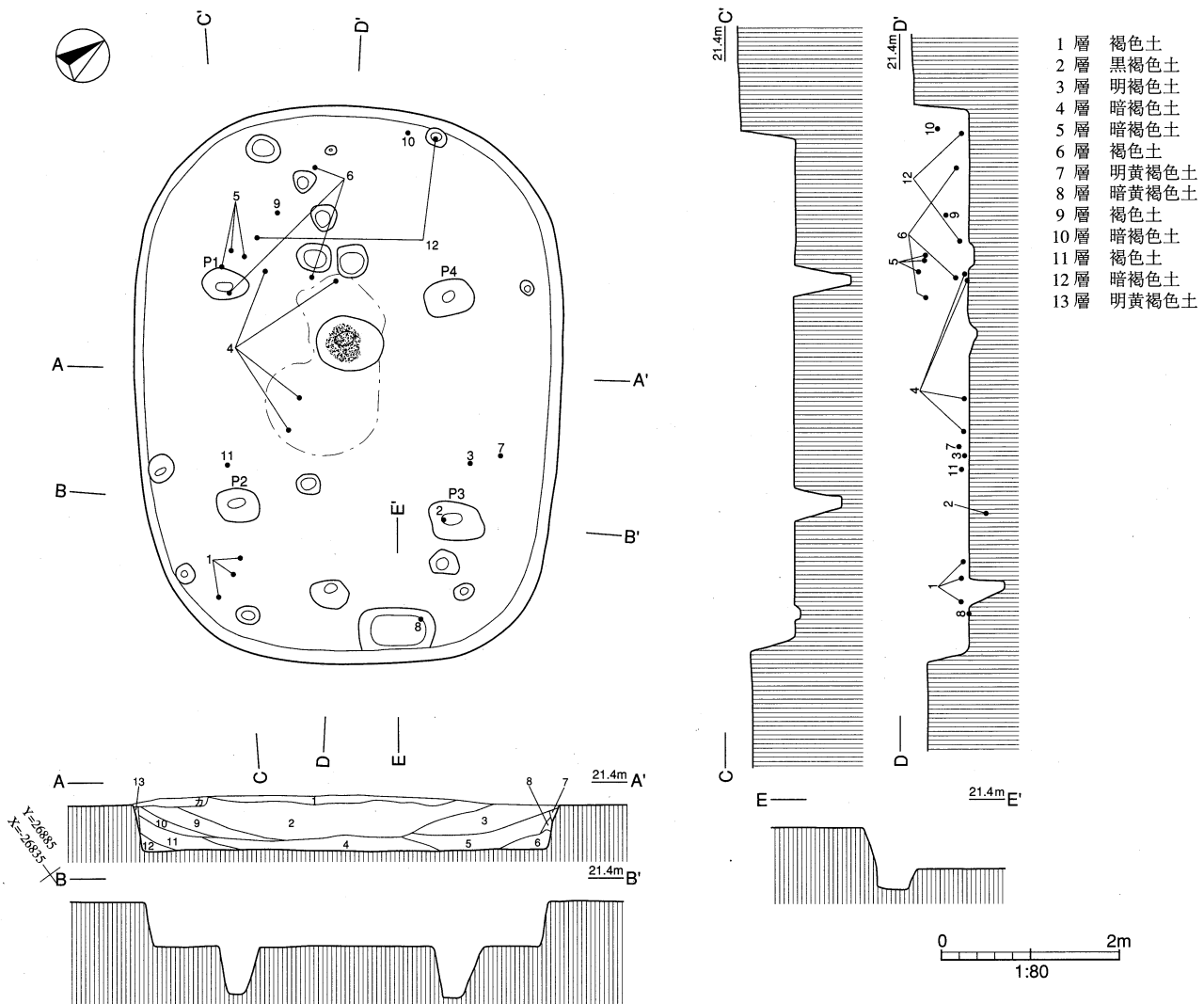


図102 A091

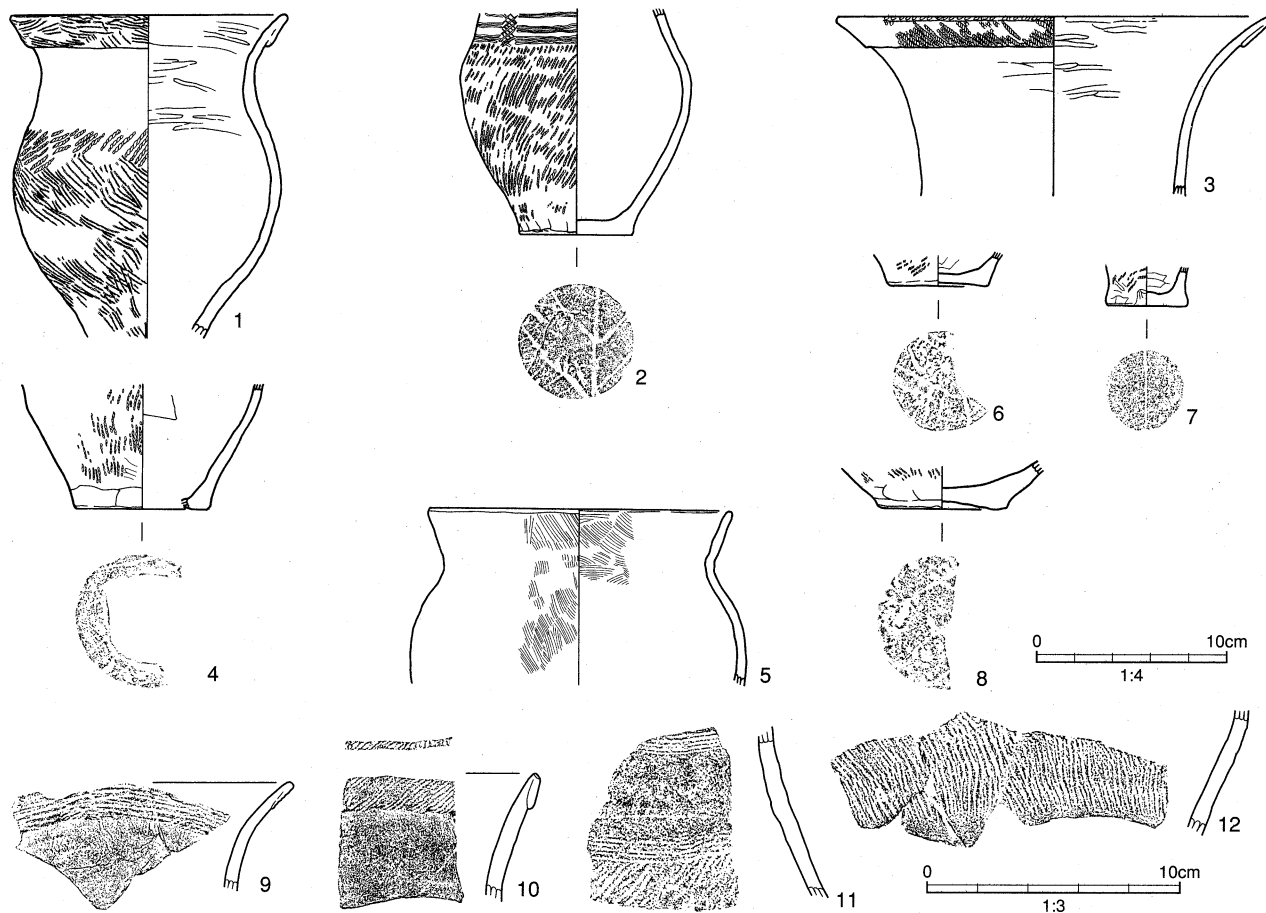


図103 A091(2)

表44 A091遺物観察表

(単位cm)

No.	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生甕	14.6×-×(17.2) 外面 口唇上~口縁部-Lの捺糸 頸部-ナデ 胴部-上位LR単節縄文→Lの捺糸 内面 口縁~頸部-ヘラケズリ 後ヘラミガキ 胴部-ナデ 口縁-複合口縁・外反	明橙褐 硬	密 砂粒多	完形	底部欠損
2	弥生壺	-×6.0×(12.1) 頸部 櫛描による斜格子文をはさんで、櫛描横走文 胴部 付加条縄文、下端ヘラケズリ木葉痕	暗褐 硬	普 砂粒多	2/3	
3	弥生甕	(23.0)×-×(9.60) 外面 口唇上・口縁部-R L単節縄文 頸部-ヨコナデ 内面 ヨコナデ後一部ヨコヘラミガキ 口縁-複合口縁・外反	明橙褐 普	粗 粗砂粒多	1/4	口縁部 胎土-石英等多
4	弥生甕	-×7.10×(6.70) 外面 L R単節縄文 ヘラケズリ後一部ヘラミガキ 下端-ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ後ヨコナデ 底部-平底 底面に木葉痕	暗褐 硬	普 粗砂粒多	1/4 底部片	
5	弥生甕	(20.0)×-×(9.30) 頸部-「く」の字状に屈曲 外面 口唇部-ヨコナデ 口縁~胴部-ナナメのハケ 内面 口縁部-ヨコ及びナナメのハケ 胴部-ナデ	暗橙褐 普	普 砂粒多	1/4 口縁 部片	
6	弥生甕	-×5.40×(1.90) 外面 捺糸文 内面 ヘラケズリ後ナデ 底部-やや上げ底 底面に木葉痕	暗褐 硬	普 砂粒少	1/4 底部片	
7	弥生 小型甕	-×4.40×(2.10) 外面 L R単節縄文 下端-ヘラケズリ後一部ヘラミガキ 内面 ヘラケズリ後ナデ 底部-平底 底面に木葉痕	暗褐 硬	普 砂粒少	1/4 底部片	
8	弥生 甕	-×(7.00)×(2.60) 外面 捺糸文 下端-指頭による押さえのあと? 内面 ヨコナデ 底部-やや上げ底 底面に木葉痕	暗褐 硬	密 砂粒	1/4 底部片	



No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
9	弥生甕	外面 撚糸文→ヨコナデ後ヘラミガキ 内面 ヨコナデ後ヨコヘラミガキ 口縁-複合口縁・外反	黒褐 普	密 砂粒多	口縁 部片	外面スス附着
10	弥生壺	外面 口唇上・口縁部-無節縄文→タテヘラミガキ 内面 ヘラケズリ後ヨコヘラミガキ 口縁-複合口縁・やや外反	暗褐 普	普 砂粒多	口縁 部片	外面スス多量 附着
11	弥生甕	外面 櫛描の横走文→無文(もしくはナデ?)→櫛描の横走文→LR縄 文? 内面 器面剥離により不明	明褐 軟	粗 粗砂粒多	頸部片	
12	弥生甕	外面 撚糸文 内面 ヨコナデ	黒褐 普	密 砂粒多	胴部片	外面スス附着

A091

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面が部分的に広がる。壁はロームの壁ではほぼ垂直に立ち上る。

覆土は色調を基本に13層に分層。人為的な堆積が想定される。

遺物 覆土中から床面直上にかけて比較的多く出土。

所見 古墳前期の土師器と考えられる土器も出土しているが、全体の遺物出土状況から弥生時代後期の住居跡と判断した。印手系土器を主体に出土する住居跡である。

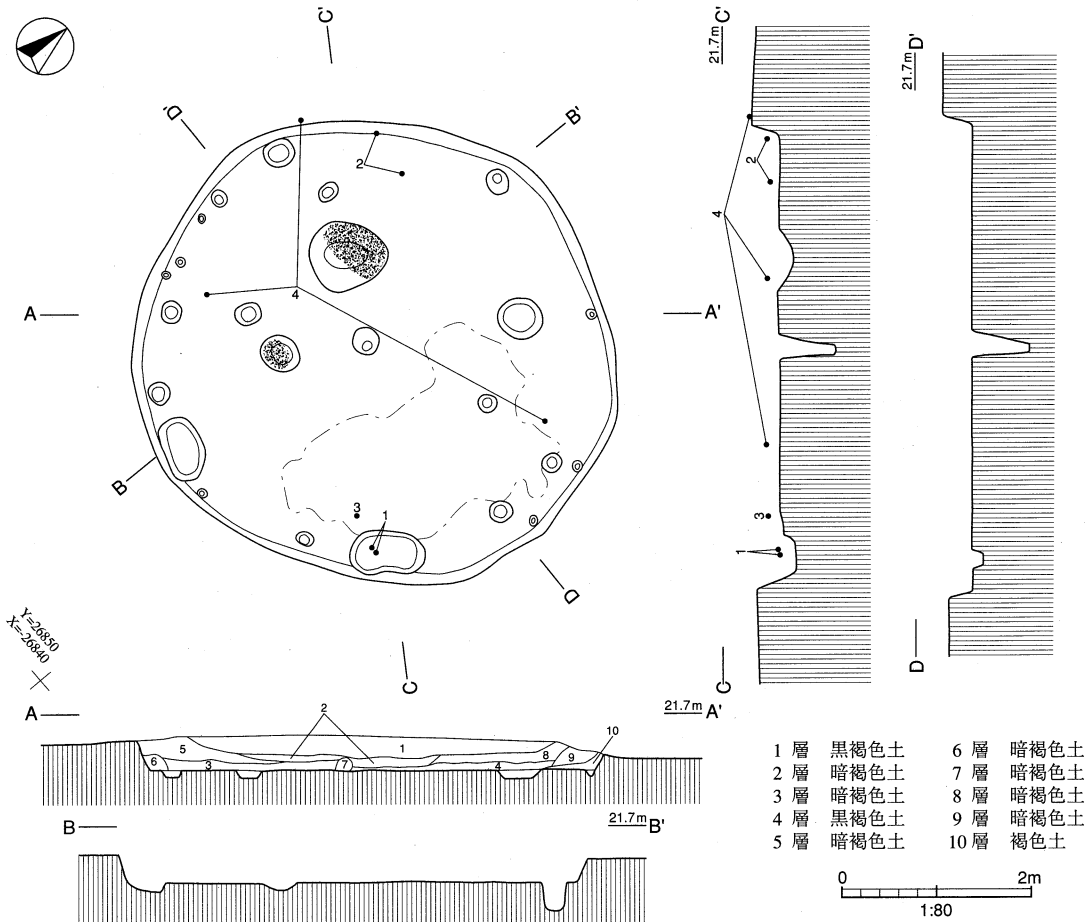


図104 A092

A092

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は住居跡南東部で一部検出。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上る。

覆土は色調を基本に10層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

炉は2基検出されたが、ピットの配列、覆土の堆積状況から拡張等の形跡は認められず、当初から2基あったものと思われる。検出状況及び火床の観察等からR1が主たる炉でR2が補助的な炉であったと考えられる。

遺物 覆土中から少量出土。(5)については覆土中の出土である。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。印手系土器を主体に出土する住居跡で、本遺跡においては小型の住居跡である。

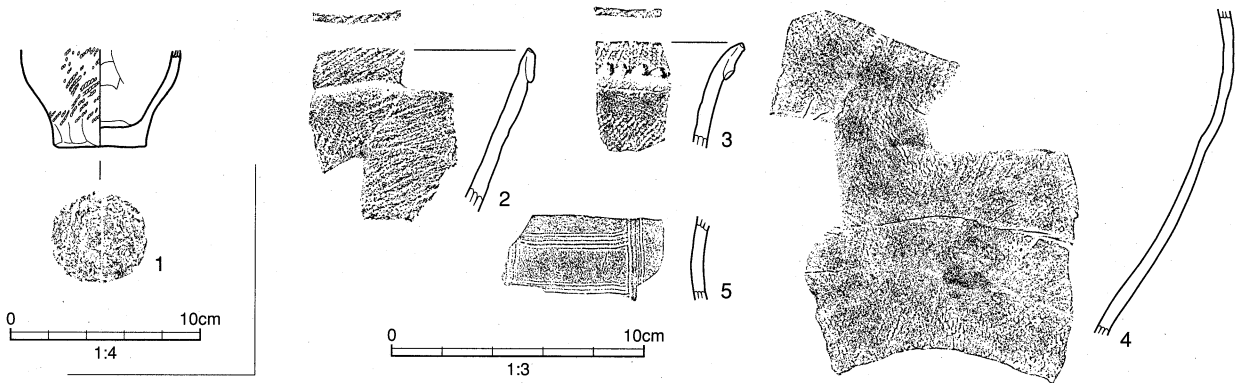


図105 A092(2)

表45 A092遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 小型甕	—×5.00×(5.20) 外面 LR単節縄文 下端—ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ 底部—平底 底面に木葉痕	暗褐 硬	密 砂粒少	1/4 以下 底部	
2	弥生 甕	—×—×— 外面 口唇、口縁、胴部とも付加条縄文 内面 ヘラミガキ	暗褐 硬	密 雲母微	口縁 部片	複合口縁
3	弥生 甕	—×—×— 外面 口唇、口縁ともに付加条縄文、口縁下端、縄文原体の押圧、 頸部、無文、胴部付加条縄文 内面 ヘラミガキ	黒褐 硬	密	口縁 部片	複合口縁
4	弥生 甕	—×—×— 外面 胴部全面に付加条縄文 内面 ナデ後一部ヘラミガキ	黒褐 硬	密 雲母 白色粒	胴部 片	
5	弥生 甕	—×—×— 外面 櫛描横走文を櫛描縦走文で区画 内面 ヘラミガキ	黒褐 硬	密 雲母微 白色粒	頸部 片	

A093

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は炉を中心として広範囲に広がる。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上る。

覆土は色調を基本に13層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

炉は2基検出されたが、ピットの配列、覆土の堆積状況から拡張等の形跡は認められず、炉の作り替えが行われたと考えられる。検出状況及び各炉の覆土の観察等からR2からR1へ作り替えたと判断される。

遺物 床面直上から覆土中にかけて出土。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。印手系土器と南関東系土器とが共伴する住居跡である。

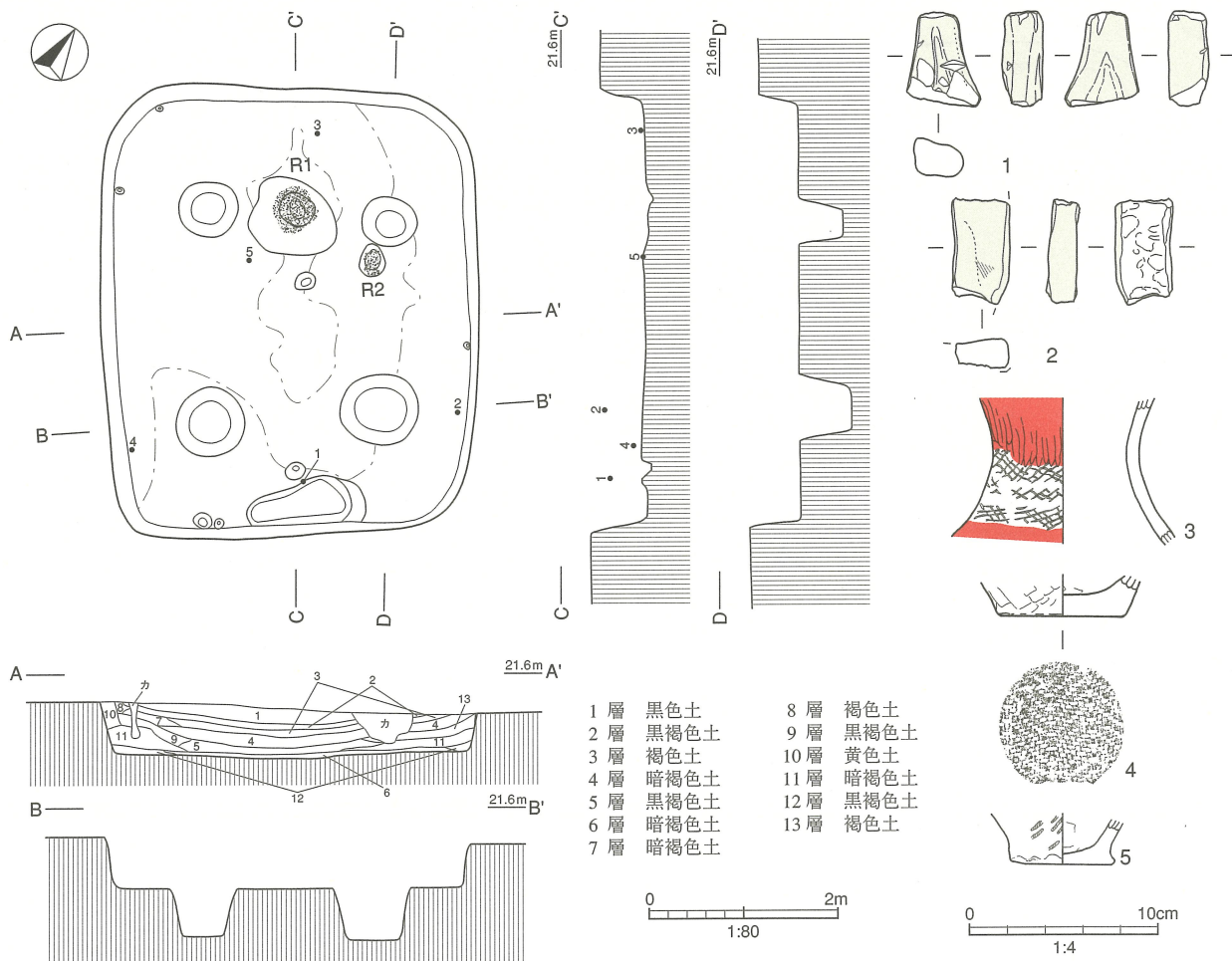


図106 A093

表46 A093遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	口径×底径×器高	重量	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	石器 砥石	一端を欠くが四面に研磨痕があり、特に幅広の二面には溝状に研磨痕が残る	5.00×4.00×2.20	47.4g				母石-砂岩
2	石器 砥石	一部が残存するだけであるが、残存部の全面に研磨痕が見られ平滑	5.50×3.10×1.80	47.2g				砂岩
3	弥生 壺	外面 頸部-上半タテヘラミガキ 下半-網目状撚糸文 内面 器面剥離が著しいがナデと思われる	—×—×(7.80)		明橙褐 軟	普 砂粒多	1/4 以下 頸部片	赤彩
4	弥生 甕	外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 ヘラケズリ 底部-平底 網代痕-2本越え1本潜り1本削り	—×6.60×(2.20)		橙褐 硬	普 砂粒少	1/4 以下 底部片	
5	弥生 甕	外面 無節縄文 下端-ヘラケズリ 内面 ナデ 底面-ヘラケズリ	—×5.60×(2.70)		暗褐 普	密 粗砂粒少	1/4 以下 底部片	

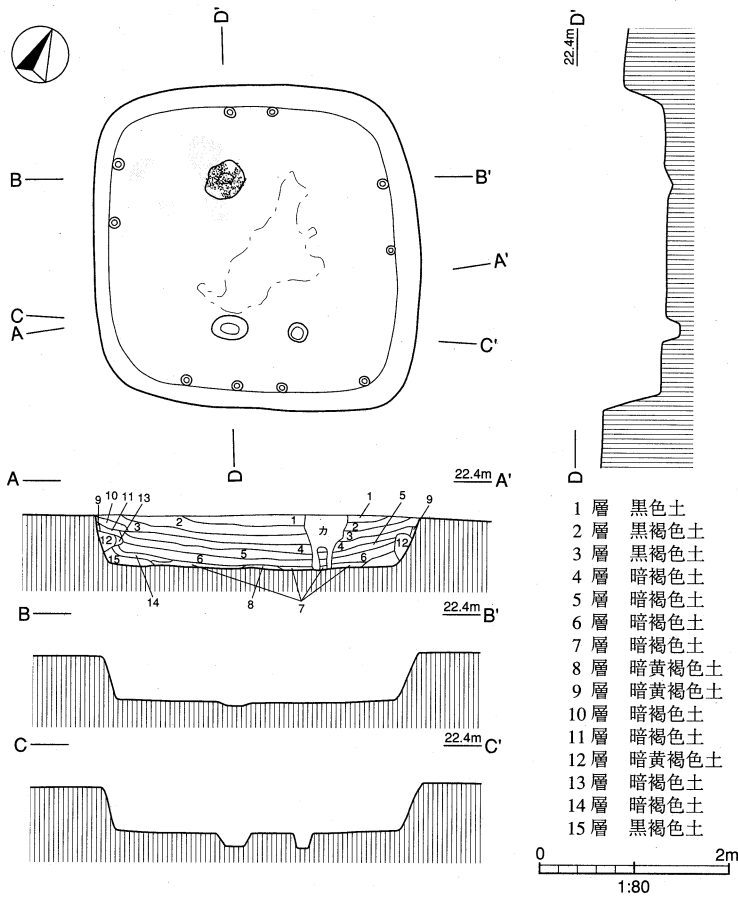


図107 A094

A094

遺構 ロームを踏み固めた床で、住居跡中央部はやや軟弱であった。壁は、ロームの壁でほぼ垂直に立ち上る。

覆土は色調を基本に15層に分層。覆土上層にて若干の焼土を検出しているものの、おおむね、自然堆積による埋没が想定される。

遺物 覆土中から小破片が少量出土したのみである。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。本遺跡においては小型の住居跡である。

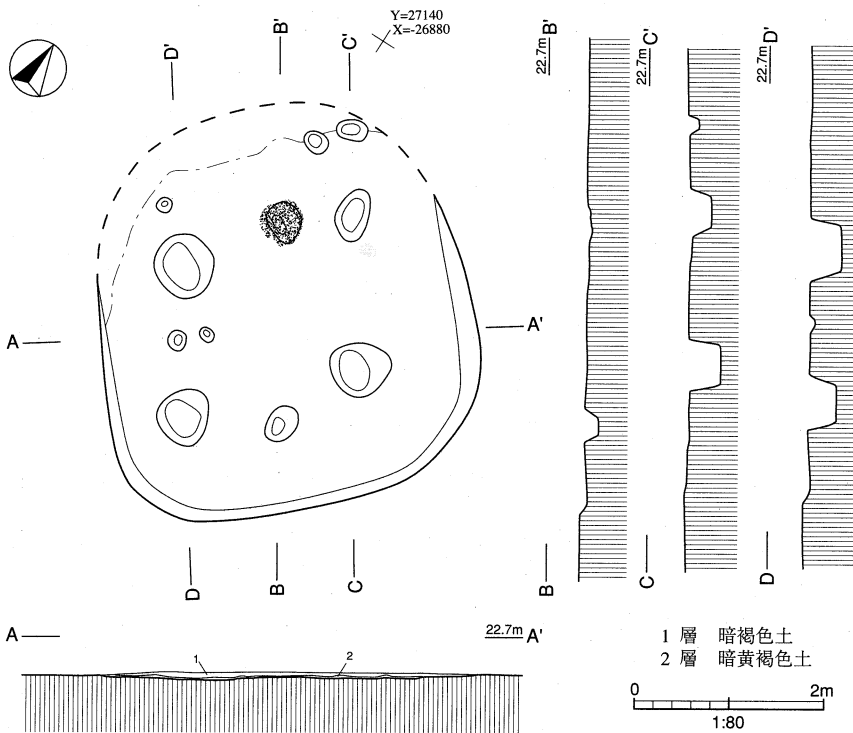


図108 A095

A095

遺構 ロームを踏み固めた床である。壁については、住居跡南側でわずかに立ち上がりを検出したのみで、北側においては検出するには至らなかった。

覆土は色調を基本に2層に分層。自然堆積による埋没と思われる。

遺物 覆土中から小破片が少量出土したのみである。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。本遺跡においては小型の住居跡である。

A096

遺構 ロームを踏み固めたしっかりとした床である。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上る。

覆土は色調を基本に4層に分層。覆土中層で焼土を多量に含む層を検出しており、人為的な堆積が想定される。

遺物 床面直上から覆土中にかけて少量出土。

所見 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。本遺跡においては小型の住居跡である。

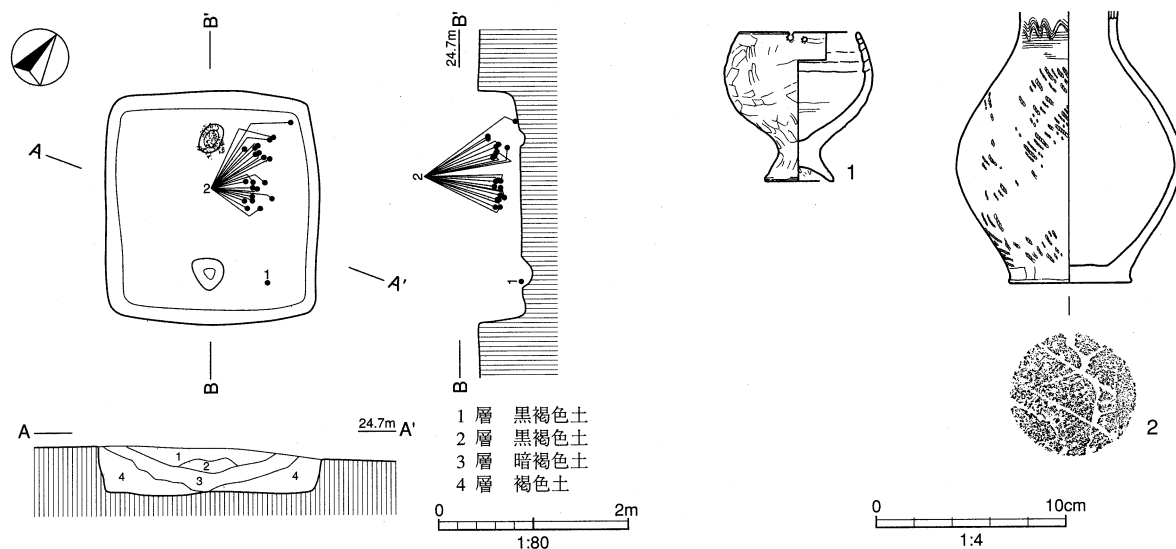


図109 A096

表47 A096遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特 口徑×底徑×器高 等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 台付甕	6.40×3.70×8.00 輪積 外面 口縁～胴部～ヘラケズリ後一部ヘ ラミガキ 脚部～ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 ナデ 脚内面～ヘ ラケズリ後ヘラミガキ	暗橙褐 普	砂粒多	完形	ミニチュア土器
2	弥生 壺	—×6.60×(14.5) 輪積 外面 頸部～櫛描横走波状文→櫛描横走文 胴部～付加条縄文 下端 ～ヘラケズリ 内面 器面剥離のため不明	明橙褐 軟 黒斑有	粗 粗砂粒多	3/4	

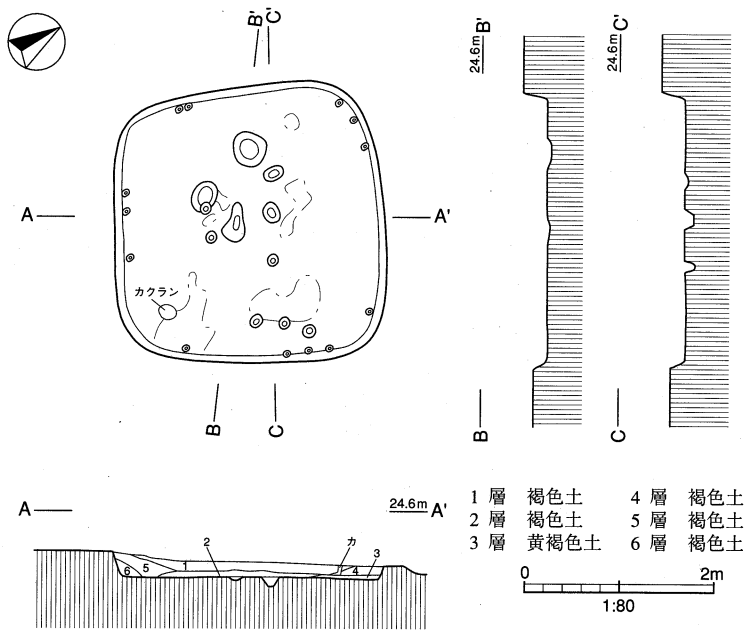


図110 A097

A097

**遺構** ロームを踏み固めた床で、硬化面は部分的に検出された。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上る。

覆土は色調を基本に6層に分層。焼土、炭化材を含む層が多く、人為的な埋没が想定される。

**遺物** 覆土中から小破片が少量出土したのみである。

**所見** 出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断した。本遺跡においては小型の住居跡である。覆土の観察及び遺物の出土状況から本住居跡は廃絶の際に火を燃やし、遺物は持ち去ったものと考えられる。

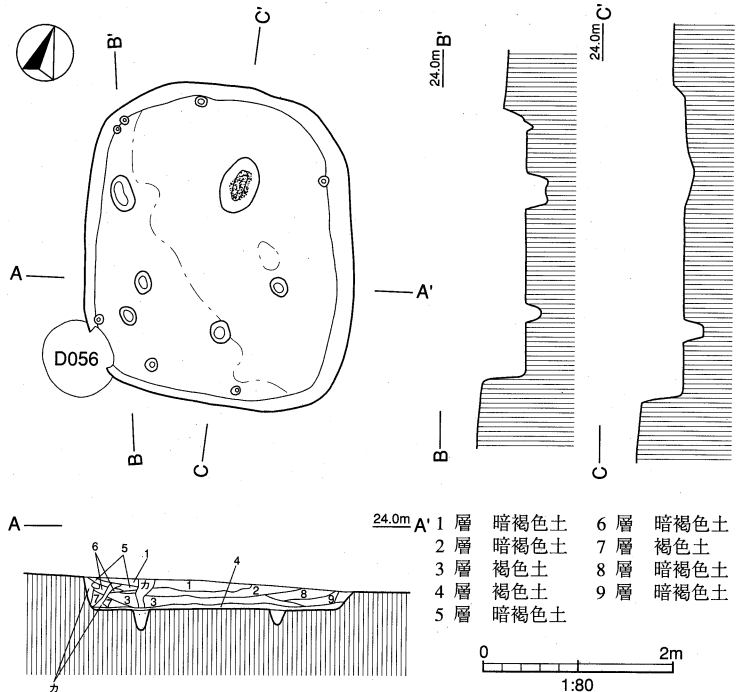


図111 A098

A098

**遺構** ロームを踏み固めた床で、硬化面は広範囲に広がる。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上る。

覆土は色調を基本に9層に分層。覆土上層に微量の焼土、炭化材を含むがおおむね自然堆積と思われる。D056と重複関係にあるが、覆土の観察から本住居跡の方が古い。

**遺物** 覆土中から小破片が少量出土したのみである。

**所見** 出土遺物、規模及び形態から弥生時代後期の住居跡と判断した。本遺跡においては小型の住居跡である。

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は住居跡南側に広がる。壁はロームの壁ではほぼ垂直に立ち上る。

覆土は色調を基本に12層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺物 床面直上から覆土中にかけて比較的多く出土した。

所見 出土遺物から、弥生時代後期の住居跡と判断した。印手系土器と南関東系土器とが共伴する住居跡である。本遺跡においては小型の住居跡である。

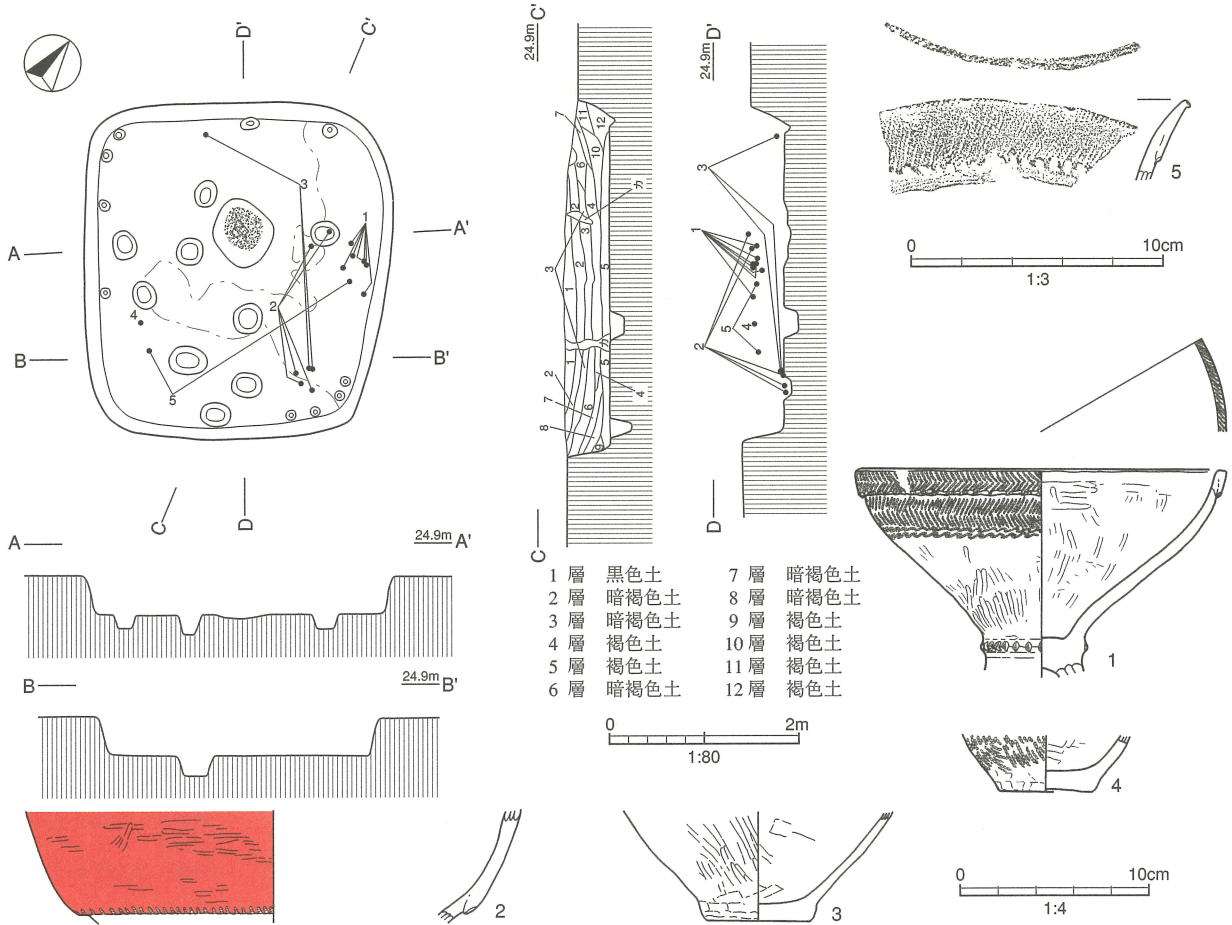


図112 A099

表48 A099遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 高坏	(19.8)×-×(11.0) 外面 口縁-羽状縄文 下端-縄文原体の押圧 口唇上-L R単節縄文 体部-羽状縄文→結節2段→ナデ後縦位のヘ ラミガキ 接合部-突帯状に縄文原体の押圧 内面 ナデ後ヘラミガキ	橙褐 普	粗 粗砂粒多	1/2	押圧を施した突 帯をもつ
2	弥生 壺	-×-×(6.00) 輪積 外面 胴部-ナデ後ヨコヘラミガキ一部タテヘラミガキ 有段部下端 に刻み目 内面 器面の剥離が著しく不明 胴部-有段部をもつ	褐 普	粗 粗砂粒多	1/4 以下	赤彩
3	弥生 甕	-×5.30×(5.80) 輪積 外面 ヘラケズリ後タテヘラミガキ 下端-ヨコヘラケズリ 内面 ヘラナデ	明褐 普	普 砂粒多	1/4 以下	胴~底部遺存
4	弥生 甕	-×5.00×(3.00) 輪積 外面 付加条縄文 下端-ナデ部ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 底部-平底	暗橙褐 普	普 砂粒多	1/4 以下	胴~底部遺存
5	弥生 甕	輪積 外面 口唇上~口縁部-付加条縄文 口縁下端-棒状工具による刺突 頸部-ナデ 内面 ナデ 口縁-やや外反	暗橙褐 普	普 砂粒少	1/4 以下	口縁部片遺存

表49 竪穴住居跡一覧

(単位m)

遺構番号	検出調査区	平面形 規模;長軸×短軸×壁高 遺物の状況	住居跡の状況 覆土の状況	燃焼施設・位置 周溝・備考
A-055	F9-69	隅丸長方形 4.64×4.12×0.51 N-44°-W	床面 ロームを踏み固めた床で、中央部がやや軟弱。硬化面 部分的にあり	カクランのため不明 周溝 一部有り 周溝幅 0.12m
		覆土中に少量出土。住居南側にやや集中	色調を基本に12層に分層。自然堆積	
A-056	F9-78	隅丸長方形 4.24×3.31×0.32 N-34°-W	床面 ロームを踏み固めた床。住居中央部がやや軟弱 硬化面 部分的にあり	地床炉 中央からやや北による 周溝 検出されず
		覆土中に少量出土	色調を基本に13層に分層。自然堆積	
A-057	F9-49	小判形 4.43×3.54×0.42 N-36°-W	床面 ロームを踏み固めた床 住居中央部がやや軟弱	地床炉 中央からやや北による
		遺物量少ない。床直完形遺物1点出土	色調を基本に16層に分層。おおむね自然堆積であるが埋没の途中で焚かれる	
A-058	G9-61	不整形 4.00×3.52×0.12 N-13°-W	炉が検出されていないが、床はロームを踏み固めた床で、硬化面部分的にあり	炉 検出されず 柱穴 2本 周溝 なし
		遺物量少ない	色調を基本に9層に分層。自然堆積	
A-059	G9-84	小判形 4.13×3.50×0.44 N-35°-W	床面 ロームを踏み固めた床 硬化面 炉を中心に広範囲に広がる	地床炉 中央からやや北による 周溝 一部有り 周溝幅 0.12m
		覆土中から小破片2点のみ	色調を基本に15層に分層。自然堆積	
A-060	G10-22	隅丸長方形 3.23×2.93×0.31 N-31°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 炉を中心に住居中央部に広範囲に広がる	地床炉 中央からやや北による 周溝 検出されず
		覆土中から少量出土	色調を基本に9層に分層。自然堆積	
A-061	G10-12	小判形 6.41×5.40×0.31 N-47°-W	床 ロームを踏み固めた床 住居中央部はやや軟弱である	炉 検出されず 柱穴 4本 周溝 全周 周溝幅 0.23m
		覆土中に少量出土	色調を基本に13層に分層。自然堆積	
A-062	G10-4	不整形 2.78×2.90×0.46 N-41°-W	床ロームを踏み固めた床	地床炉 中央からやや北による 柱穴 1本 周溝 検出されず
		遺物量少ない	色調を基本に11層に分層。自然堆積	
A-063	G10-23	不整形 3.74×3.34×0.44 N-40°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 炉を中心に住居中央に広がる	地床炉 中央からやや北による 柱穴 2本 周溝 一部有り 周溝幅 0.12m
		遺物量は少ない	色調を基本に19層に分層。自然堆積	
A-064	G10-3	隅丸長方形 4.90×3.78×0.58 N-39°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 炉を中心に住居中央に広範囲に広がる	地床炉 中央からやや北西壁による 柱穴 4本 周溝 一部有り 周溝幅 0.12m
		遺物量は少ない	色調を基本に15層に分層。自然堆積	



遺構番号	検出調査区	平面形 規模；長軸×短軸×壁高 遺物の状況	住居跡の状況 覆土の状況	燃焼施設・位置 周溝・備考
A-065	G10-4	隅丸長方形 4.80×4.26×0.56 N-50°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 炉を 中心に住居中央で広範囲に広がる	地床炉 中央からやや北 面壁側による 柱穴 4本 周溝 検出されず
		遺物量は少ない	色調を基本に12層に分層。自然堆積	
A-066	G9-94	小判形 8.98×7.18×0.68 N-50°-W	床 ロームを踏み固めた床。住居中央はや や軟弱	地床炉 2基。2基共に 中央からやや北による 柱穴 4本 周溝 検出されず 柱穴の配列から拡張が考 えられる
		遺物量は少ないが、床直遺物が比較的 多い	色調を基本に18層に分層。自然堆積	
A-067	G9-87	隅丸方形 3.10×2.86×0.20 N-56°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 一部 あり	炉 検出されず 周溝 検出されず
		遺物量は少ないが床直遺物あり	色調を基本に12層に分層。自然堆積	
A-068	G9-96	小判形 8.51×6.50×0.52 N-66°-W	床 ロームを踏み固めた床。住居中央はやや 軟弱。硬化面 一部あり	地床炉 4基有り 柱穴 6本うち2本は拡 張後のものと考えられる 周溝幅 0.12m
		遺物量は少ない	色調を基本に15層に分層。自然堆積	
A-069	G9-87	小判形 7.40×5.64×0.34 N-51°-W	床 ロームを踏み固めた床。住居中央はや や軟弱	地床炉 中央からやや北 西壁側による。2基有り 柱穴 4本 周溝 一部有り 周溝幅 0.1m
		覆土上層～床直にかけて大量に出土	色調を基本に16層に分層。自然堆積	
A-070	G9-19	隅丸方形 3.20×3.00×0.30 N-24°-W	床 ロームの床でやや軟弱。掘り込みの浅 い住居跡	地床炉 中央からやや北 による 柱穴 4本 周溝 検出されず
		遺物量は少ない	色調を基本に9層に分層。自然堆積	
A-071	H9-12	小判形 -×-×0.52 -	床 ロームを踏み固めた床 中央部はやや軟弱	地床炉 周溝 一部有り 周溝幅 0.21m 調査区外へ遺構がのびる
		遺物量は少ない	色調を基本に20層に分層。自然堆積	
A-072	H9-12	小判形 4.20×3.60×0.40 N-16°-W	床 ロームを踏み固めた床で、全体的にし っかりしている	地床炉 中央からやや北 による 柱穴 4本 周溝 一部有り
		床直から覆土中にかけて比較的多く出 土	色調を基本に11層に分層。自然堆積	
A-073	H8-93	小判形 5.90×4.70×0.60 N-37°-W	床 ロームを踏み固めた床で全体的にし っかりしている	地床炉 中央から北によ り、柱穴間 柱穴 4本 周溝 一部有り 周溝幅 0.18m
		覆土中から少量出土	色調を基本に16層に分層。自然堆積	
A-074	H8-94	隅丸長方形 -×5.41×0.31 -	床 ロームを踏み固めた床で壁際に硬化面 が広がる。住居中央ではやや軟弱	地床炉 中央から北によ り、柱穴間 柱穴 4本 周溝 一部有り 周溝幅 0.2m 調査区外へ遺構がのびる
		覆土中から小破片が少量出土	色調を基本に15層に分層。自然堆積	

遺構番号	検出調査区	平面形 規模；長軸×短軸×壁高 遺物の状況	住居跡の状況 覆土の状況	燃焼施設・位置 周溝・備考
A-075	H8-94	小判形 5.40×4.70×0.60 N-30°-W	床 ロームを踏み固めた床で壁際に硬化面が広がる。住居中央ではやや軟弱	地床炉 中央から北による 柱穴 2本 周溝 一部有り 周溝幅 0.14m
		覆土中から小破片が少量出土	色調を基本に17層に分層。自然堆積	
A-076	H9-2	小判形 11.0×8.30×0.50 N-33°-W	床 ロームを踏み固めた床。中央部はやや軟弱	地床炉 中央からやや北により、柱穴間 柱穴 4本 周溝 全周 周溝幅 0.2m
		床面直上から覆土中にかけて少量出土	色調を基本に16層に分層。自然堆積	
A-077	H8-82	隅丸長方形 6.10×5.00×0.60 N-24°-W	床 ロームを踏み固めた床で、全体的にしっかりしている	地床炉 中央から北による 柱穴間 柱穴 4本 周溝 検出されず
		床面直上から覆土中にかけて少量出土 壁際からの出土が比較的多い	色調を基本に17層に分層。自然堆積	
A-078	H8-75	不整形 6.10×5.00×0.50 N-31°-W	床 ロームを踏み固めた床。炉の周囲に一部硬化面有り	地床炉 中央から北による 柱穴間 柱穴 4本 周溝 一部有り 周溝幅 0.2m
		覆土中から小破片が少量出土したのみ	色調を基本に13層に分層。自然堆積	
A-079	H8-74	不整形 6.12×5.40×0.50 N-38°-W	床 ロームを踏み固めた床。全体的にしっかりしている	地床炉 中央から北による 柱穴間 柱穴 4本 周溝 一部有り 周溝幅 0.21m
		覆土中から床面直上にかけて少量出土 住居南側及び東側コーナーでやや多め	色調を基本に14層に分層。自然堆積	
A-080	H8-73	小判形 10.33×8.10×0.50 N-27°-W	床 ロームを踏み固めた床。中央部やや軟弱	地床炉 中央から北により、柱穴間 柱穴 4本 周溝 ほぼ全周 周溝幅 0.11m 壁柱穴の配列から拡張と考えられる
		床面直上から覆土中にかけて少量出土 床面レベルで金属品出土	色調を基本に9層に分層。自然堆積	
A-081	H8-64	隅丸長方形 11.2×8.50×0.80 N-40°-W	床 ロームを踏み固めた床。住居南側に硬化面が広がる	地床炉 中央から北による 柱穴間 柱穴 4本 周溝 ほぼ全周 周溝幅 0.21m
		床面直上から覆土中にかけて土器を中心に多量に出土	色調を基本に25層に分層。自然堆積	
A-082	H8-54	不整形 4.60×4.90×0.30 S-32°-W	床 ロームの床であるが、全体的に軟弱な床である	地床炉 南壁側による 柱穴 4本 周溝 検出されず
		床面直上から覆土中にかけて少量出土	色調を基本に12層に分層。自然堆積	
A-083	H8-43	不整形 3.60×-×0.40 N-53°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 部分的にあり	地床炉 西壁側による 周溝 検出されず
		床直上、住居跡北側で土器が比較的多く出土	色調を基本に14層に分層。自然堆積	
A-084	H8-23	隅丸方形 3.80×4.10×0.30 N-26°-W	床 ロームの床。硬化面 一部にあり	地床炉 中央から北による 柱穴 4本 周溝 検出されず
		覆土中から小破片が少量出土	色調を基本に9層に分層。自然堆積	

遺構番号	検出調査区	平面形 規模;長軸×短軸×壁高 遺物の状況	住居跡の状況 覆土の状況	燃焼施設・位置 周溝・備考
A-085	H8-24	隅丸長方形 6.50×5.30×0.20 N-45°-W	床 ロームの床で軟弱である。硬化面は認められない	地床炉 2基有り 中央から北西による 周溝 検出されず
		少量出土	色調を基本に7層に分層。自然堆積	
A-086	H8-25	隅丸長方形 4.80×4.00×0.70 N-34°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 住居 中央に広範囲に広がる	地床炉 中央から北による 周溝 検出されず
		覆土中から床直にかけ比較的多く出土	色調を基本に19層に分層。自然堆積	
A-087	H7-84	隅丸長方形 7.30×5.60×0.70 N-34°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 住居 壁際で検出。住居中央はやや軟弱	地床炉 中央からやや北による 柱穴 4本 周溝 一部にあり 周溝の検出状況から拡張されたものと考えられる
		遺物量は少ない	色調を基本に14層に分層。自然堆積	
A-088	H7-62	楕円形 4.40×3.50×0.50 N-53°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面は広範囲に広がる	地床炉 中央やや西による 柱穴 (4本) 周溝 一部有り 周溝幅 0.15m
		遺物量は少ない	色調を基本に9層に分層。自然堆積	
A-089	G7-49	隅丸長方形 7.70×5.50×0.70 N-47°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 住居 南西に広範囲に広がる	地床炉 中央からやや北西による 周溝 一部有り 周溝幅 0.22m
		遺物量は少ない	色調を基本に11層に分層。自然堆積	
A-090	G7-10	不整形 3.90×3.80×0.40 S-23°-W	床 ロームを踏み固めた床	地床炉 中央からやや北による 周溝 検出されず
		遺物量は少ない	色調を基本に11層に分層。人為的堆積か?	
A-091	G6-83	小判形 6.20×4.70×0.50 N-55°-W	床 ロームを踏み固めた床。	地床炉 中央からやや北西による 柱穴 4本 周溝 検出されず
		遺物量は少ない	色調を基本に13層に分層。人為的堆積	
A-092	G6-44	不整形 4.80×5.00×0.30 N-58°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 住居 南東部で一部検出	地床炉 2基あり、それぞれ中央から西側による 周溝 検出されず
		遺物量は少ない	色調を基本に10層に分層。自然堆積	
A-093	G10-32	隅丸長方形 4.68×3.90×0.54 N-32°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 炉を 中心として広範囲に広がる	地床炉 2基ありそれぞれ中央から北側による 周溝 検出されず
		床直上から覆土中にかけて出土	色調を基本に13層に分層。自然堆積	
A-094	G9-38	隅丸方形 3.44×3.34×0.44 N-27°-W	床 ロームを踏み固めた床。住居跡中央は やや軟弱である	地床炉 住居中央から北面コーナーによる
		遺物量は少ない	色調を基本に15層に分層。自然堆積	

遺構番号	検出調査区	平面形 規模；長軸×短軸×壁高 遺物の状況	住居跡の状況 覆土の状況	燃焼施設・位置 周溝・備考
A-095	G9-49	(隅丸方形) 4.31×3.84×0.03 N-34°-W	床 ロームを踏み固めた床	地床炉 住居跡中央から 北側コーナーによる 周溝 検出されず
		遺物量は少ない	色調を基本に2層に分層。自然堆積	
A-096	H8-55	方形 2.43×2.21×0.42 N-35°-W	床 ロームを踏み固めたしっかりとした床	地床炉 住居跡中央から 北西壁による 周溝 検出されず
		覆土中からの出土が多い	色調を基本に4層に分層。人為的堆積	
A-097	H8-72	隅丸方形 3.00×2.90×0.20 N-52°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 部分的にあり	地床炉 住居中央から西 壁側による 周溝 検出されず 焼失家屋か？
		出土量のごくわずかであった	色調を基本に6層に分層。炭化材・焼土粒 を含み人為的堆積	
A-098	H8-71	隅丸長方形 3.40×2.90×0.30 N-12°-W	床 ロームを踏み固めた床で硬化面が広範囲に広がる	地床炉 住居中央から北 側による 周溝 検出されず
		出土量のごくわずかであった	色調を基本に9層に分層。覆土上層に炭化 材・焼土を微量含む。自然堆積	
A-099	H8-43	隅丸長方形 3.60×3.20×0.50 N-37°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面が住居南側に広がる	地床炉 中央から北西壁 による 周溝 検出されず
		床面直上から覆土上層にかけて比較的 多く出土した	色調を基本に12層に分層。自然堆積	

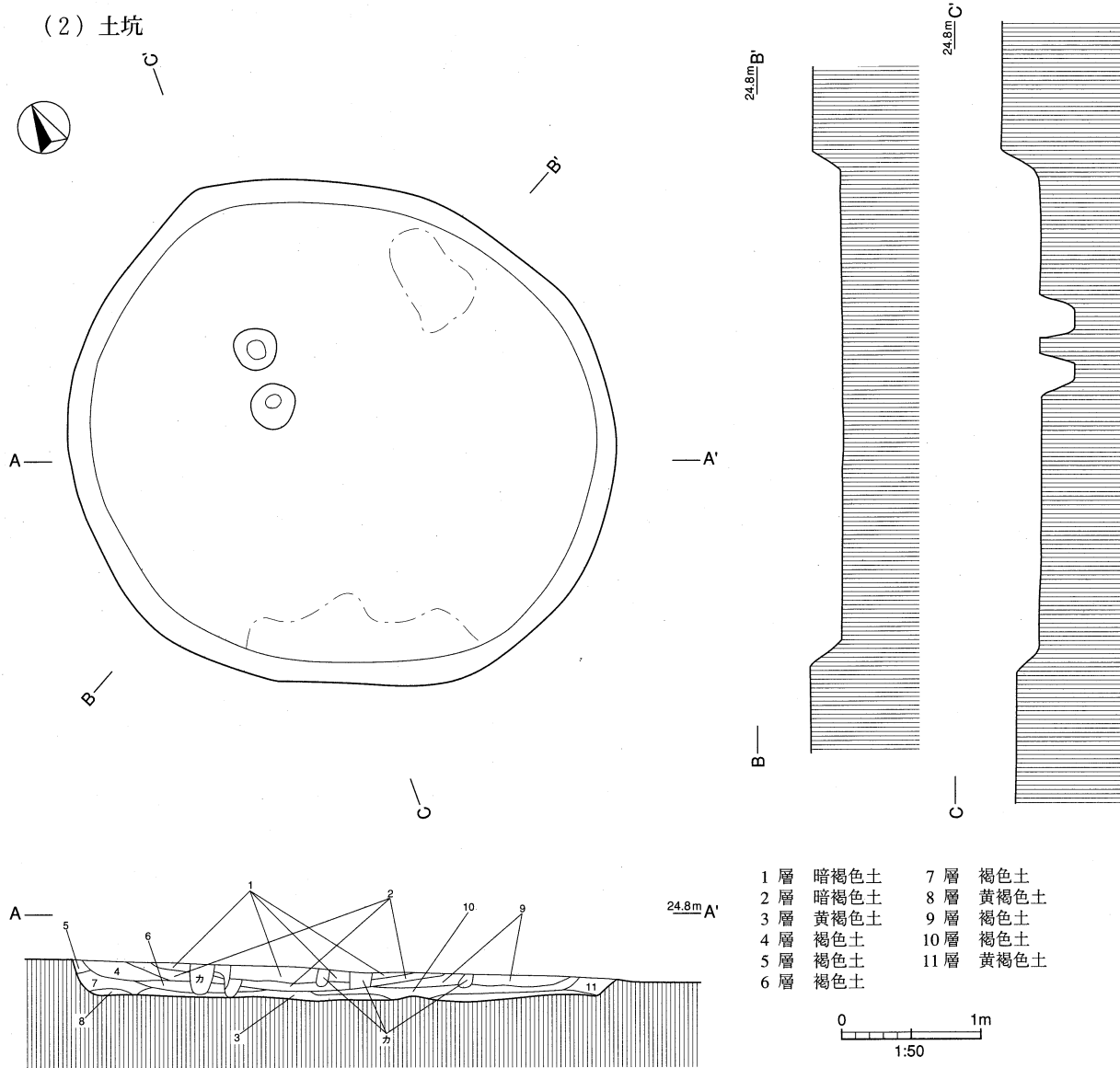


図113 D046

D046

検出地区 H8-27G

遺構 長軸4.0m、短軸3.8m、深さ0.22m、長軸の方位は、N-2°-Wの不正形を呈する土坑である。底面はロームの底面でほぼ平坦。一部に踏み固められた部分がある。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。付属施設として底面に小穴を2基検出。

覆土は色調を基本に11層に分層され、自然堆積による埋没が考えられる。

遺物 覆土中から小破片が少量出土したのみ。

所見 当初、規模・形態から住居跡としての検討も行ったが、炉が検出されず、遺物出土量も少ない。これらの事などから、ここでの判断としては、出土遺物等から弥生時代後期とした。

第3項 古墳時代前期

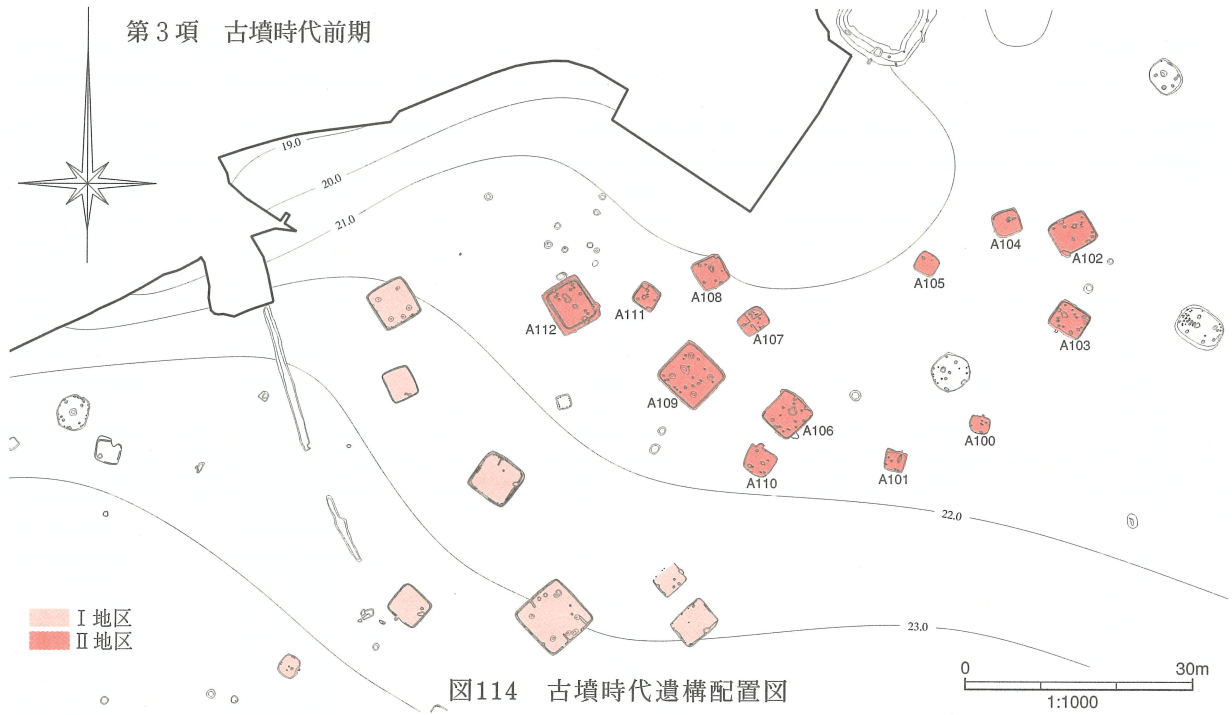
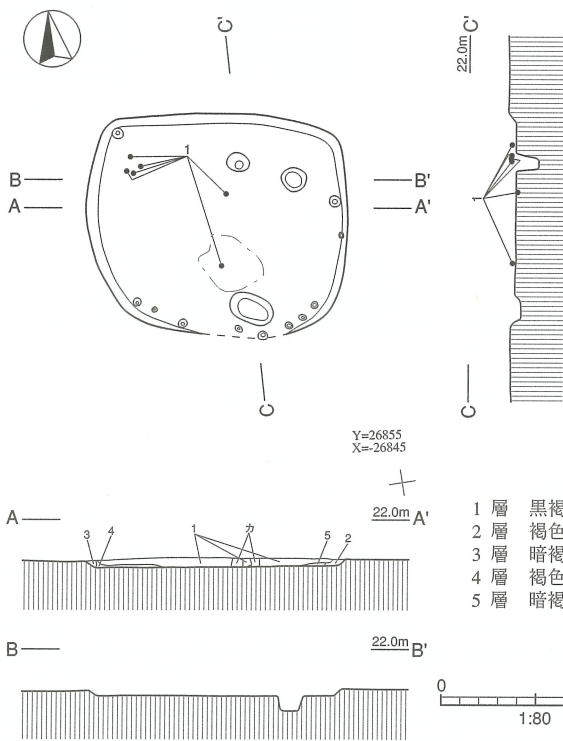


図114 古墳時代遺構配置図



A100

**遺構** ロームを踏み固めた床で、一部に硬化面が広がる。壁はロームの壁であるが、掘り込みは浅く斜めに立ち上がっていく。住居跡南側において、壁は検出されなかった。

覆土は色調を基本に5層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

**遺物** 小破片が少量出土したのみ。

**所見** 炉が検出されていないものの、形態、規模、出土遺物等から古墳時代前期の住居跡と判断した。本遺跡では小型の住居跡に属す。

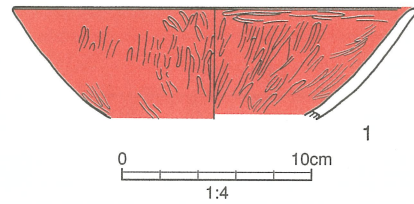


図115 A100

表50 A100遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 高坏	(214)×-×(59) 輪積 口縁；二次的被熱 外面 タテハラミガキ 内面 ヨコハラミガキ後タテハラミガキ	明橙褐 普	粗 砂粒少	1/4	内面スス付着 赤彩

A101

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は住居跡壁際に広範囲に広がる。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に14層に分層。焼土が広範囲から検出され、焼失住居の可能性はある。人為的堆積による埋没が想定される。

遺物 床面直上から覆土中にかけて少量出土。

所見 出土遺物等から古墳時代前期の住居跡と判断した。本遺跡では小型の住居跡に属す。

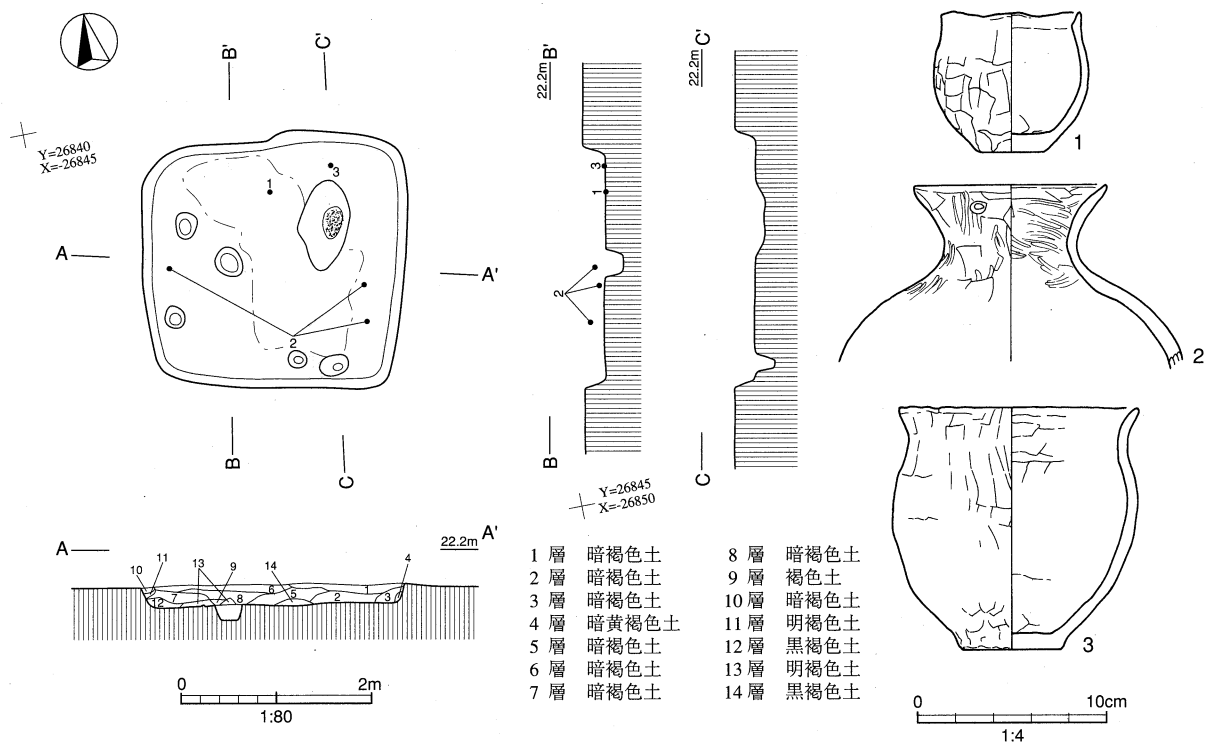


図116 A101

表51 A101遺物観察表

(単位mm)

No.	種別 器形	法量 成形・調整等の特 口徑×底徑×器高 等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 鉢	75×38×75 外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 ヘラケズリ後ヨコナデ	明橙褐 普	普 砂粒多	ほぼ 完形	
2	土師器 壺	102×-×(94) 外面 ヘラケズリ後タテヘラミガキ 内面 ヘラケズリ後ヨコヘラミガキ	暗赤褐 硬	密 砂粒少	1/4 口縁～ 胴部	
3	土師器 小型甕	128×55×13 輪積 外面 口縁部-ヘラケズリ 胴部-ヘラナデ 胴下端-ヘラケズリ 内面 口縁部-ヘラケズリ 胴部-ナデ 胴下端-ヘラケズリ 口縁・やや外反 底部・平底	橙褐 普	粗 粗砂粒 多	完形	黒斑有 外面スス附着

遺 構      ロームを踏み固めた床で、一部に硬化面が広がる。貯蔵穴の周囲に凸堤有り。壁は、わずかであるがロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に6層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺 物      床面直上から覆土下層にかけて多量に出土。

所 見      出土遺物等から古墳時代前期の住居跡と判断した。

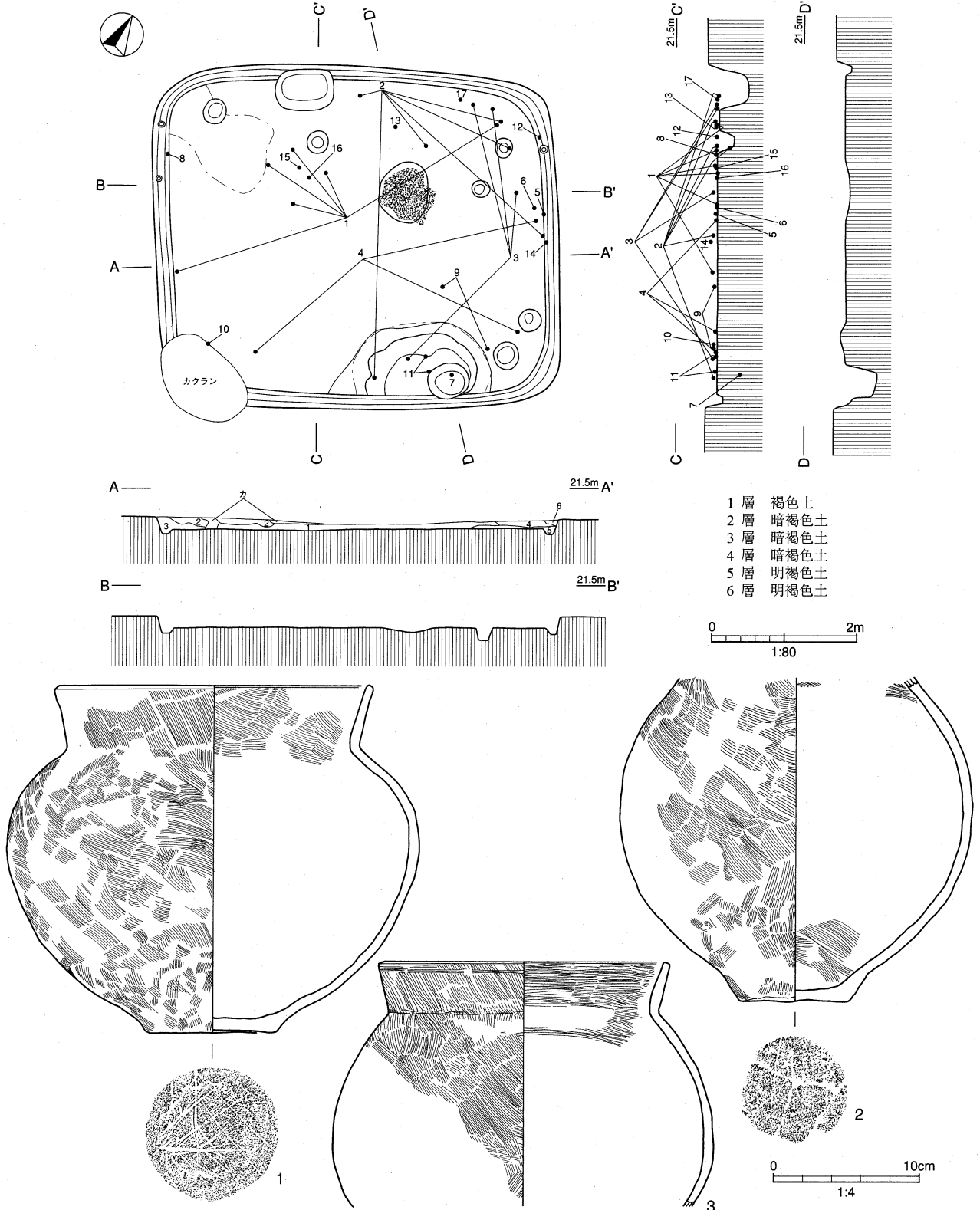
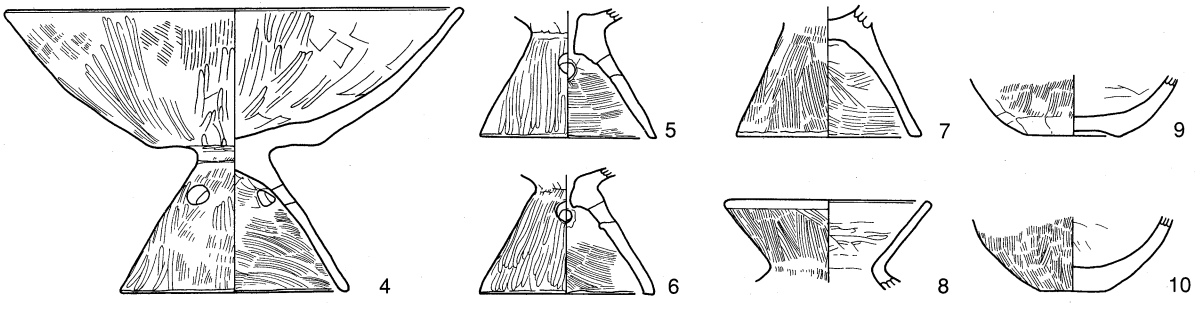
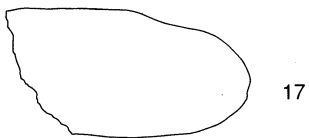
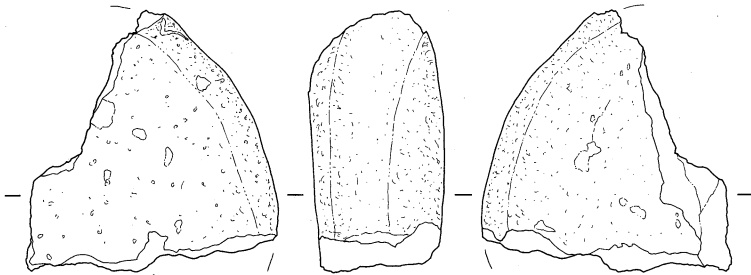
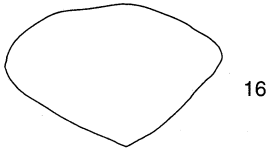
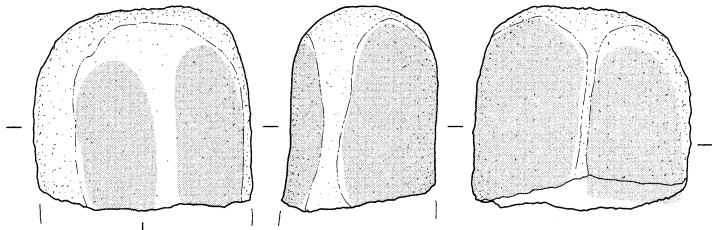
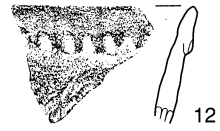
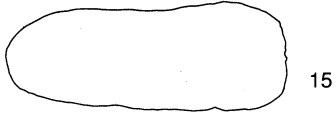
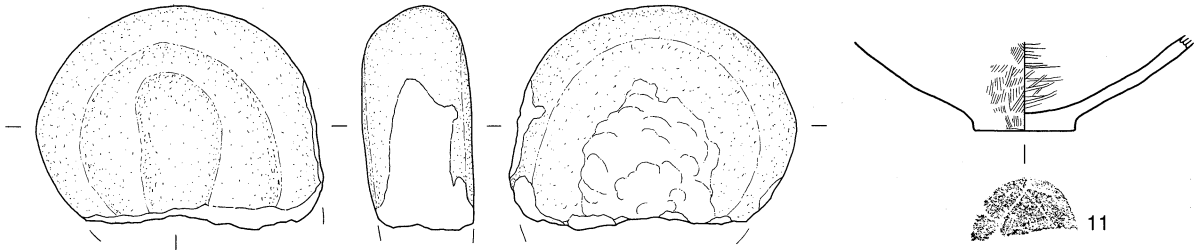


図117 A102





0 10cm  
1:4



0 10cm  
1:3

图118 A102(2)

表52 A102遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 甕	(220)×90×243 外面 不定方向のハケ 内面 口縁部-ヨコハケ 胴部-ナデ? 器面の剥離著しい	明橙褐 軟	普 粗砂粒多	2/3	外面にスス付着 底面に木葉痕
2	土師器 甕	—×75×(225) 外面 不定方向のハケ 内面 ナデ 頸部及び胴下半-ヨコ・ナナメのハケ	明黄褐 普	密 砂粒多	1/2	底面に木葉痕
3	土師器 甕	200×—×(170) 外面 口唇-ナデ 胴部-ハケ 口縁部-ハケ後一部ナデ 内面 口縁~頸部-ヨコハケ 胴部-ナデ	暗褐 普	粗 砂粒多	1/4	外面スス付着
4	土師器 高坏	(242)×120×151 外面 タテ・斜位のハケ後タテヘラミガキ 内面 ヘラナデ後タテヘラミガキ 脚内面-ヨコハケ	明橙褐 普	密 砂粒多	2/3	体部下端に稜有 脚部「ハ」の字状 底部透し孔2個
5	土師器 器台	—×94×(67) 外面 接合部-ヘラケズリ、タテヘラミガキ 内面 接合部-ヘラケズリ、ヨコ・ナナメのハケ 器受部底面-ヘラケズリ後ヘラミガキ	明橙 普	密 砂粒多	1/2 脚部	中央に貫通孔 脚部透し孔2個 「ハ」の字状
6	土師器 器台	—×94×(67) 外面 接合部-ヘラケズリ 脚部-タテハケ後タテヘラミガキ 内面 器受底面ヘラミガキ 接合部-ヘラケズリ 脚部-ハケ	橙 硬	普 砂粒多	1/2 脚部	脚部中央貫通孔 透し孔2個 「ハ」の字状
7	土師器 甕	—×96×(67) 外面 タテハケ 内面 接合部-ヘラケズリ ナナメのハケ	明赤褐 軟	普 砂粒多	1/4 脚部	脚部「ハ」の字状
8	土師器 壺	110×—×(146) 外面 口縁部-ヨコナデ後ナナメハケ 内面 ヘラケズリ後ヨコナデ後ヨコヘラミガキ	暗橙 普	普 砂粒多	1/4 口縁部 片	
9	土師器 甕	—×50×(30) 外面 タテハケ 下端-ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ	暗黄褐 軟	普 砂粒多	1/4 底部片	
10	土師器 小型甕	—×36×(39) 外面 タテ・ナナメのハケ 底面-ハケ 内面 ヘラナデ	明橙褐 普	普 粗砂粒多	1/4 底部片	
11	土師器 甕	—×(54)×(47) 外面 タテ・ナナメのハケ 内面 不定方向のヘラミガキ	明赤褐 普	粗 砂粒少	1/4 底部片	底面に木葉痕
12	弥生 甕	外面 ヨコナデ後ヨコヘラミガキ 下端に棒状工具による押圧無節L 内面 ヨコナデ 縄文、施文、内外面とも器面が磨 耗している	暗褐 軟	粗 砂粒多	口縁 部片	複合口縁
13	弥生 甕	外面 複合上部に縄の末端のループとRL単節縄文か? 器面の磨耗が著しい為判断が難しい 内面 ヘラケズリ後ヨコヘラミガキ	暗褐 軟	密 砂粒・ 雲母多	口縁 部片	複合口縁
14	弥生 甕	外面 ヨコナデ後無節L→結節1段 内面 ヨコナデ	暗褐 普	密 砂粒多	口縁 部片	複合口縁
15	石器 石皿	90×114×45 610.7g 1/3程欠くが、片面に良好な磨痕があり凹んでいる もう片面は中央部を中心に敲打痕が多く残されており凹石として使用 も考慮される				泥石
16	石器 磨石	82×87×60 509.3g 半欠、大形の磨石 粗い磨痕が残されており、一部凹みを持つ				
17	石器 石皿	104×100×56 647.3g 一部のみ残存 両面に良好な研磨痕が見られるが、凹みはない				安山岩
18	弥生 甕	外面 ヨコナデ後無節L縄文→結節1段 内面 ヨコナデ後ヨコヘラミガキ	暗褐 軟	普 砂粒多	口縁 部片	複合口縁

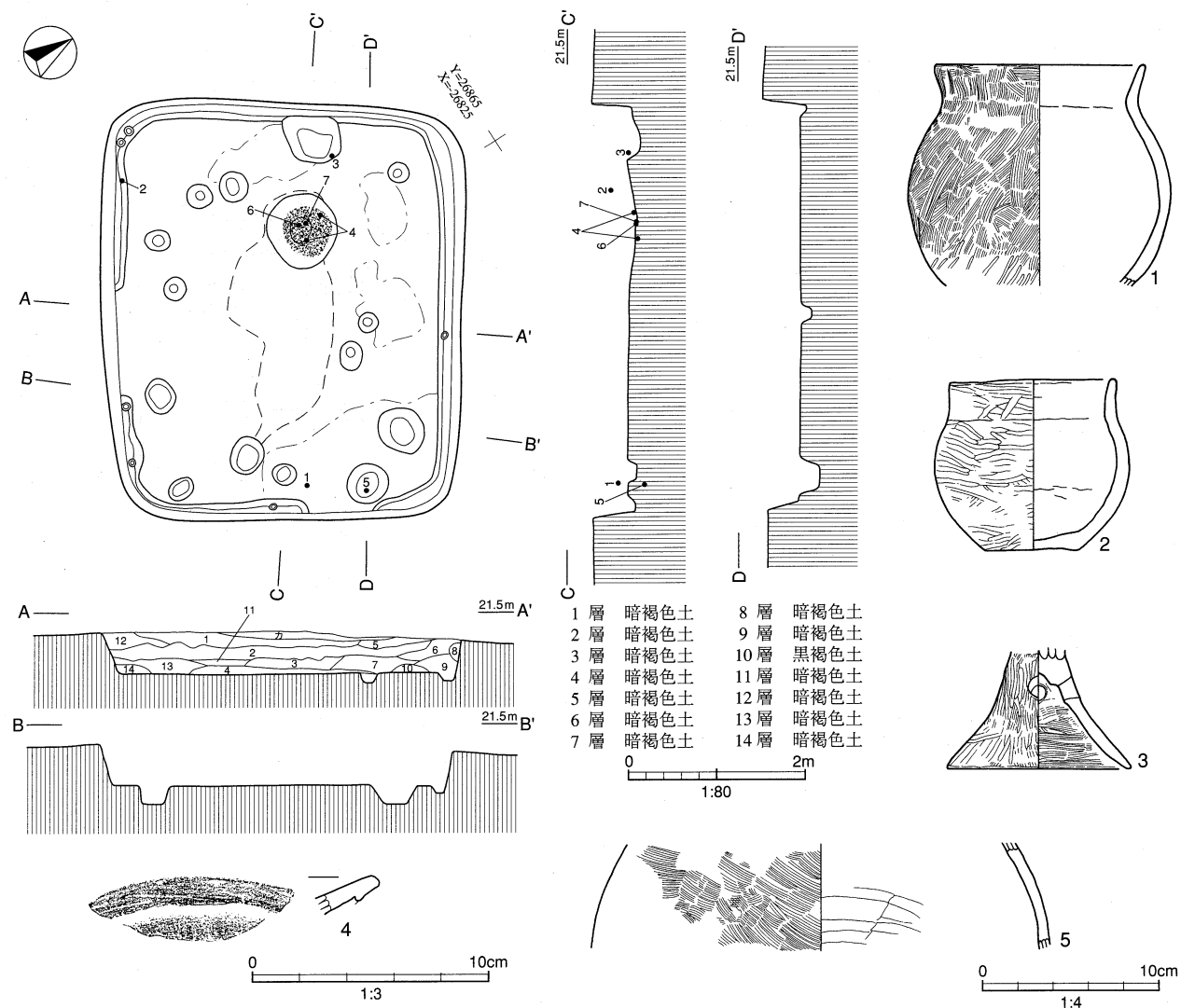


図119 A103

表53 A103遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 甕	(120)×-×(126) 最大径150 輪積 外面 口唇部-ヨコナデ 頸~胴部-ハケ 下半-一部ヘラミガキ? 内面 ナデ 口縁-やや外反 胴部-球胴状 頸部-緩やか	明褐 軟	密 砂粒多	2/3	
2	土師器 小型甕	94×54×98 最大径110 輪積 外面 口縁部-ナデ後ヨコヘラミガキ、一部ナナメのヘラミガキ 胴部-ヘラケズリ後ヨコヘラミガキ 内面 口縁-直口縁 底部-平底、粘土痕を残す	暗橙褐 普	粗 粗砂粒多	完形	黒斑有 内外面スス附着
3	土師器 高坏	-×106×(67) 輪積 外面 タテハケ後タテヘラミガキ 裾部-ヨコヘラミガキ 内面 接合部-ヘラケズリ後ナナメ及びヨコのハケ 底部-脚部透し孔2個	明褐 軟	粗 粗砂粒多	1/2 脚部	
4	土師器 甕	-×-×- 輪積 外面 不定方向のハケ 内面 ヨコナデ 器面の剥離一部有	明赤褐	粗 砂粒多	1/4 以下 胴部	外面に少量の スス附着
5	土師器 壺	-×-×- 外面 ヨコナデ後ヨコヘラミガキ 内面 ヨコナデ後タテ・ヨコのヘラミガキ 口縁-複合口縁	明橙褐 軟	普 砂粒・ 雲母多	口縁 部片	

A103

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は部分的に数ヶ所に広がる。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に14層に分層。炭化材が多量に出土し、焼失住居である。人為的堆積による埋没が想定される。

遺物 全体の出土量は少ないが、床面直上から覆土下層にかけて比較的多く出土した。

所見 出土遺物等から古墳時代前期の住居跡と判断した。本遺跡では小型の住居跡に属す。

A104

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は部分的に広がる。住居跡中央部はやや軟弱。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に13層に分層。暗褐色土系の覆土が主体になる。人為的堆積による埋没が想定される。

遺物 小破片が少量出土。

所見 出土遺物等から古墳時代前期の住居跡と判断した。本遺跡では小型の住居跡に属す。

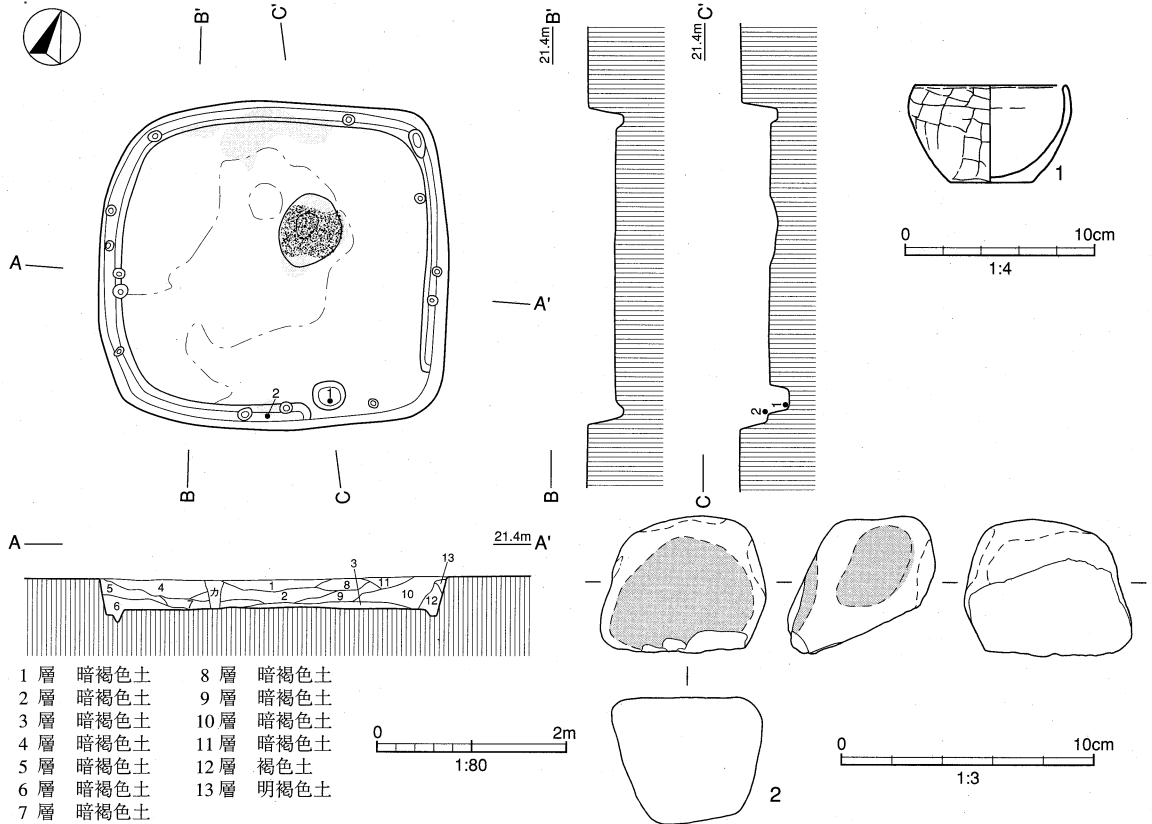


図120 A104

表54 A104遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 鉢?	80×45×52 外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 ナデ 口縁やや内湾	明橙褐 軟	普 砂粒	ほぼ 完形	
2	石器 磨石	55×60×48 半分程欠損するが、残存する各面に良好な研磨痕が残されており、磨石もしくは砥石的な用途が考えられる				

A105

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は部分的に広がる。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に7層に分層。炭化材が床面直上で多量に出土し、焼失住居である。人為的堆積による埋没が想定される。

遺物 床面直上から覆土下層にかけて少量出土した。

所見 出土遺物等から古墳時代前期の住居跡と判断した。本遺跡では小型の住居跡に属す。

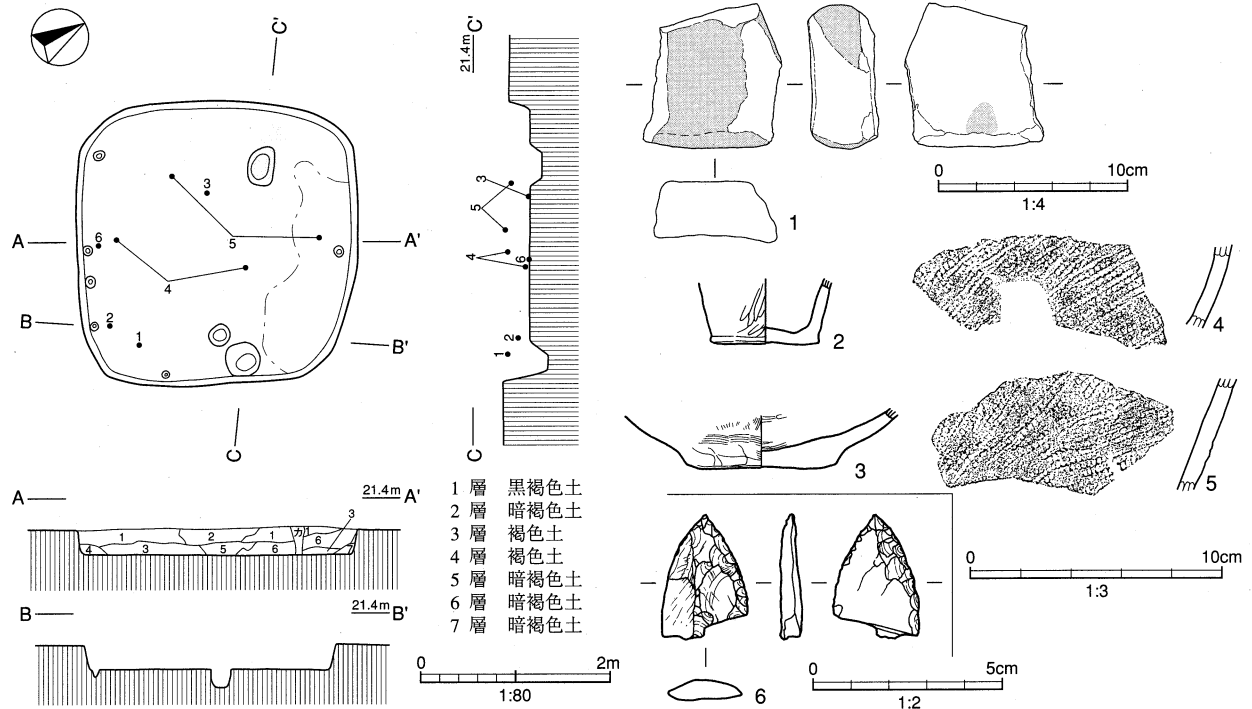
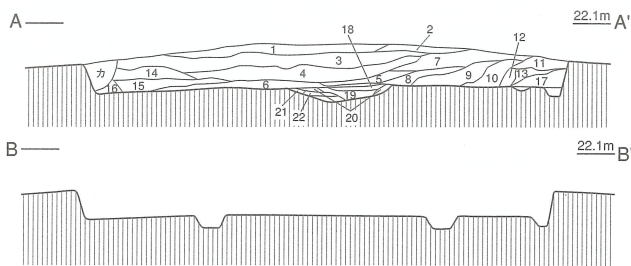
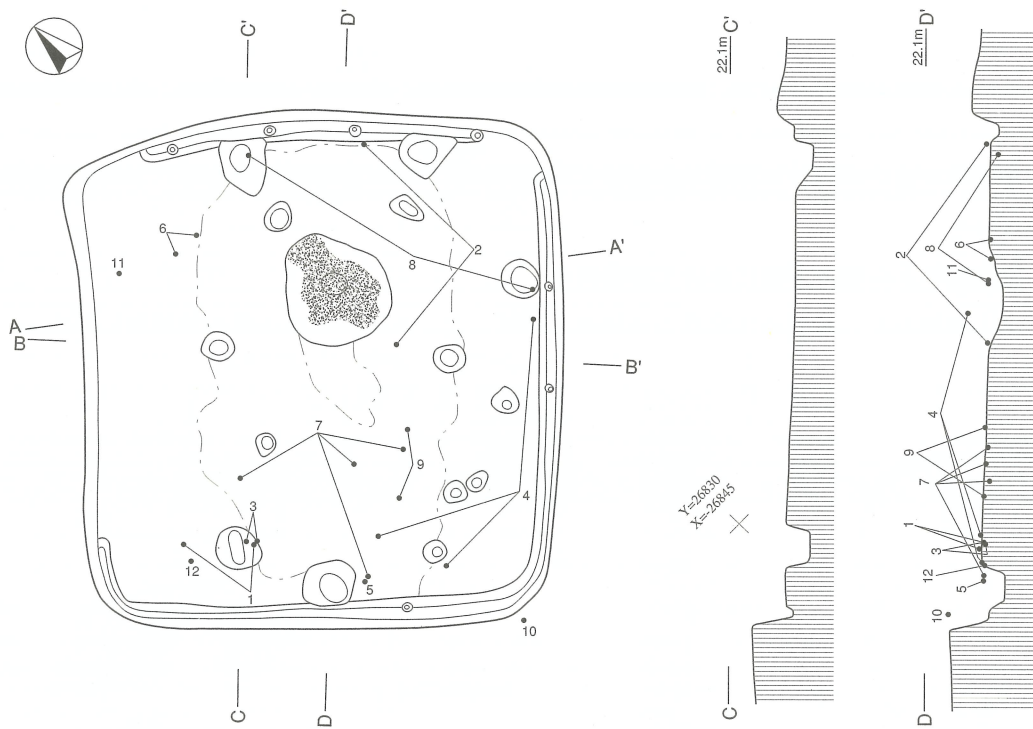


図121 A105

表55 A105遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	口径×底径×器高	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	石器 砥石	76×73×43 253.9g 一端を欠くが、一面に良好な研磨痕や線条痕が残されており、中央部は深く凹んでいる。もう片面や側面にも部分的に研磨痕が認められる					母石-泥岩
2	土師器 甕	外面 ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 器面の剥離が著しく不明 底面-平底	-×(58)×(35)	明褐 普	普 砂粒多	1/4 以下 底部	
3	土師器 甕	外面 タテハケ後ヨコハケ 下端-ヘラケズリ 内面 一部ヨコヘラミガキ 器面の磨耗著しい 底部-平底	-×(80)×(32) 輪積	明橙褐 軟	粗 粗砂粒多	1/4 以下 底部	
4	弥生 甕	外面 付加条縄文 内面 ナデ後ヘラミガキ	-×-×-	暗赤褐 普	密 砂粒多	1/4 以下 胴部片	
5	弥生 甕	外面 付加条縄文 内面 ナデ後ヘラミガキ	-×-×-	暗赤褐 普	密 砂粒多	1/4 以下 胴部片	
6	石器 石鏃	基部を欠損するが、大型の石鏃(挟入の浅い凹基無茎鏃?)と思われる	33×23×6 3.6g				母石-凝灰岩



- |     |      |     |       |
|-----|------|-----|-------|
| 1層  | 暗褐色土 | 12層 | 黑褐色土  |
| 2層  | 暗褐色土 | 13層 | 暗褐色土  |
| 3層  | 暗褐色土 | 14層 | 暗褐色土  |
| 4層  | 褐色土  | 15層 | 褐色土   |
| 5層  | 暗褐色土 | 16層 | 明褐色土  |
| 6層  | 暗褐色土 | 17層 | 赤褐色土  |
| 7層  | 暗褐色土 | 18層 | 暗褐色土  |
| 8層  | 暗褐色土 | 19層 | 暗黃褐色土 |
| 9層  | 暗褐色土 | 20層 | 暗褐色土  |
| 10層 | 褐色土  | 21層 | 暗黃褐色土 |
| 11層 | 暗褐色土 | 22層 | 暗赤褐色土 |

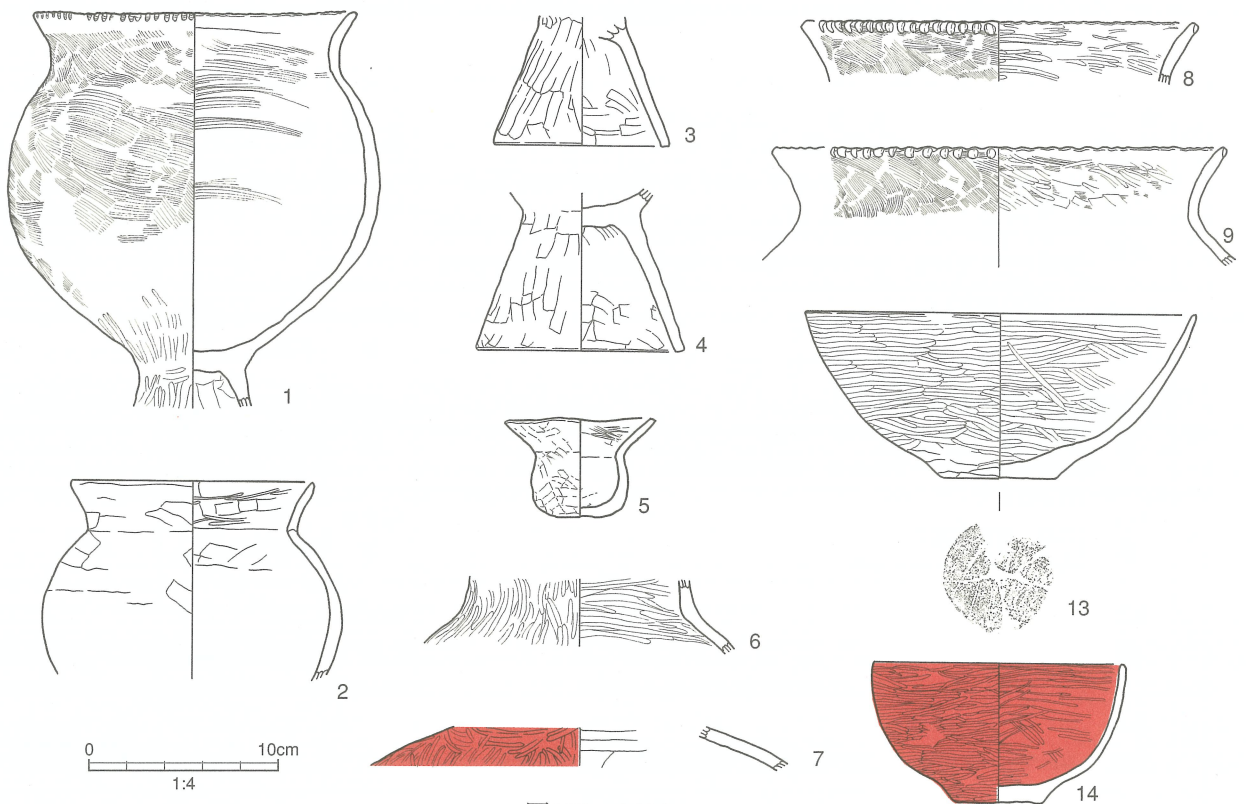


图122 A106

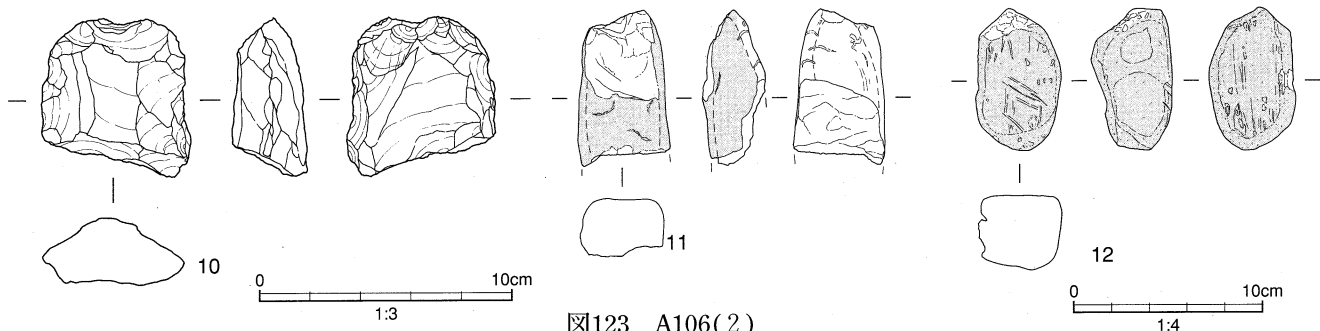


図123 A106(2)

表56 A106遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 台付甕	170×-×(210) 最大径196 外面 口唇部一刻み 口縁部-ヨコナデ 胴部-ハケ 胴下半~脚接合部-ハケ後ヘラミガキ 内面 口縁上-ナデ 口縁下-ハケ 胴部-ナデ 脚部-ヘラケズリ	暗橙褐 普	普 砂粒多	2/3 脚部 欠損	
2	土師器 甕	(130)×-×(103) 最大径推定(160) 輪積-内外面とも明瞭に残す 外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 ヘラケズリ後ナデ 一部ヨコヘラミガキ	赤褐 軟	密 砂粒多	1/4	
3	土師器 台付甕	-×93×(68) 輪積 外面 タテヘラケズリ(ヘラナデ?) 内面 台部接合部-ヘラケズリ 裾部-ヘラナデ	暗褐 硬	密 砂粒少	1/4 以下 台部	
4	土師器 甕	-×(110)×(86) 外面 タテヘラケズリ 内面 ナナメ・ヨコヘラケズリ 台部-「ハ」の字状	暗橙褐 普	普 砂粒多	1/4 以下 台部	
5	土師器 卍	80×30×53 輪積 外面 口唇部-ナデ 口縁~胴上半部-ヘラケズリ後ナデ 胴下半~底部-ヘラケズリ 内面 口縁部-ヘラケズリ後ナデ 胴部-ヘラケズリ	暗黄褐 普	粗 砂・黒 雲母少	完形	
6	土師器 壺	-×-×(36) 輪積 外面 タテヘラミガキ 内面 ヨコヘラミガキ	明橙褐 黒斑有 硬	普 砂粒少	1/4 以下 頸部	
7	土師器 壺	-×-×(23) 外面 ヨコヘラミガキ後タテヘラミガキ 内面 ヘラナデ 器面磨耗 口縁~肩部-ナデ肩(外にひらく)	明橙褐 普	普 粗砂粒少	1/4 以下 肩部	赤彩
8	土師器 甕	(210)×-×(32) 輪積 外面 口唇部-ハケ状工具による押圧 内面 ヘラケズリ後ヨコヘラミガキ	暗褐 硬	密 砂粒多	1/4 以下 口縁	
9	土師器 甕	(240)×-×(60) 輪積 口縁-外反 頸部-「く」の字状に屈曲 外面 口唇部-ハケ状工具による押圧 ナナメのハケ 内面 ヨコハケ後ヨコヘラミガキ	暗褐 硬	密 砂粒多	1/4 以下 口縁部	
10	石器 打製 石斧	64×59×30 127.7g 一端を欠くが打製石斧の残存部分である。元々は撥形か? 全面調整が 施されている。側縁部は複数の剥離痕により急角度に調整されている				
11	石器 砥石	83×49×33 162.6g 全体に欠損が著しく用途を特定しにくい。残存する4面に研磨痕が 残されており、特に一面は凹みを持つことから、砥石のか?				
12	石器 (砥石)	76×46×43 28.8g 四面に研磨痕や線条痕、特に一部は激しい使用のために明瞭な凹みを 残している				母石-軽石
13	土師器 鉢	208×60×88 外面 口縁部-ナデ後ヘラミガキ 胴部-ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 口縁部-ナデ後ヘラミガキ 胴部-ヘラケズリ後ヘラミガキ	暗橙褐 普	密 砂粒多	完形 口縁一 部欠損	
14	土師器 鉢	135×45×74 輪積 ヘラミガキは内外面ともきめ細かい 外面 ヘラケズリ後ヘラミガキ 底面-ヘラケズリ後不定方向のヘラ ミガキ 内面 ヘラケズリ後不定方向のヘラミガキ	暗赤褐 黒斑有 硬	密 砂粒多	完形	赤彩

A106

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は住居跡中央部に広範囲に広がる。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に17層に分層。18~22層は炉のセクション。焼土が部分的に検出され、人為的堆積の後、自然堆積による埋没が考えられる。

遺物 床面直上から覆土上層にかけて多量に出土。

所見 出土遺物等から古墳時代前期の住居跡と判断した。

A107

遺構 ロームを踏み固めた床で、住居跡中央部に貼床が広がる。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。炉は2基検出されたが、検出状況・火床の状況等からR1からR2への作り替えが行われたと考えられる。

覆土は色調を基本に5層に分層。暗褐色土系の覆土を主体とする。自然堆積による埋没が考えられる。

遺物 覆土中から小破片が少量出土。床面直上から小型器台(1)が出土。小型丸底埴と小型器台がセットになった珍しいタイプと言えよう。(6)は覆土中一括遺物である。

所見 出土遺物等から古墳時代前期の住居跡と判断した。本遺跡では小型の住居跡に属す。

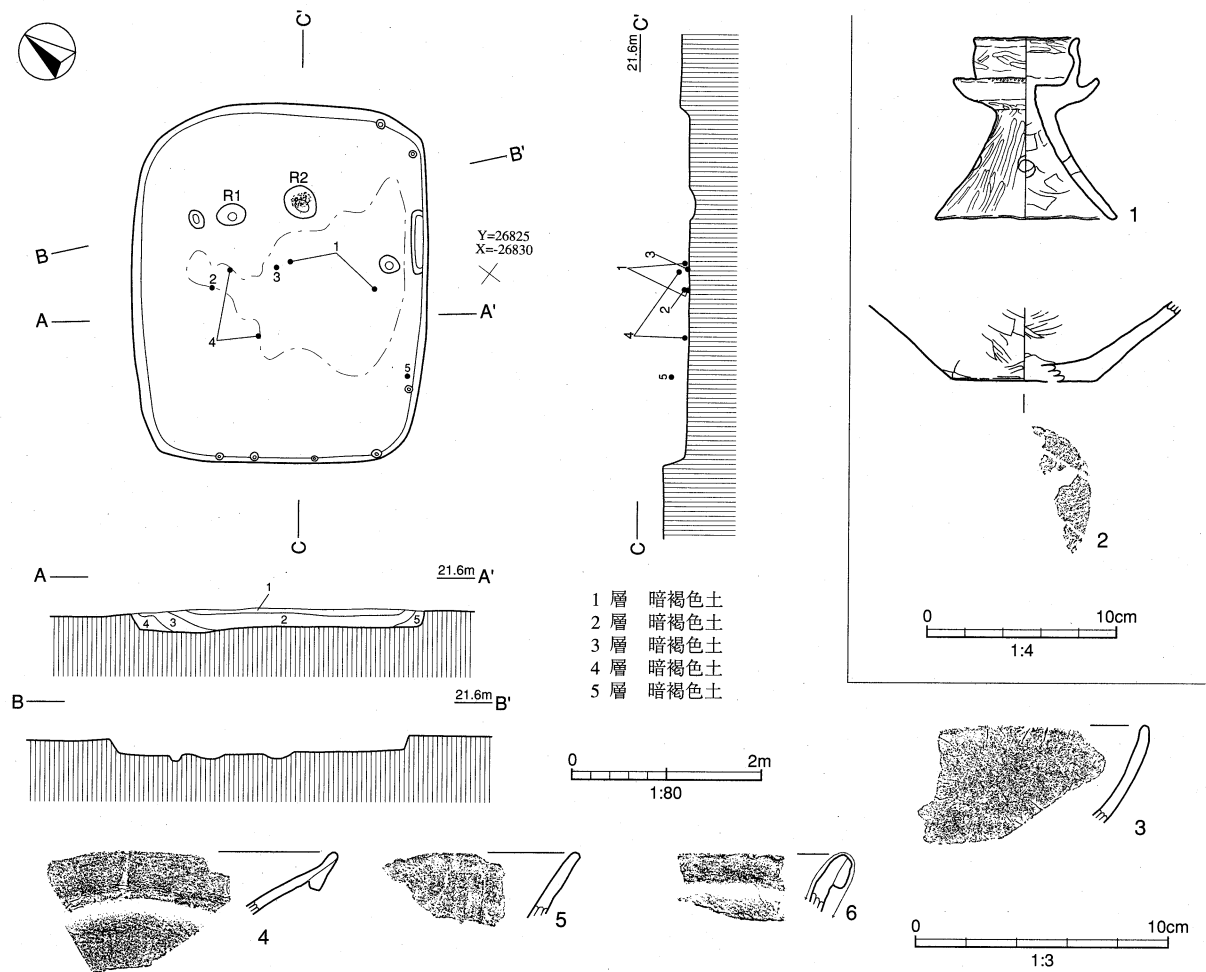


図124 A107



表57 A107遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 器台	56×96×96 輪積 外面 口縁部・器受部→ナデ後ヘラミガキ 器受部側縁に刻み目 脚部→ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 口縁部・器受部→ナデ後ヘラミガキ 脚部→ヘラケズリ 口縁→器受部が鐙状突起の形態をなし、その上に鉢形土器が結合した ような形状を呈す。 頸部・胴部・底部→結合形状器台もしくは装飾 器台と呼ばれるものか？ 脚部→透し孔4個	暗赤褐 軟	普 砂粒多	完形	器受部一部欠損
2	土師器 甕	(76)×(43)×— 輪積 外面 ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 ヘラナデ後ミガキ？ 底部→平底、底面に木葉痕	暗赤褐 普	普 砂粒多	1/4 以下 底部	
3	土師器 鉢	—×—×— 外面 縦位のヘラミガキ 内面 横位のヘラミガキ 内面外面とも一部器面剥離	淡褐 普		口縁 部片	複合口縁 (折り返し口縁)
4	土師器 壺	—×—×— 外面 ナデ 内面 横位のヘラミガキ→縦位のヘラミガキ	橙褐 普		口縁 部片	
5	土師器 壺	—×—×— 外面 縦位のヘラミガキ 内面 ナデ	褐 普		口縁 部片	
6	土師器 壺	—×—×— 内外面とも丁寧なヘラミガキ	褐 硬		口縁 部片	複合口縁 内・外面赤彩

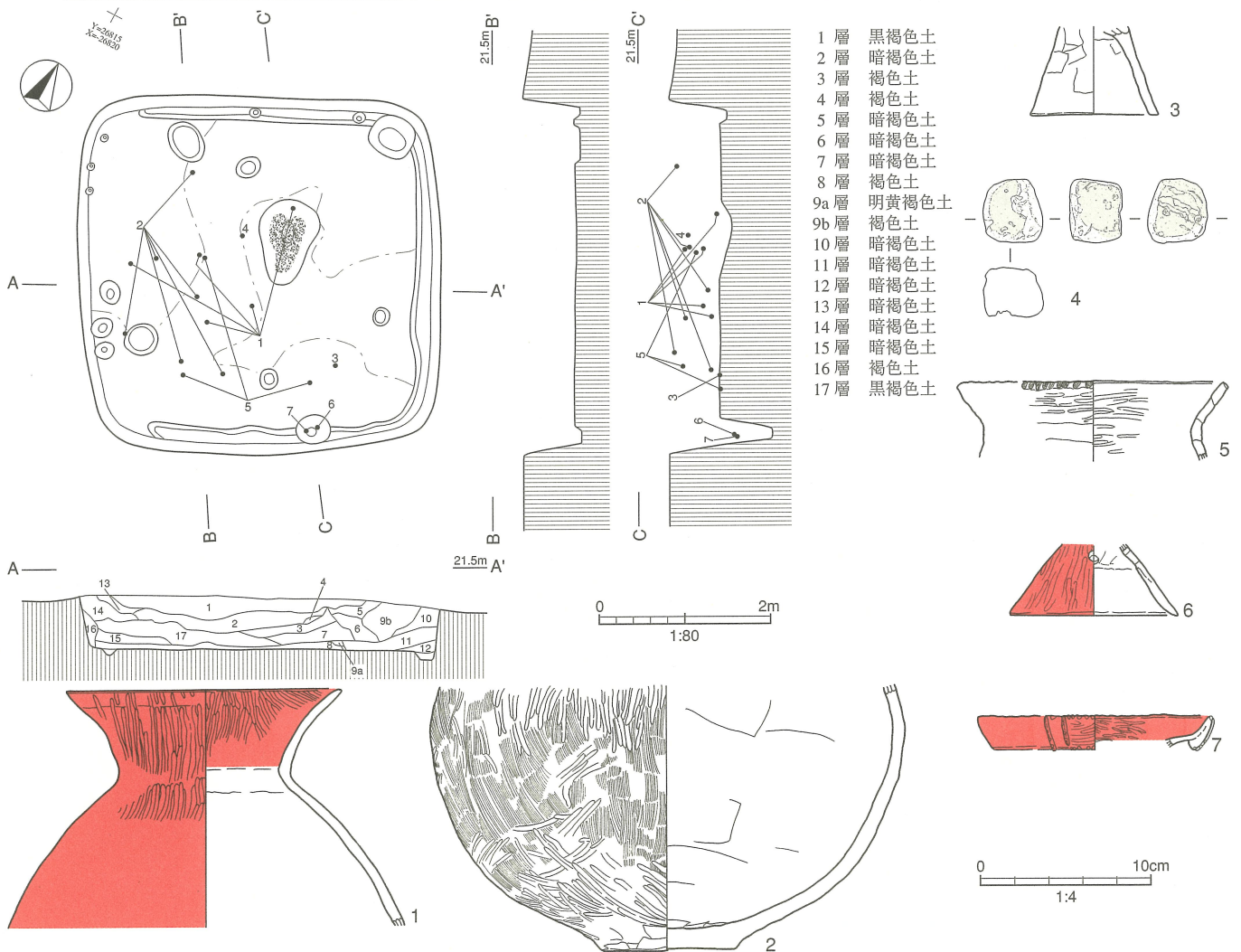


図125 A108

表58 A108遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 壺	(160)×-×(139) 輪積 外面 口縁部-ナデ後ヘラミガキ 胴部-ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 口縁部-ナデ後ヘラミガキ 胴部-ヘラケズリ 口縁-外反	明橙褐 硬	普 砂粒多	1/4	内外面少量スス 附着 赤彩
2	土師器 甕	-×(80)×(156) 輪積 外面 ハケ後一部ヘラミガキ 下端-ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 胴部-球胴状 底部-平底	明褐 硬	普 砂粒多	1/4	黒斑有
3	土師器 甕	-×76×(53) 輪積 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ 底部-台付甕の台部 器面に土等の付着物多い	暗赤褐 軟	粗 砂粒多	1/4 以下 台部片	遺存状態悪
4	石器 (砥石)	37×35×31 五面に研磨痕残存 砥石的な使用か?				軽石
5	弥生 甕	(160)×-×(46) 輪積 外面 輪積痕を数段残す 外面 口唇部-縄文条体の押圧 ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後ヘラミガキ 口縁-外反	暗褐 硬	密 砂粒多	1/4 以下口 縁部片	外面スス附着
6	土師器 高坏	-×(100)×(42) 輪積 外面 ヘラミガキ 内面 上部-ヘラケズリ 裾部-ナデ 胴部-脚残存部には透し孔1個 裾部-内面折り返し?	暗橙褐 普	普 砂粒多	1/4 以下 脚部片	赤彩
7	弥生 壺	(140)×-×(20) 輪積 外面 口唇上-刻み目。口縁部-棒状浮文2本残存(下半に2ヶ所の 刻み目)下端に刻み目。ヘラミガキ 頸部-ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ 口縁-やや外反する複合口縁	明褐 普	粗 砂粒多	1/4 以下口 縁部片	内外面赤彩

## A108

遺 構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は広範囲に広がる。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に17層に分層。人為的堆積による埋没が想定される。

遺 物 覆土中から比較的多く出土。

所 見 出土遺物等から古墳時代前期の住居跡と判断した。本遺跡では小型の住居跡に属す。

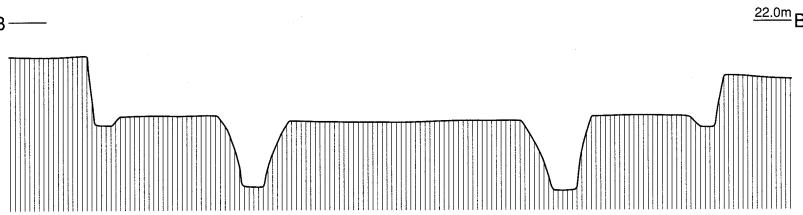
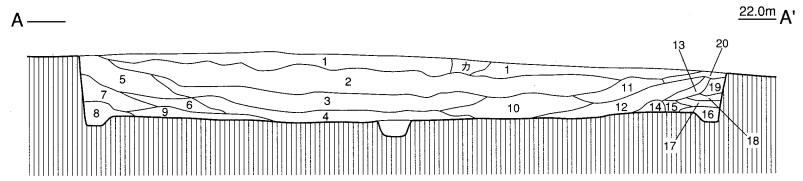
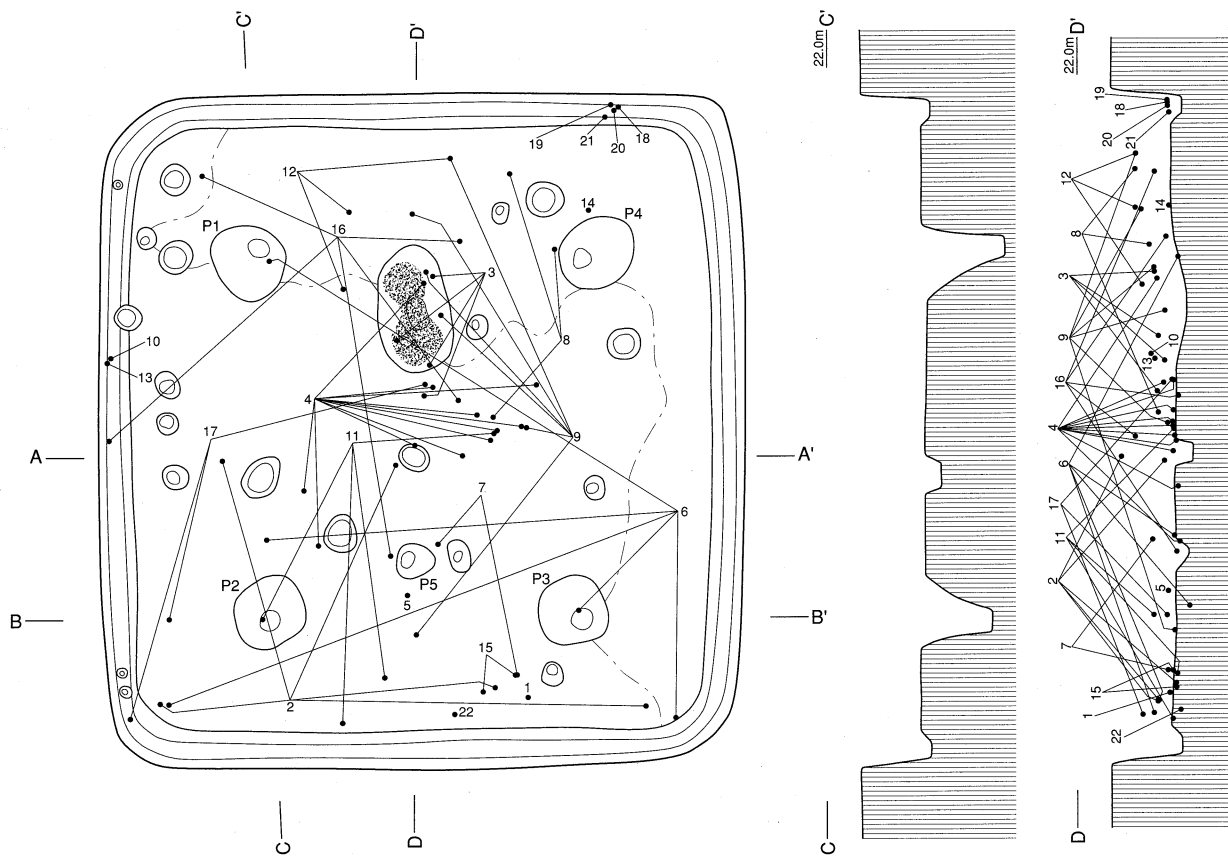
## A109

遺 構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は住居跡北側に比較的広範囲に広がる。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に20層に分層。覆土上層では若干の焼土を検出しており、人為的堆積による埋没が想定される。

遺 物 床面直上から覆土中にかけて多量に出土。床面直上から土玉出土。

所 見 主柱穴はP1からP4、出入り口施設はP5と考えられる。その他のピットの配列から縄文或いは弥生時代の住居跡が重複していた可能性がある。出土遺物等から古墳時代前期の住居跡と判断した。本遺跡では大型の住居跡に属す。



- |     |       |     |      |
|-----|-------|-----|------|
| 1層  | 暗褐色土  | 11層 | 暗褐色土 |
| 2層  | 黑褐色土  | 12層 | 褐色土  |
| 3層  | 褐色土   | 13層 | 暗褐色土 |
| 4層  | 褐色土   | 14層 | 暗褐色土 |
| 5層  | 褐色土   | 15層 | 褐色土  |
| 6層  | 褐色土   | 16層 | 黑褐色土 |
| 7層  | 暗褐色土  | 17層 | 黑褐色土 |
| 8層  | 暗褐色土  | 18層 | 褐色土  |
| 9層  | 暗黃褐色土 | 19層 | 暗褐色土 |
| 10層 | 暗褐色土  | 20層 | 暗褐色土 |

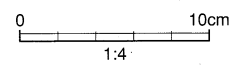
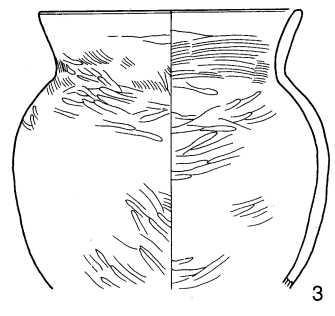
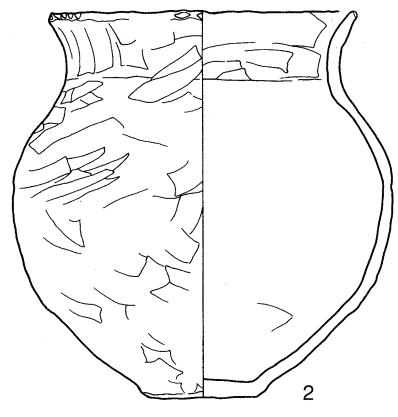
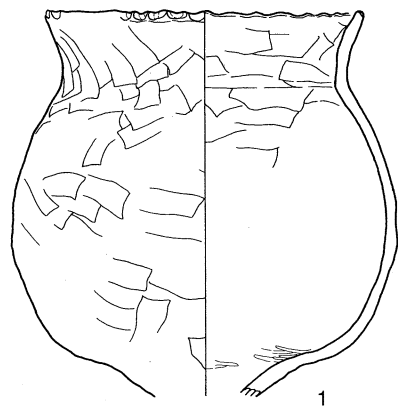
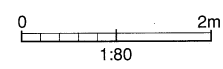


图126 A109

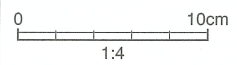
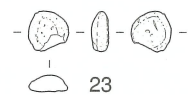
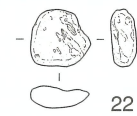
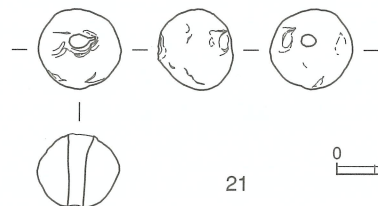
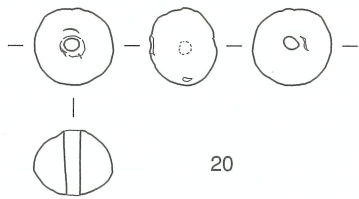
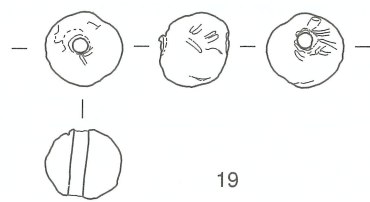
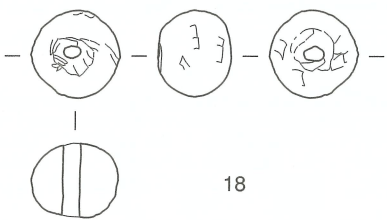
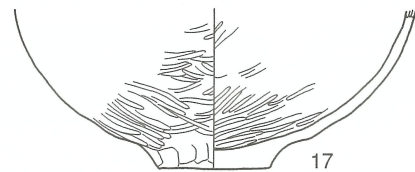
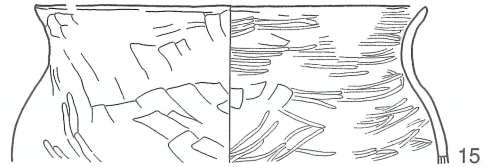
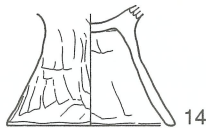
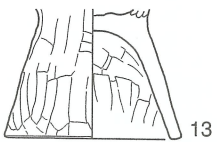
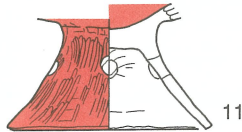
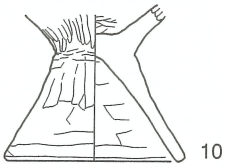
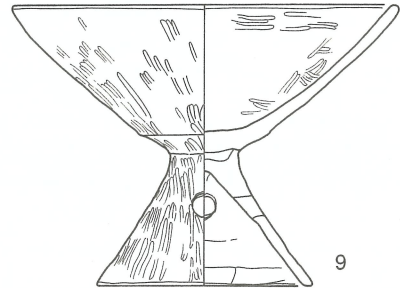
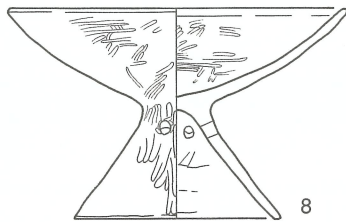
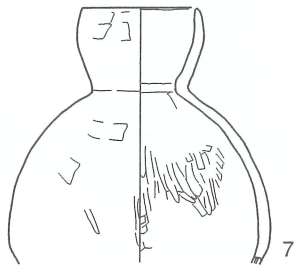
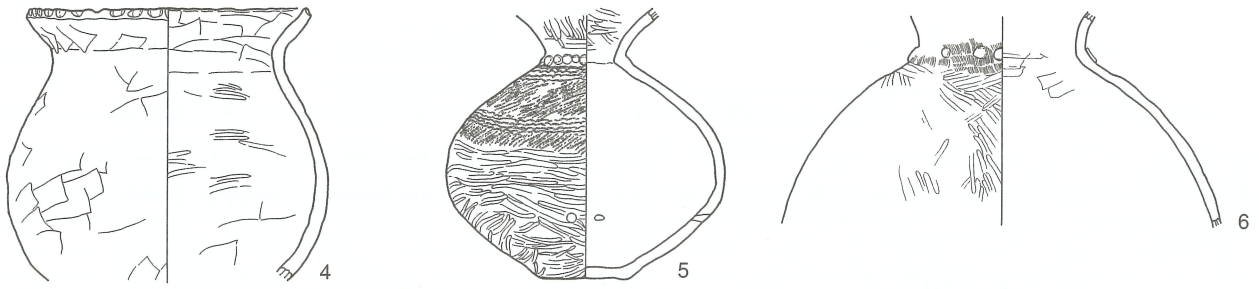


图127 A109(2)

表59 A109遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 甕	170×-×(205) 外面 口唇部一押圧 ヘラケズリ後ヘラナデ 内面 ヘラケズリ後ナデ 底面近く一部ヨコヘラミガキ	暗褐 普	密 砂粒多	2/3 底部 欠損	外面スス付着
2	土師器 甕	164×60×205 外面 口唇部一押圧 ヘラケズリ後ヘラナデ 内面 ヨコナデ	明橙褐 普	普 砂粒多	完形	
3	土師器 甕	140×-×(148) 外面 口縁部一ハケ後ナデ 胴部一ハケ後ヘラミガキ 内面 口縁上部一ハケ後ナデ 胴部一ナデ後一部ヘラミガキ	暗赤褐 軟	普 砂粒多	2/3 底部 欠損	
4	土師器 甕	150×-×(145) 外面 口唇部一押圧 ヘラケズリ後ヘラナデ 内面 ヘラケズリ後ヘラナデ 一部ヨコヘラミガキ	暗褐 普	密 砂粒多	2/3 底部 欠損	
5	弥生 小型壺	-×48×(144) 外面 口縁部一ナデ後ヘラミガキ 頸部一円形浮文巡る 胴部一結節4段→付加条縄文   R + R ? → 結節4段→付加条 内面 口縁部一ナデ後ヘラミガキ   R R 縄文	明橙褐 硬	密 砂粒少	ほぼ 完形	
6	弥生 壺	-×-×(115) 外面 頸部一タテハケ ボタン状貼付(残存5個) 胴部一ヘラケズリ 後ヘラミガキ 内面 ヘラケズリ後ナデ	暗赤褐 普	普 砂粒多	1/4	
7	弥生 壺	62×-×(136) 外面 ヘラケズリ後ナデ一部ヘラミガキ 器面が磨耗している 内面 口縁～肩部ヘラケズリ後ナデ 胴部一ヘラケズリ 不鮮明	明橙褐 軟	普 粗砂粒 多	1/2	石英・チャート 雲母多い
8	土師器 高坏	(180)×110×112 外面 坏部一ナデ後不定方向のヘラミガキ 脚部一タテヘラミガキ 内面 坏部一ナデ後不定方向のヘラミガキ 脚部接合部一ヘラケズリ	明褐 硬	普 砂粒多	1/2	脚部透し孔3個 「ハ」の字状 外面スス付着
9	土師器 高坏	203×113×149 外面 坏部一口縁ナデ後ヘラミガキ 脚部一ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 坏部一ナデ後不定方向のヘラミガキ 脚部一ヘラケズリ	明橙褐 硬	密 砂粒多	2/3	脚部透し孔3個 坏部～下端に稜 をもつ
10	土師器 甕	-×96×(78) 外面 胴部一ヘラミガキ 台部一ヘラケズリ 下端一ナデ 内面 接合部一ヘラケズリ後ナデ	明赤褐 普	普 砂粒多	1/4	脚部「ハ」の字状
11	土師器 高坏	-×108×(66) 外面 ヘラケズリ後ヘラミガキ 裾部一ナデ後ヘラミガキ 内面 接合部一ヘラケズリ 裾部一ナデ	暗褐 硬	普 粗砂粒 多	1/2 脚部片	透し孔4個 赤彩
12	土師器 高坏	-×(112)×(41) 外面 上半一目の細かいタテハケ 下端一目の大きいハケ後ヘラミガキ 内面 ヘラケズリ後ハケ→ナデ	暗赤褐 普	密 砂粒多	1/4 脚部片	脚部透し孔4個
13	土師器 甕	-×94×(69) 外面 タテヘラケズリ 内面 ヘラケズリ	暗褐 軟	粗 砂粒多	1/4 台部片	台部「ハ」の字状
14	土師器 甕	-×(90)×(60) 外面 タテヘラケズリ 内面 接合部一ヘラケズリ ナデ	暗褐 軟	粗 砂粒多	1/4 台部片	
15	土師器 甕	(207)×-×(83) 外面 口縁部一ナデ 頸～胴部一ナメのナデ後一部ヘラミガキ 内面 ヨコナデ後一部ヘラミガキ	暗橙褐 硬	普 砂粒少	1/4 口縁部 片	
16	土師器 甕	-×(84)×(88) 外面 ヨコヘラケズリ後タテヘラミガキ 内面 ヘラケズリ後ナデ	暗赤褐 普	普 砂粒少	1/4	
17	土師器 甕	-×60×(85) 外面 ヘラケズリ後ヘラミガキ 下端一ヘラケズリ 内面 ナデ後ナメのヘラミガキ	暗赤褐 軟	密 砂粒少	1/4 以下	

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
18	土製品 土玉	36×30 穿孔幅7 34.6g 外面 穿孔後孔周囲等にヘラによる調整が施される	暗褐 硬	普 砂粒多	完形	
19	土製品 土玉	30×28 穿孔幅6 23.1g 外面 調整は粗い 一部に指頭圧痕がみられる	暗褐 硬	普 砂粒多	完形	
20	土製品 土玉	31×26 穿孔幅6 26.2g 外面 ヘラによる調整 指頭の痕跡有	明褐 硬	普 砂粒多	完形	
21	土製品 土玉	34×30 穿孔幅5 31.3g 外面 孔の片側に切りこみがあり、ゆがんだ穿孔。調整も粗く雑な作り。指頭の痕跡有	暗褐 硬	普 砂粒多	完形	
22	石器 軽石	30×32×14 ほぼ完形か？明確な加工痕みられず。用途不明				
23	石器 軽石	21×21×10 0.7g 一部欠損 明瞭な加工は認められず。用途不明				

A110

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は部分的に広がる。壁はロームの壁であるが、掘り込みは浅く、斜めに立ち上がる。

覆土は色調を基本に4層に分層。暗褐色土系の覆土が主体となる。人為的堆積による埋没が想定される。5層から7層は炉のセクションである。

遺物 覆土中から小破片が数点出土したのみ。

所見 出土遺物・規模・形態等から古墳時代前期の住居跡と判断した。本遺跡では小型の住居跡に属す。

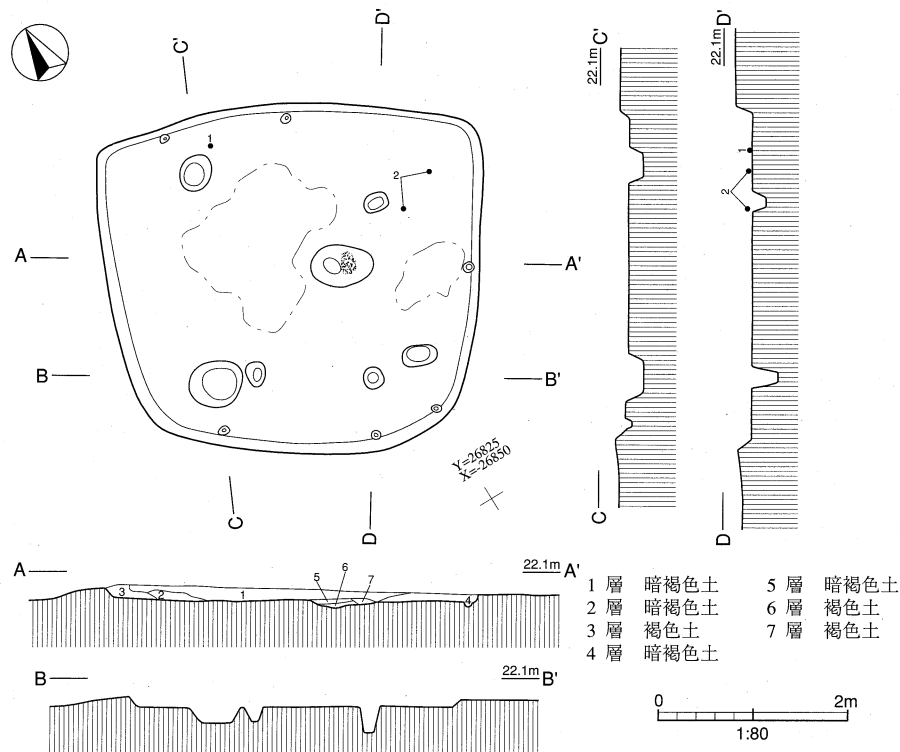


図128 A110

A111

遺構 ロームを踏み固めた床で、硬化面は部分的に広がる。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は色調を基本に15層に分層。床面直上で全体に焼土を多く検出し、焼失家屋である。人為的堆積による埋没が想定される。

遺物 床面直上から覆土中にかけて少量出土。

所見 出土遺物等から古墳時代前期の住居跡と判断した。本遺跡では小型の住居跡に属す。

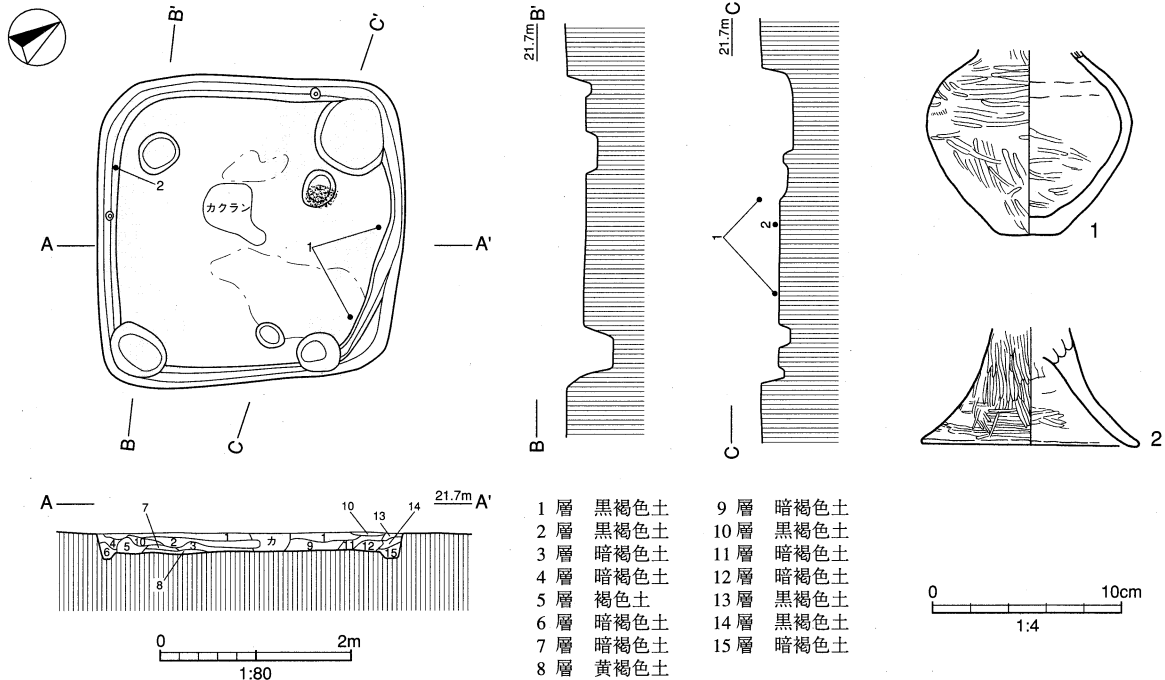


図129 A111

表60 A111遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 小型壺	-×30×(98) 外面 ナナメのハケ後タテ→ヨコ→タテヘラミガキ 内面 一部ヨコヘラミガキ 輪積痕を明瞭に残す部分有	暗橙褐 普	普 砂粒少	2/3	
2	土師器 高坏	-×116×(62) 外面 タテヘラミガキ 裾部→ヨコヘラミガキ 内面 ヘラケズリ後ヨコヘラミガキ	暗褐黒 普	粗 砂粒少	1/2 脚部片	

A112

遺構 D068と重複関係にあるが、本住居跡の方が古い。ロームを踏み固めた床で、硬化面は部分的に広がる。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。炉は2基検出され、ともに地床炉であるが、検出状況、完掘状況等からR1からR2への作り替えが行われたものと考えられる。

覆土は色調を基本に12層に分層され、自然堆積による埋没が想定される。a層からd層は炉のセクションである

遺物 床面直上から覆土中にかけて多量に出土。

所見 出土遺物から古墳時代前期の住居跡と判断した。拡張住居と思われる。

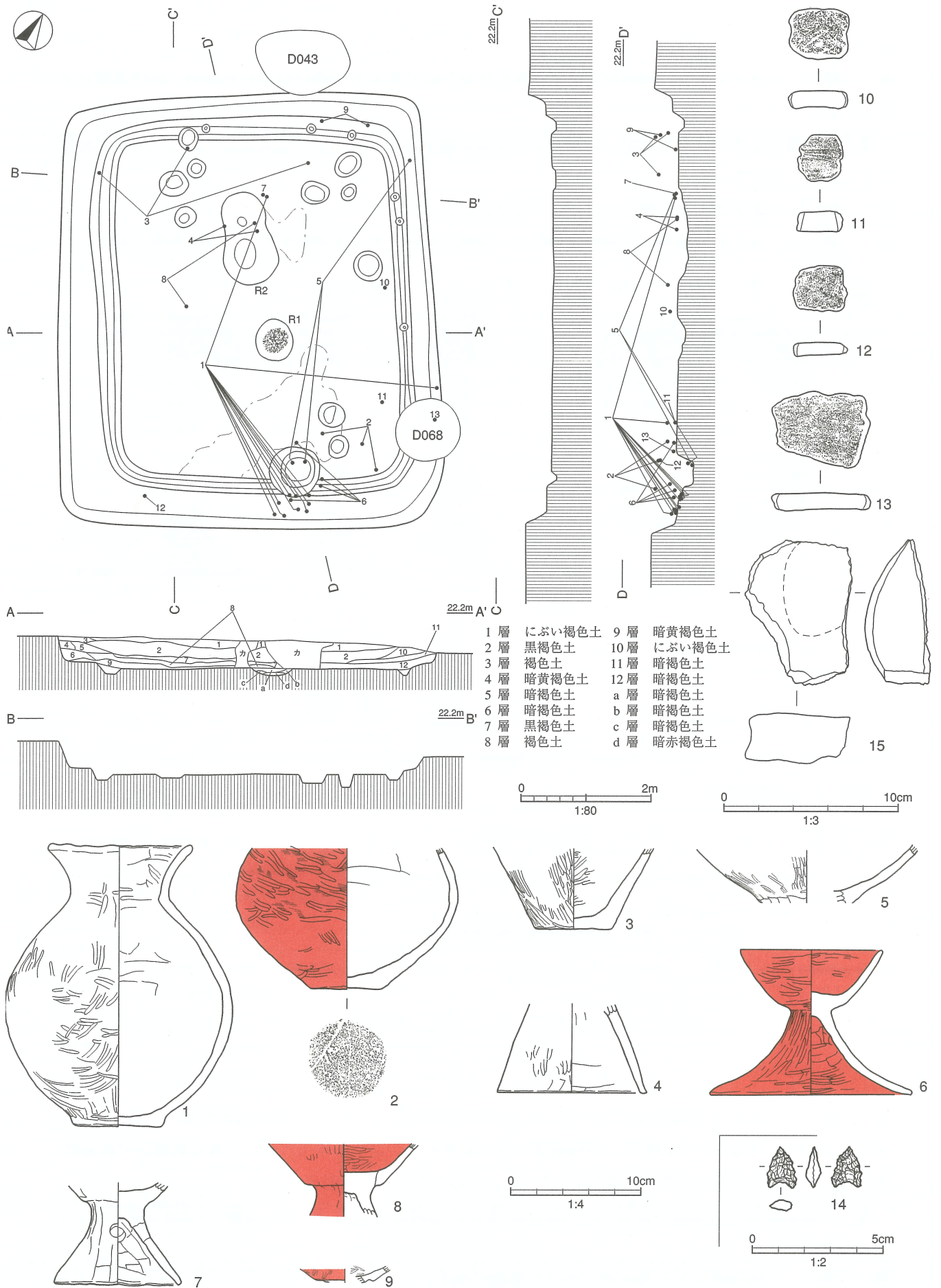


図130 A112



表61 A112遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 壺	112×70×216 外面 口縁部-ヨコナデ 胴部-タテ・ヨコのヘラミガキ 下端ヘラケズリ 内面 口縁-頸部-ヨコナデ後 ヨコヘラミガキ 胴部-ヨコナデ -×60×(109)	暗褐 普	粗 砂粒多	2/3	黒斑有
2	土師器 壺	外面 ハケ後ヘラケズリ 胴下半が楕円状に膨らむ 内面 ナデ器面の剥離著しい 平底、底面に木葉痕	明褐 黒斑有 軟	粗 粗砂粒少	1/4	赤彩
3	土師器 甕	-×58×(63) 輪積 外面 ヘラケズリ後ヘラミガキ 底面-ヘラケズリ後ヘラミガキ 胴部-底部から急傾斜で立ち上がる 内面 ナデ後不定方向のヘラミガキ 平底	明褐橙 硬	粗 砂粒多	1/4 以下 底部	黒雲母多 石英少
4	土師器 甕	-×116×(68) 外面 ヘラケズリ後ヘラミガキ 器面の磨耗著しい 内面 ヘラケズリ後ナデ 底部・台部-「ハ」の字状	明橙褐 普	普 砂粒多	1/4 台部	
5	土師器 甕	-×(700)×(38) 輪積 外面 ヘラミガキ 下端ヘラケズリ 内面 ナデ? 器面の剥離著しい 底部平底	暗褐 軟	粗 砂粒多	1/4 以下 底部	
6	土師器 高坏	110×156×113 外面 坏部-ナデ後ヘラミガキ 脚部-ナデ後ヘラ ミガキ 裾部-ヘラミガキ 内面 坏部-ナデ後ヘラミガキ 脚部-ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁、坏部逆台形状。下端に稜をもつ 脚部、接合部から中位は急傾斜、裾部はゆるやかな傾斜で大きく広がる	明褐 軟	粗 砂粒多	完形	内外面赤彩
7	土師器 高坏	-×(100)×(79) 輪積 外面 ヘラナデ 内外面とも器面の磨耗著しい 内面 ヘラケズリ 脚-透し孔3個	明褐 軟	粗 粗砂粒多	2/3 脚部	赤彩
8	土師器 高坏	-×-×(55) 底部、坏部下端に稜をもつ 外面 ヘラケズリ後ヘラミガキ 器面の磨耗が著しい 内面 坏部-ヘラケズリ後ヘラミガキ 接合部-ヘラケズリ 分割	赤褐 軟	普 砂粒多	1/4 接合	赤彩
9	土師器 高坏	-×-×(13) 輪積 外面 タテ・ナナメのヘラミガキ 内面 ヨコヘラミガキ 頸部、坏部下端に稜をもつ	暗褐 普	普 砂粒多	1/4 以下 坏	赤彩
10	土師器 土製品	32×28×8 両端に刻みあり。	褐 普	粗 砂粒多		土器片錘
11	土師器 土製品	21×26×13 両端に明瞭な刻みあり。	暗褐 普	普 砂粒少	口縁 部片	土器片錘
12	土師器 土製品	31×25×55 両端に刻みあり。	褐 普	粗 砂粒多		土器片錘
13	土師器 土製品	53×39×9 両端に刻みあり。右端の刻みは明瞭である。	褐 普	粗 砂粒多		土器片錘
14	石器 石鏃	16×12×6 6g 小型の凹基無茎鏃の完形品である。全面調整が施される			完形	黒曜石
15	石器 石皿?	83×62×47 2388g 一部が残存するのみであるが、全体の大きさ一部などから判断すると 石皿としての使用も考えられる。良好な磨痕が残されている				凝灰岩

表62 竪穴住居跡一覧(2)

(単位m)

遺構番号	検出調査区	平面形 規模;長軸×短軸×壁高 遺物の状況	住居跡の状況 覆土の状況	燃焼施設・位置 周溝・備考
A-100	G6-55	隅丸方形 2.32×2.74×0.08 N-8°-E	床 ロームを踏み固めた床で、硬化面一部に広がる。立ち上がりがわずかに残る	炉 検出されず 周溝 検出されず 南壁 検出されず
		小破片が少量出土したのみ	色調を基本に5層に分層。自然に堆積	
A-101	G6-45	隅丸方形 2.7×2.76×0.21 N-9°-E	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 住居跡壁際に広範囲に広がる。焼土が広範囲から検出され、焼失家屋の可能性あり	地床炉 中央から北東コーナーによる 周溝 検出されず
		遺物量は少ない	色調を基本に14層に分層。人為的堆積	
A-102	G6-62	隅丸長方形 5.48×4.68×0.14 N-65°-E	床 ロームを踏み固めた床。硬化面一部にあり。貯蔵穴の周囲に凸提あり	地床炉 中央から北東コーナーによる 周溝 全周する 周溝幅 0.13m
		床面直上から覆土下層で多量に出土 小型器台出土	色調を基本に6層に分層。自然に堆積	
A-103	G6-63	隅丸長方形 4.64×4.00×0.42 N-54°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面は部分的に数カ所広がる。炭化材が多量に出土。焼失家屋である	地床炉 中央から北コーナーによる。土器片がつかささる。 土器囲炉の一種か 周溝 ほぼ全周する 周溝幅 0.13m
		全体の遺物量は少ないが床面直上から覆土下層にかけて出土	色調を基本に14層に分層。人為的堆積	
A-104	G6-52	隅丸方形 3.42×3.64×0.24 N-17°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面は部分的に広がる。住居跡中央はやや軟弱	地床炉 中央から北東コーナーによる 周溝 ほぼ全周する 周溝幅 0.08m
		小破片が少量出土	色調を基本に13層に分層。人為的堆積	
A-105	G6-42	隅丸方形 2.92×2.96×0.23 N-59°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面は部分的に広がる。炭化材が床面直上で多量に出土。焼失家屋である	地床炉 中央から北コーナーによる 周溝 検出されず
		床直上から覆土中にかけて少量出土	色調を基本に7層に分層。人為的堆積	
A-106	G6-25	隅丸長方形 5.41×4.94×0.30 N-47°-E	床 ロームを踏み固めた床。硬化面は住居跡中央部に広範囲に広がる	地床炉 中央から北東コーナーによる 周溝 約3/4周する 周溝幅 0.13m
		床面直上から覆土上層かけて多量に出土	色調を基本に17層に分層。18~22層は炉のセクション。人為的堆積の後自然堆積	
A-107	G6-23	隅丸長方形 3.73×3.04×0.08 N-53°-E	床 ロームを踏み固めた床。住居跡中央部に貼床が広がる	地床炉 2基検出。中央から北コーナーによる 周溝 一部で検出
		覆土中から小破片が少量出土。床面直上から器台出土	色調を基本に5層に分層。自然に堆積	
A-108	G6-13	隅丸方形 4.12×4.16×0.44 N-28°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面は広範囲に広がる	地床炉 住居北コーナーによる 周溝 約3/4周する 周溝幅 0.14m
		覆土中から比較的多く出土	色調を基本に17層に分層。人為的堆積	

遺構番号	検出調査区	平面形 規模；長軸×短軸×壁高 遺物の状況	住居跡の状況 覆土の状況	燃烧施設・位置 周溝・備考
A-109	G6-14	隅丸方形 7.03×6.70×0.61 N-45°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面 住居 北側に比較的広範囲に広がる	地床炉 中央から北西壁 柱穴間に位置する 周溝 全周する 周溝幅 0.22m
		床面直上から覆土上層にかけて多量に 出土。床直から土玉出土	色調を基本に20層に分層。人為的堆積	
A-110	G6-25	不定形 3.90×3.62×0.12 N-124°-E	床 ロームを踏み固めた床。硬化面は部分 的に広がる	地床炉 中央から北東コ ーナーによる 周溝 検出されず
		床面から小破片が数点出土したのみ	色調を基本に4層に分層。5～7層は炉地 層。人為的堆積	
A-111	G6-3	隅丸方形 3.12×3.18×0.14 N-55°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面は部分 的に広がる。床面直上で多量の焼土を検 出。焼失家屋である	地床炉 中央から北コ ーナーによる 周溝 全周する 周溝幅 0.11m
		床面直上から覆土中にかけて少量出土	色調を基本に15層に分層。全体に焼土を多 く含む。人為的堆積	
A-112	G5-93	隅丸長方形 6.60×5.80×0.40 N-30°-W	床 ロームを踏み固めた床。硬化面一部に 広がる。拡張住居か？	地床炉 2基。R1→R2へ 住居中央から北西壁へ移 動 周溝 全周する
		床面直上から覆土中にかけて多量に出 土	色調を基本に12層に分層。自然堆積 a～d層は炉のセクション	

第4項 古墳時代後期

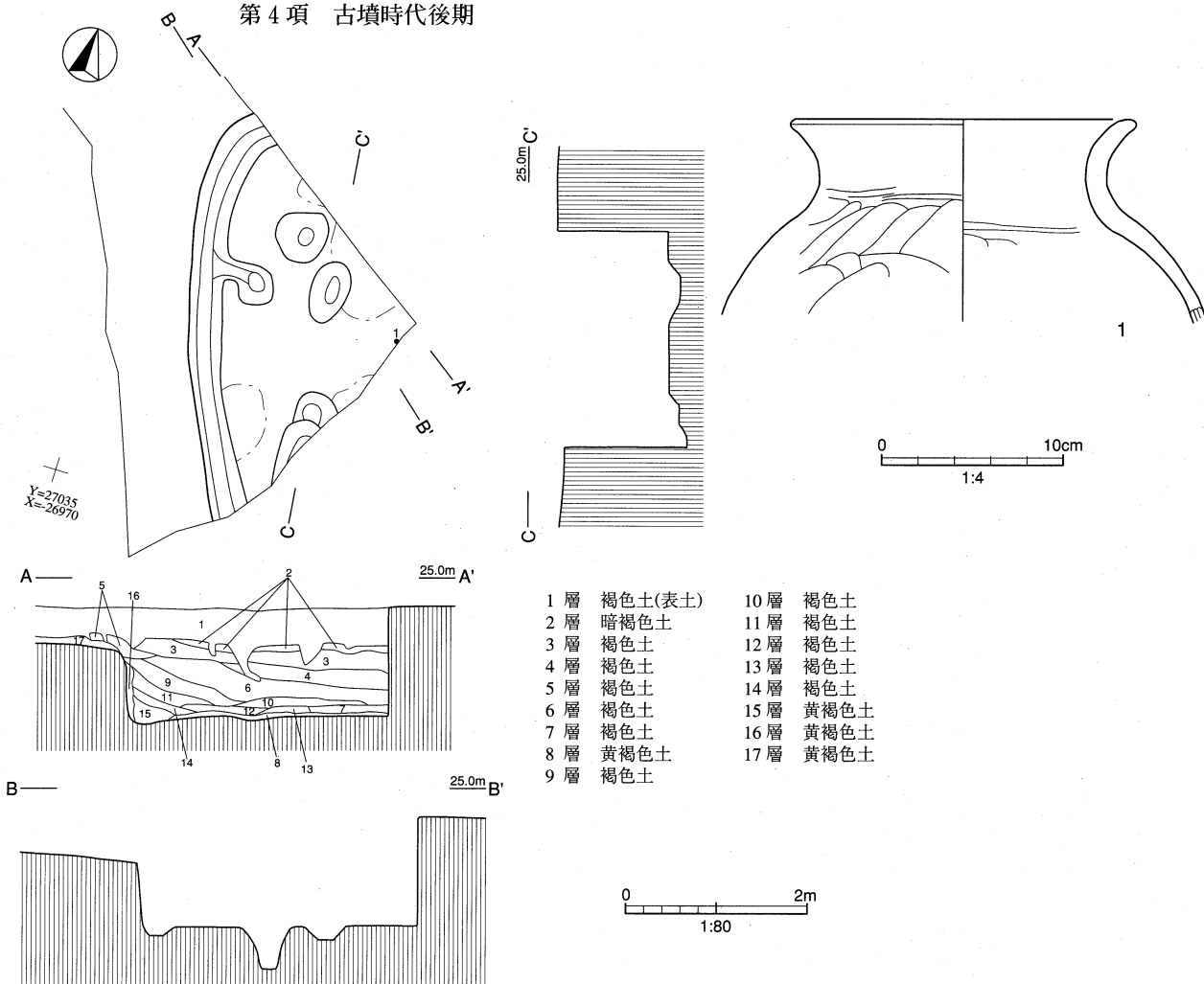


図131 A113

表63 A113遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 甕	192×-×(112) 外面 タテヘラケズリ ナナメヘラケズリ 内面 ヨコナデ	普	雲母微 長石微	1/4 口縁 胴上部	黒色粒子少

A113

検出地区 H8-37G

遺構 遺構の大部分が調査区域外に続いているため、形態・規模・主軸方位などは不明である。深さは、最深で約0.8mである。床はロームを踏み固めた床でほぼ平坦。硬化面が部分的に検出されている。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。付属施設としては、床面に小穴を5基検出している。カマド等の燃焼施設を検出するには至らなかった。

覆土は色調を基本に17層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺物 覆土中から少量出土。

所見 出土遺物が少なく、調査を実施できた部分も少なく、時期決定に決定打を欠くが、(1)の土器が出土していることから、古墳時代後期の住居跡の一部と判断した。

### 第3節 奈良・平安時代

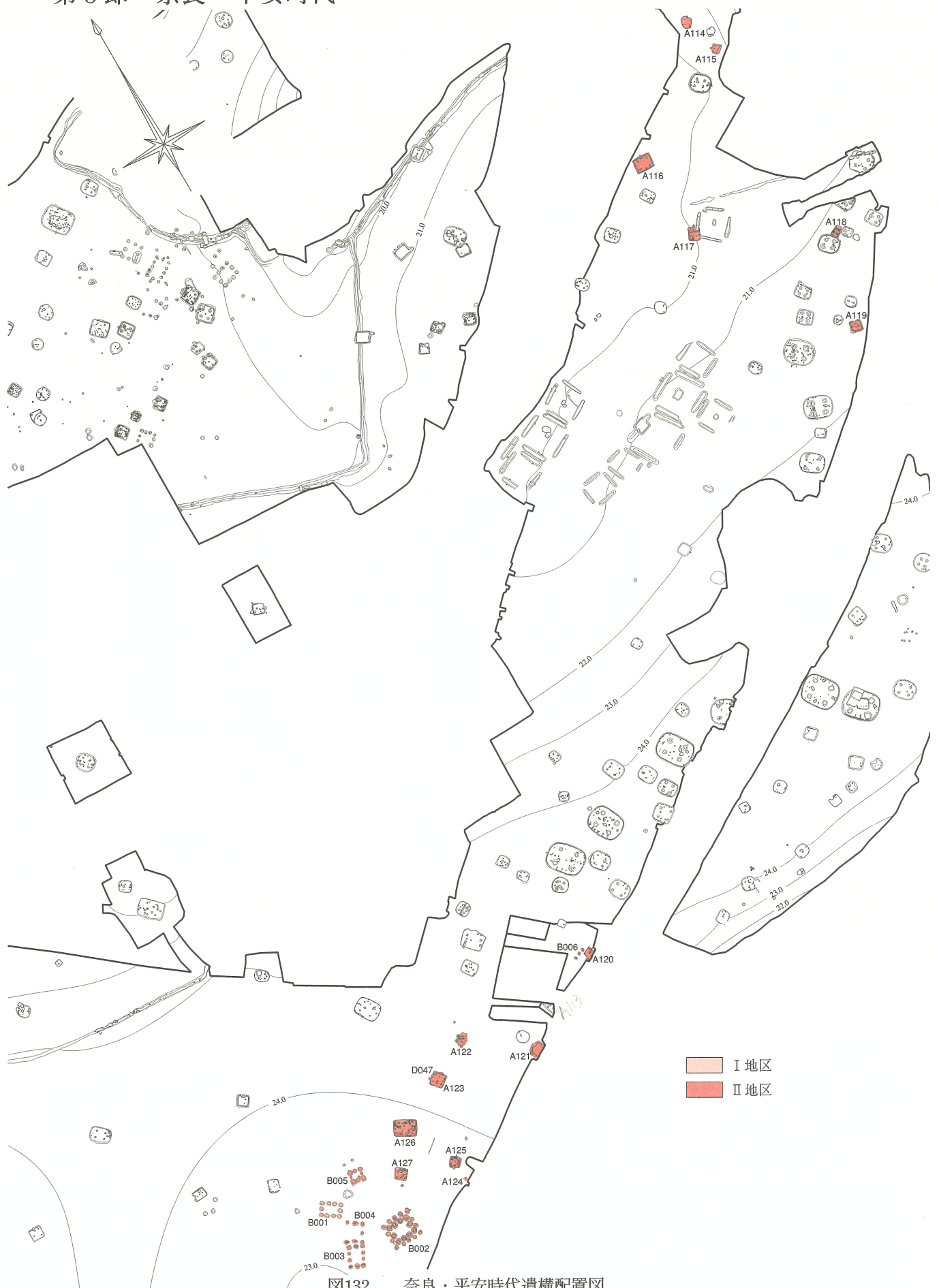


图132 奈良・平安時代遺構配置图

栗谷Ⅱ地区における奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡14軒、掘立柱建物跡5棟、その他の遺構3基が検出されている。

集落の立地であるが、栗谷遺跡が位置する舌状台地先端部にあたる台地北東部縁辺部に集中する一群と台地南側縁辺に集中して立地する一群がある。北東部縁辺部に立地している一群はⅢ地区で報告する事になる一群と有機的な関係にあると思われる。

南側縁辺に立地する一群の集落であるが、本来、Ⅰ地区で報告した竪穴住居跡群の一部も含む集落である可能性が高い。また、この一群が立地する地形は上谷遺跡と栗谷遺跡を分離する小支谷の谷頭にあたる部分でもあり、上谷遺跡との関係も注意しなければならない。ここで注目されるのが、この一群にⅠ地区で報告した掘立柱建物跡を含め、5棟の掘立柱建物跡が検出されている事である。竪穴住居跡と掘立柱建物跡との関係等、上谷遺跡との成果を踏まえて考えていかなければならない問題となるだろう。栗谷遺跡の奈良・平安時代の集落について検出遺構数とその立地を中心に概観したが、以下個別の遺構についての報告に移りたい。詳細は以下の記述、遺構一覧表および遺物観察表を参照されたい。

(1) 竪穴住居跡

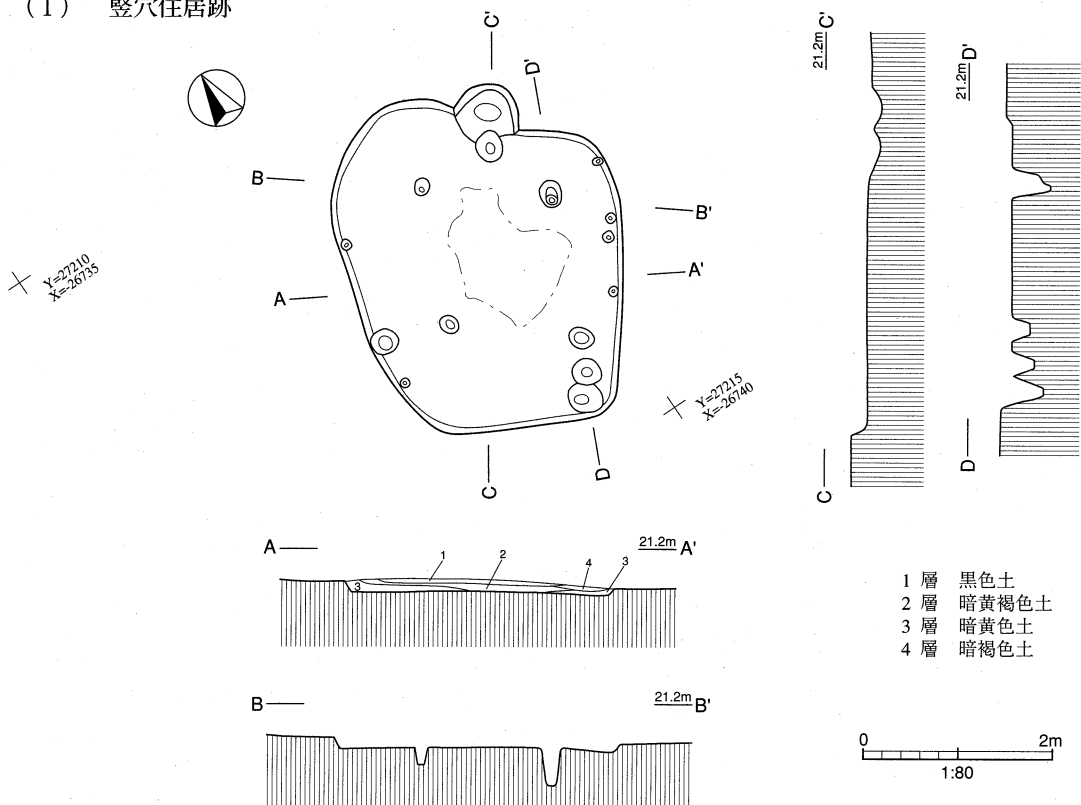


図133 A114

A114

**遺 構** ロームを踏み固めた床で、東へやや傾斜している。中央部はやや軟弱である。壁はロームの壁で、掘り込みが浅く、斜めに立ち上がる。竈の袖部、天井部は検出されなかった。竈は壊されたものと思われる。覆土は色調を基本に4層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

**遺 物** 覆土中から小破片が少量出土したのみ。

**所 見** 出土遺物から、奈良・平安時代の住居跡と判断した。

A115

**遺構** ロームを踏み固めた床で、中央部はやや軟弱である。壁はロームの壁で、斜めに立ち上がる。竈は2基検出されている。竈の検出状況と、周溝の状況と考え合わせると、本住居跡は拡張されていることが判る。まず北壁側に竈を作り、拡張と同時にコーナーに竈を作り替えている。覆土は色調を基本に16層に分層。焼土、炭化物を多量に検出し、人為的な堆積による埋没が想定される。

**遺物** 覆土中から小破片が少量出土。竈の前、床面直上から土師器の杯(3)が完形で出土。

**所見** 出土遺物から、奈良・平安時代の住居跡と判断した。当初作られた竈が、東北地方に多い、煙道部の長いタイプの竈であることは、興味深い。

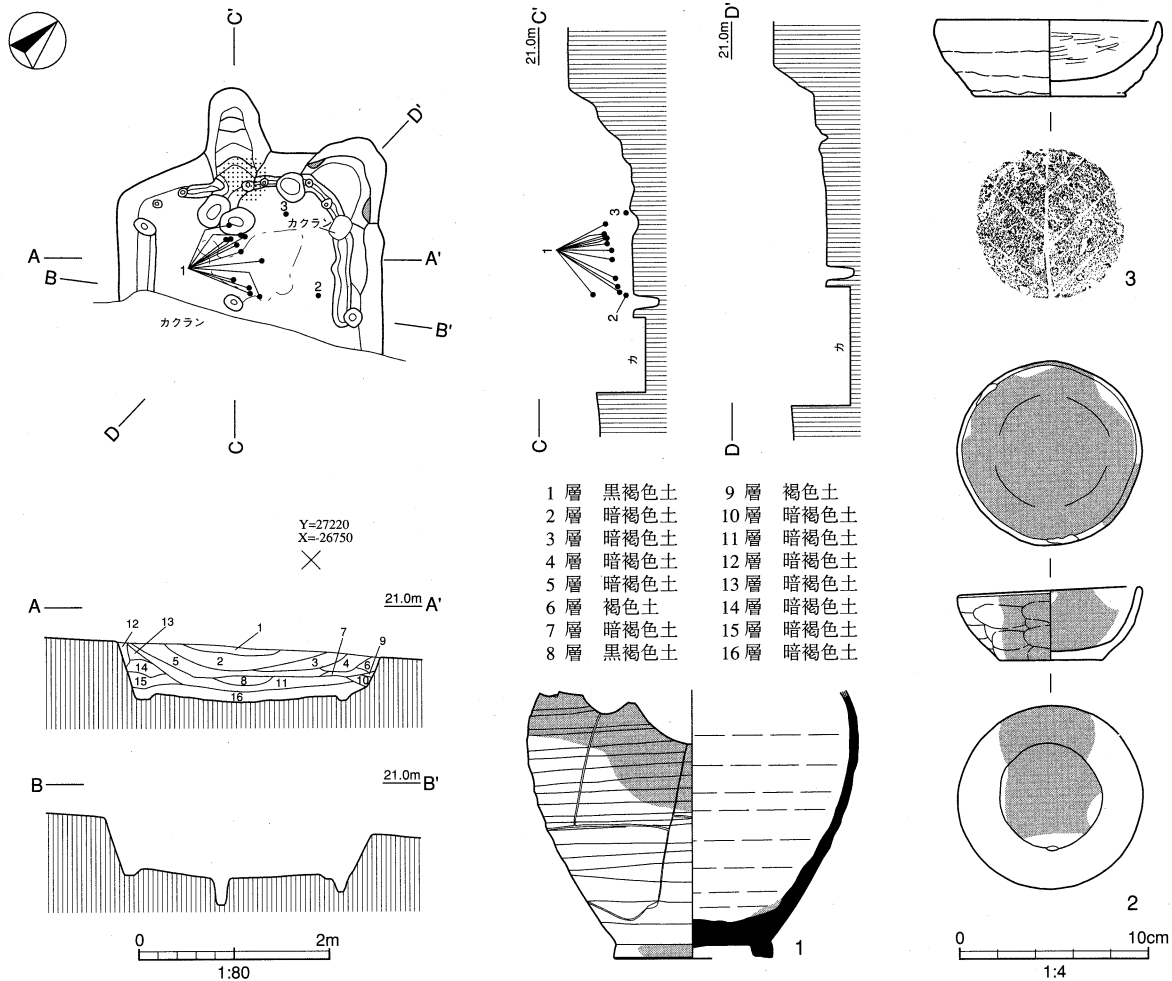


図134 A115

図135 A115(2)

表64 A115遺物観察表

(単位cm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 長頸壺	—×8.40×(14.1) 外面 ロクロ成形後ナデ 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	普	石英粒 白色粒 子微	口縁部 なし	外面に自然彩
2	土師器 杯	9.70×5.50×3.70 外面 ロクロ成形 体部-横位ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	普	雲母粒 赤色粒 子微	完形	内側にスス附着
3	土師器 杯	11.8×8.20×4.10 輪積 外面 輪積痕を明瞭に残す ナデ 内面 ナデ後ヘラミガキ 底部-木葉痕	褐 普	密 砂粒多	完形	口縁-やや内湾 スス・タール状 附着物

A116

遺 構      ロームを踏み固めた床で、中央部はやや軟弱である。壁はロームの壁で、ほぼ垂直に立ち上がる。竈は北壁ほぼ中央で検出され、両袖とも残る良好な状態であった。覆土は色調を基本に4層に分層。自然堆積による埋没が想定される。

遺 物      全体としての出土量は少ないが、覆土中層から比較的多く出土。覆土中層から下層において、墨書土器(9)出土。

所 見      古墳時代後期にあたる遺物も出土しているが、全体の遺物出土状況から判断して奈良・平安時代の住居跡とした。

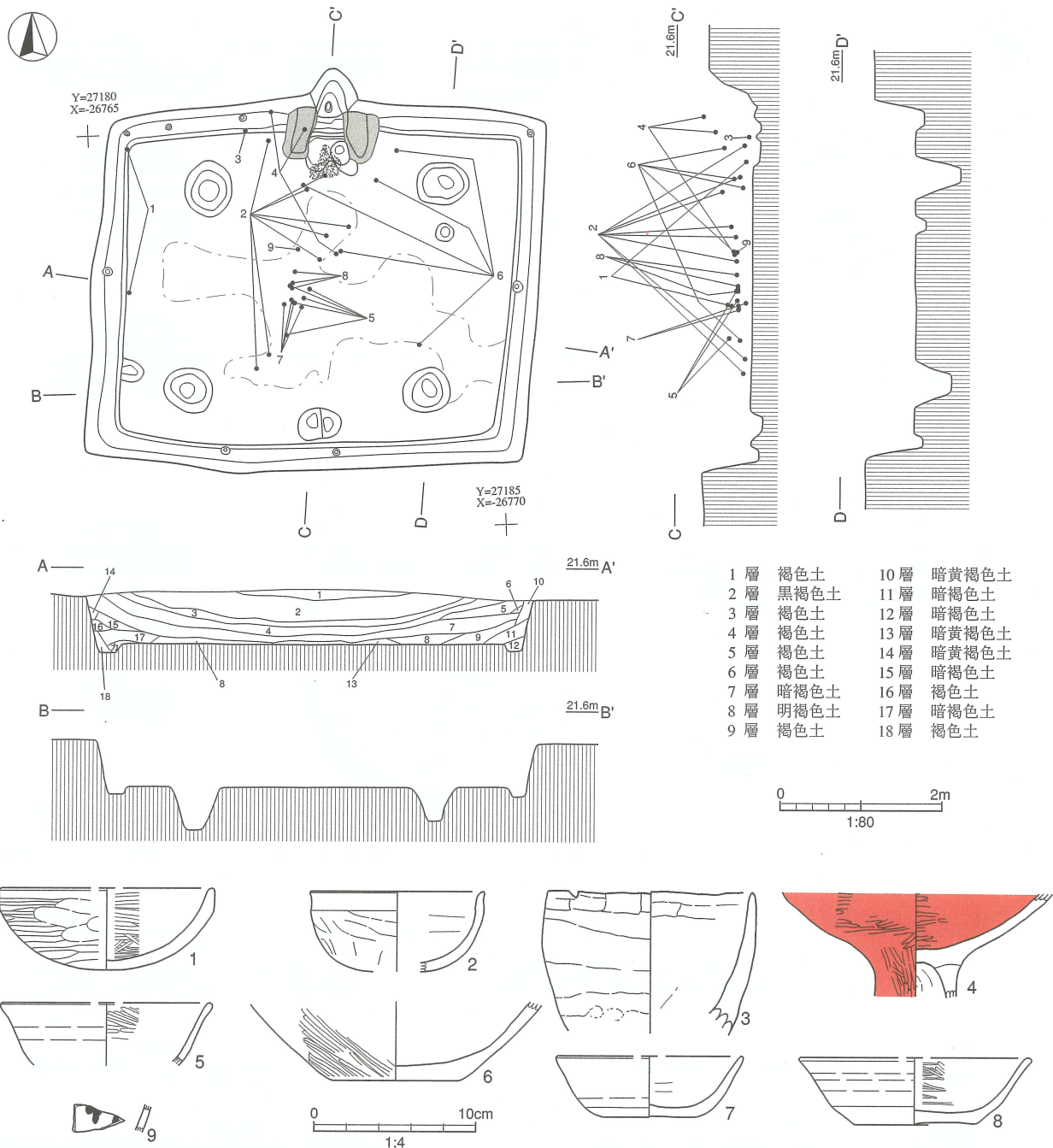



図136 A116



表65 A116遺物観察表

(単位cm)

No	種別器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 (鬼高) 坏	(13.2)×-×5.10 外面 横位ヘラケズリ後密なヘラミガキ 内面 密なヘラミガキ	普	雲母粒 長石 微	1/2	
2	土師器 坏	(10.8)×-×(5.00) 外面 ロクロ成形 体部に横位・縦位のヘラケズリ 内面 ナデ	普	雲母粒 白色粒 微	2/3	
3	土師器 鉢	(12.8)×-×(8.80) 輪積 外面 口縁部-ヘラナデ 体部-輪積痕 指による調整 内面 口縁部-ヘラナデ 体部-ヘラケズリ後ナデ	暗褐 普	砂粒 雲母多	2/3	厚手の作り
4	土師器 高坏	-×-×(6.40) 輪積 外面 体部-ヨコヘラミガキ 脚部-タテヘラケズリ後タテヘラミガキ 内面 体部-ヨコヘラミガキ 脚部-ヘラケズリ	明橙褐 硬	砂粒多	1/4 以下	体~脚部片 遺存 赤彩有り
5	土師器 坏	13.1×-×(3.90) 外面 ロクロ成形 内面 密なヘラミガキ	普	雲母・ 赤色粒 微	1/3	口縁及び体部 遺存
6	土師器 甕	-×7.80×(4.90) 外面 密なヘラミガキ	軟	石英少 赤色粒 微	1/2 底部	胴下端片遺存
7	土師器 坏	(5.80)×6.00×3.80 外面 ロクロ成形 体部下端-回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	普	雲母・ 赤色粒 微	1/2 底部及び 体部	
8	土師器 坏	(14.4)×7.60×4.20 外面 ロクロ成形 体部下端-回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形 粗いヘラミガキ	普	雲母・ 赤色粒 微	底部 及び 体部片	
9	土師器 坏	-×-×- 外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	普	雲母微	小破片	墨書 体部外面 「  」?

## A117

遺 構 ロームを踏み固めた床でしっかりしている。壁はロームの壁で掘り込みは浅いものの、ほぼ垂直に立ち上がる。C010と重複関係にあるが、本住居跡の方が新しい。竈は北壁ほぼ中央で検出されたものの、袖を検出することはできなかった。住居廃絶時に竈を壊したものと思われる。煙道部は緩やかに立ち上がっていく。住居跡の掘り込みが浅いことを考え合わせると、本来、煙道を長く掘り込むタイプの竈であったと考えられる。覆土は色調を基本に6層に分層。覆土中から若干の炭化物、焼土を検出しているが、概ね、自然堆積による埋没が想定される。

遺 物 全体としての出土量は少ないが、掘り込みが浅いためか、床面直上からの出土が多い。竈内から土師器の甕型土器が出土。

所 見 出土遺物から、奈良・平安時代の住居跡と判断した。







































































































































空撮 (1) 弥生時代中期 住居跡 A050 A051 A052



空撮 (2) 弥生時代中期 住居跡 A053 A054



空撮 (3) 弥生時代中期 方形周溝墓 C004 C005 C006 C007 C008 C009



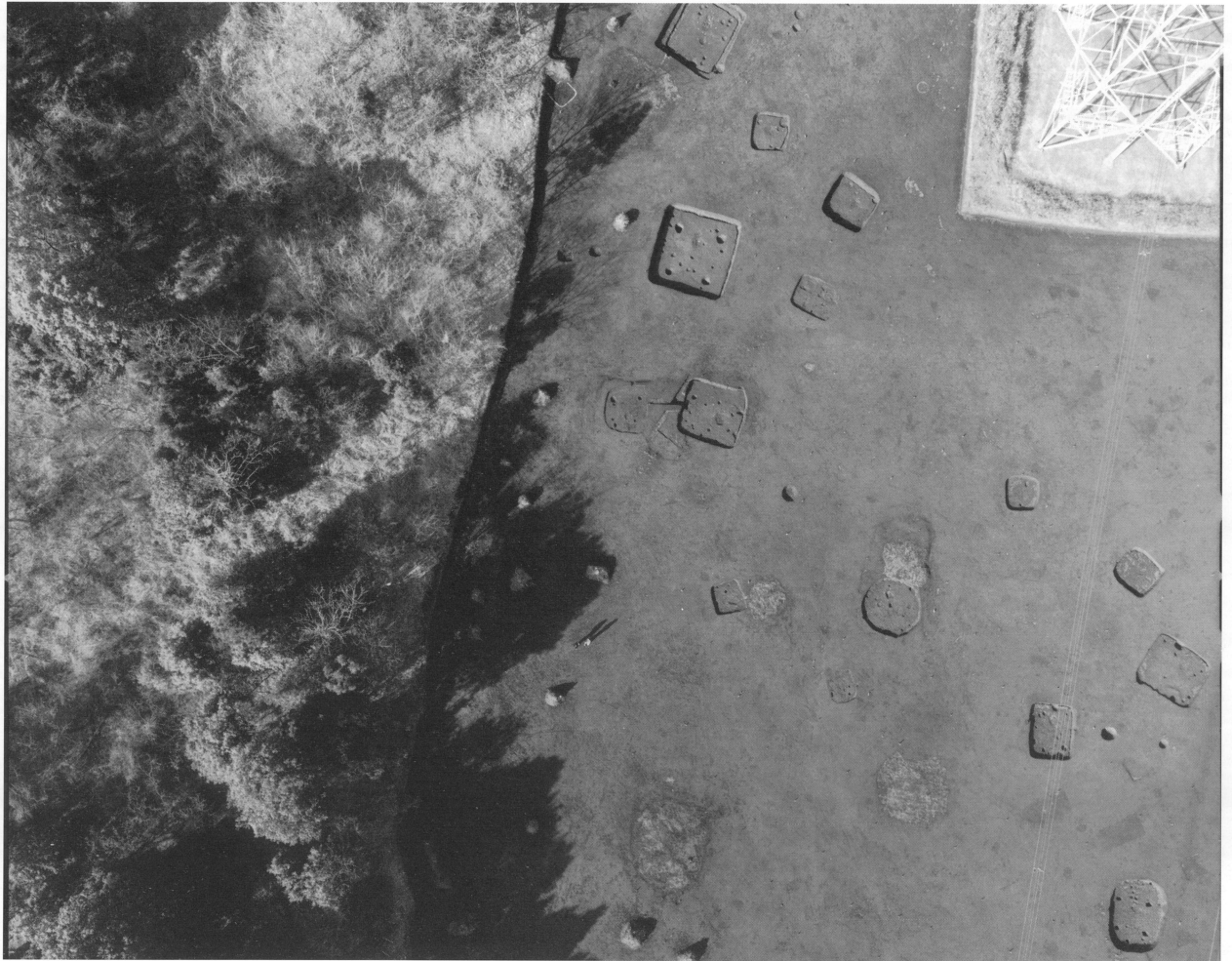
空撮 (4) 弥生時代中期 方形周溝墓 C011 C012 C013 C014



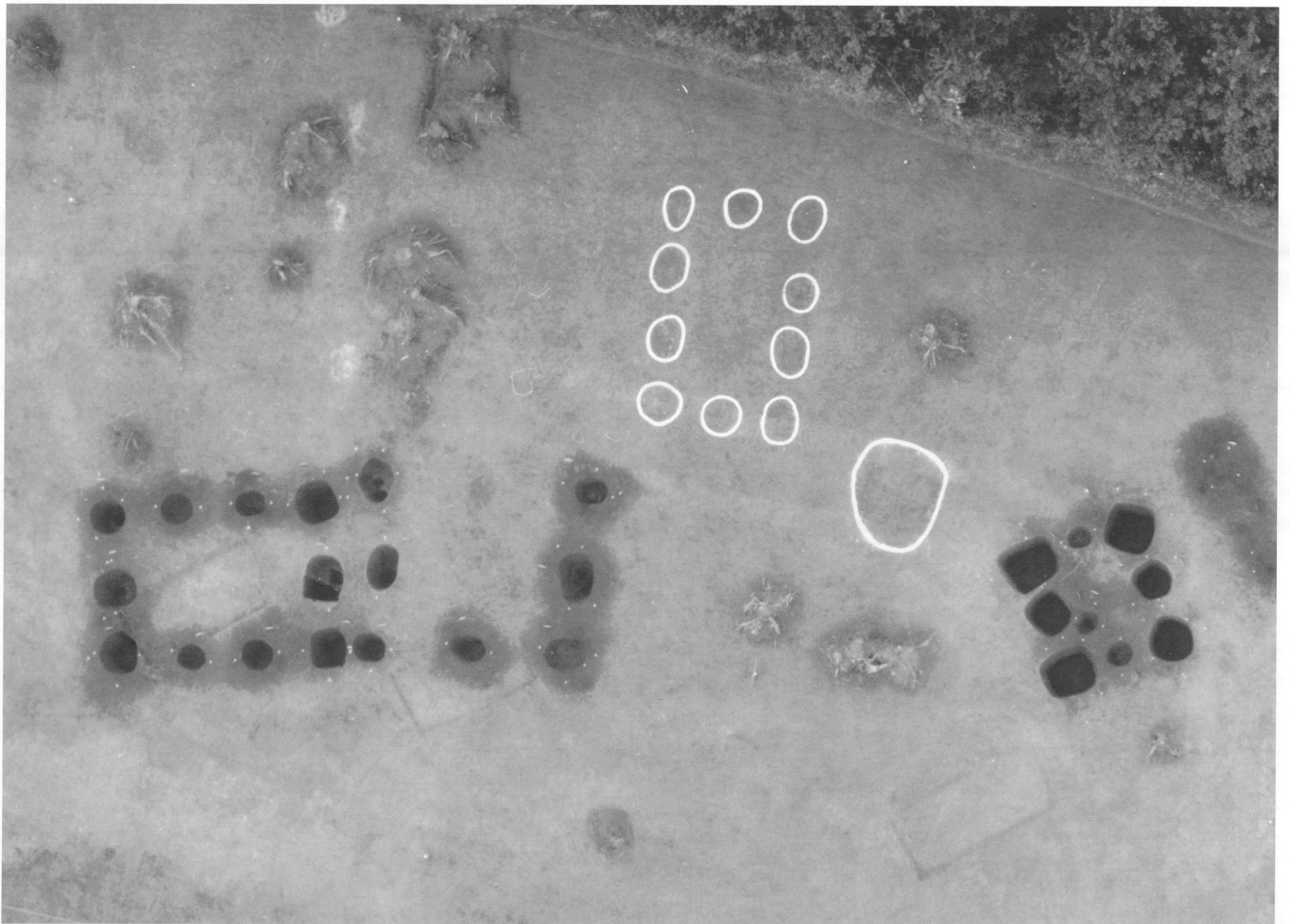
空撮 (5) 弥生時代後期 住居跡



空撮 (6) 弥生時代後期 住居跡



空撮 (7) 古墳時代前期 住居跡



空撮 (8) 奈良 平安時代 掘立柱建物跡





空撮 (9) 奈良 平安時代 掘立柱建物 その他



調査前現況



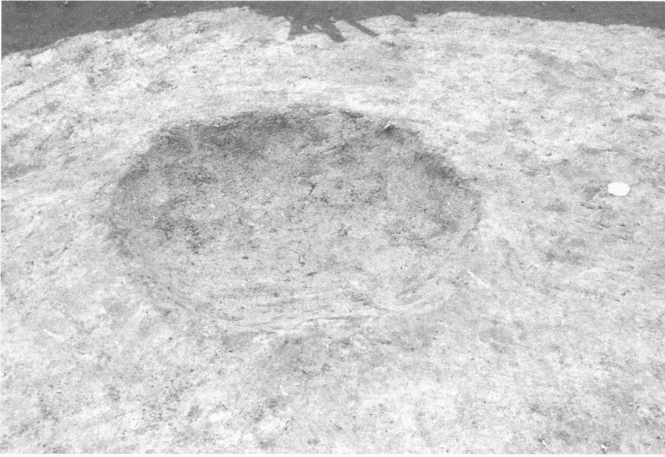
プラン検出状況 (1)



プラン検出状況 (2)



プラン検出状況 (3)



F023



F024



F025



D034



D035



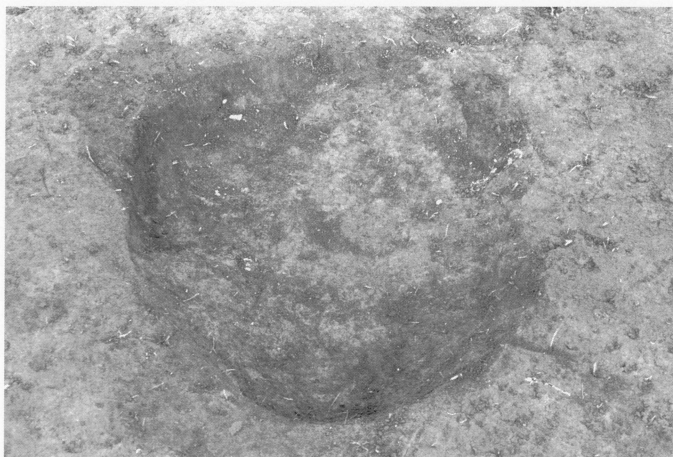
D036



D037



D038



D039



D040



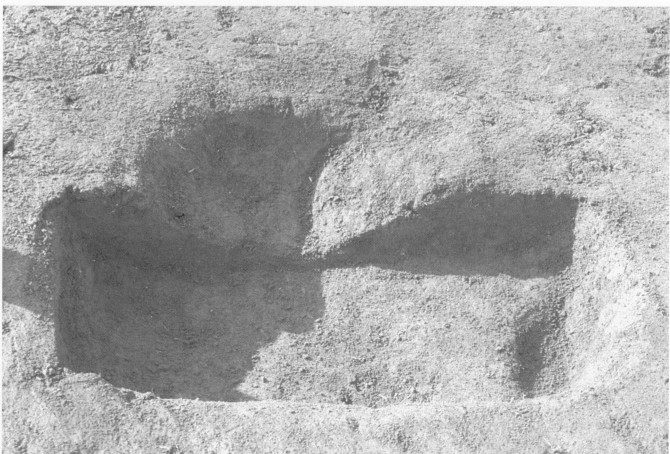
D041



D042



D043



D044



A050



A051